

おだて  
尾立第2遺跡

Odate 2 Site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書57

2008

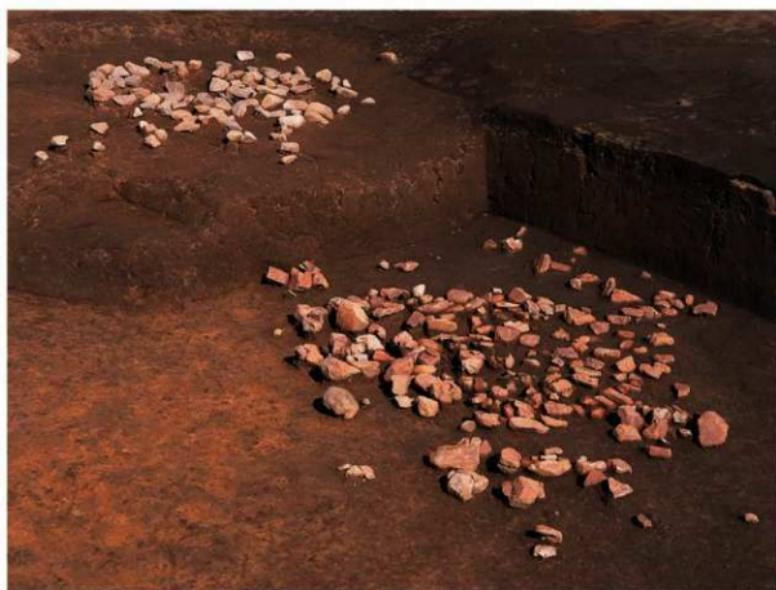
宮崎県埋蔵文化財センター



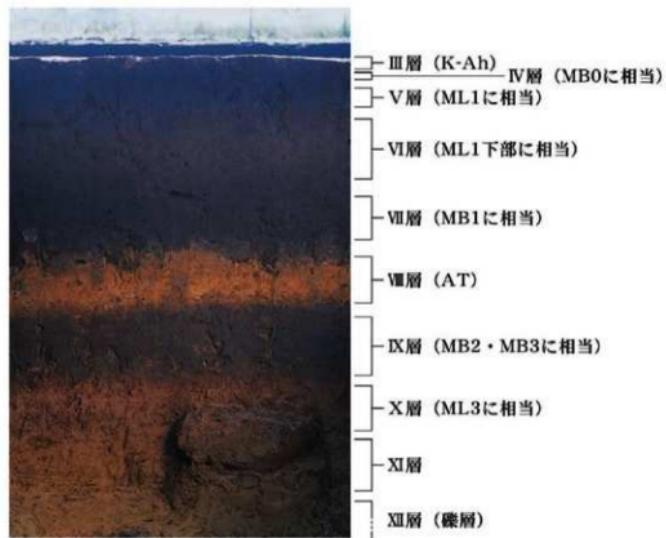
尾立第2遺跡より尾鈴連山をのぞむ



IX層B9Gr出土 石器製作ブロック出土遺物



砾群と集石遺構



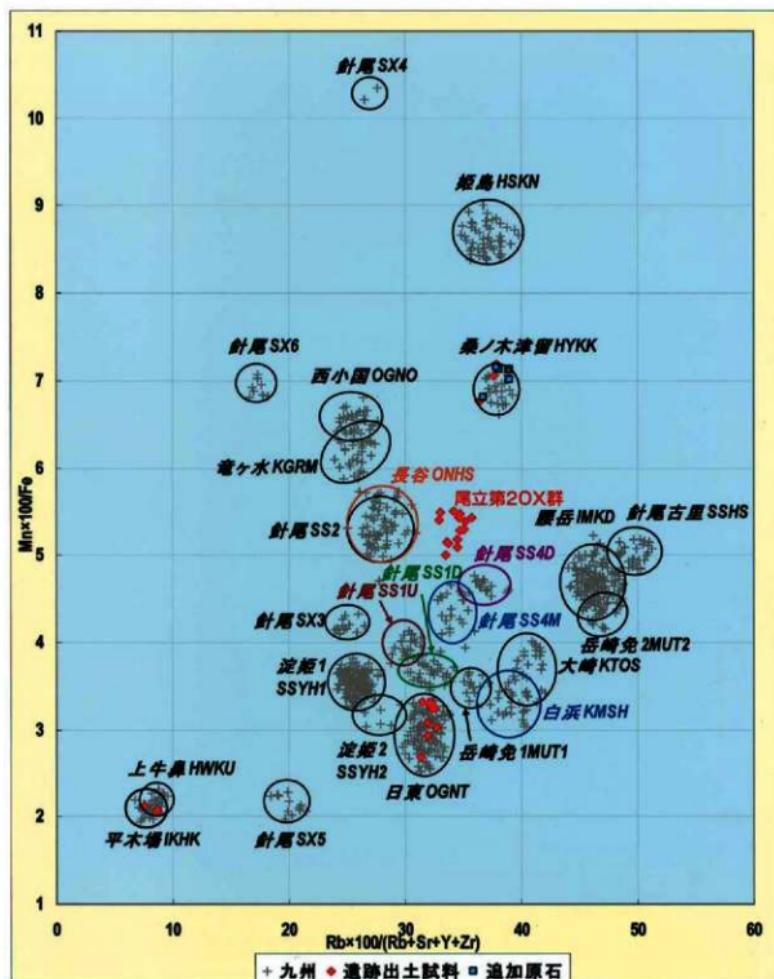
K3 グリッド壁面土層堆積状況



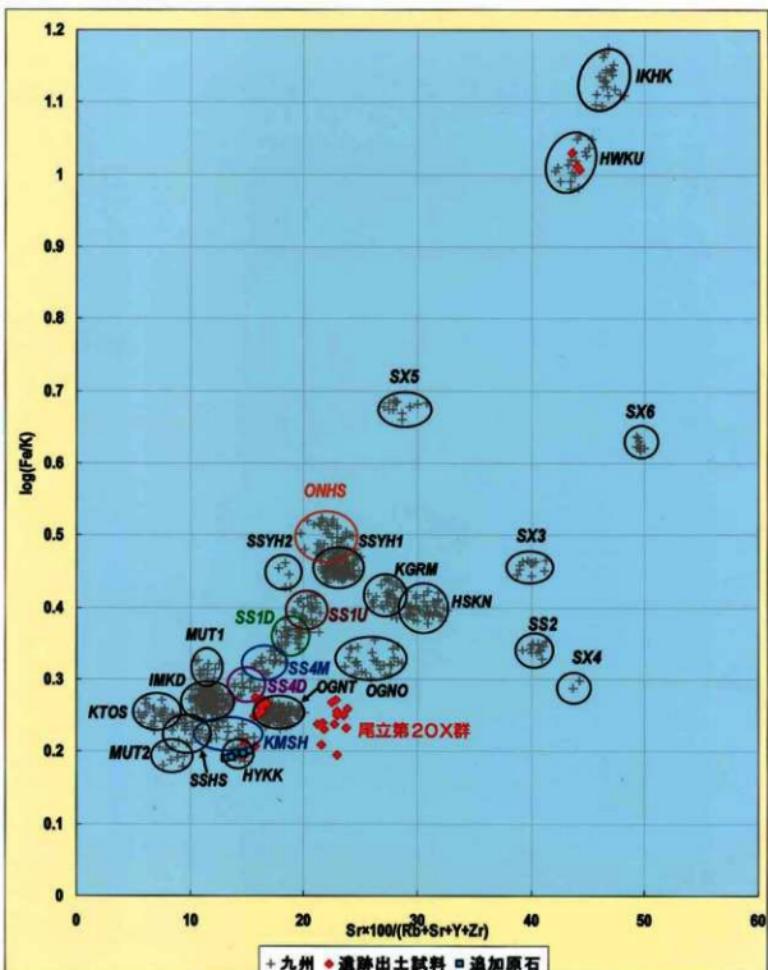
尖底の貝穀文系土器（掲載番号578）



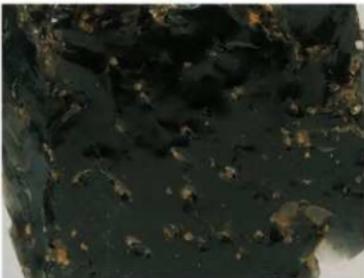
不明遺構（SZ1）出土の弥生土器



尾立第2遺跡出土黒曜石产地判別図1



尾立第2遺跡出土黒曜石産地判別図 2



黒曜石③類（日東系）



黒曜石①類（桑ノ木津留系）



黒曜石②・⑤類（尾立第2OX群）



黒曜石④類（上牛鼻系）



# 序

宮崎県教育委員会では、平成11年度から東九州自動車道（都農～西都間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を実施しており、本書はその発掘調査報告書です。

本書に掲載した尾立第2遺跡は、平成17年から平成18年にかけて発掘調査が行われ、後期旧石器時代の石器群や礫群、縄文時代早期の土器や石鎌、集石遺構等が確認されました。また、弥生時代や近世の遺構・遺物も確認され、当地域が長い期間利用されていたことが発掘調査により明らかになりました。

ここに報告する内容は、今後、当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料となるだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、ならびに御指導・御助言を賜った先生方に対して、厚く御礼申し上げます。

平成20年2月

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 清野 勉

## 例　　言

- 1 本書は平成17年度に実施した、東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う尾立第2遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は日本道路公団から委託を受け宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。なお、日本道路公団は平成17年10月1日より分割民営化され、西日本高速道路株式会社九州支社となったが、本報告書では日本道路公団として記載する。
- 3 本遺跡は、調査時は町道を挟み「朝倉遺跡」と「尾立第2遺跡」と呼称していたが、「朝倉」という地名はこの地域にみられず、字名も湯牟田、俵石、竈ヶ平である。遺跡の所在は「都農町遺跡詳細分布調査報告書」によると遺跡番号1010・1011「尾立遺跡」の範囲内となっており、今回の報告に際し遺跡名を「尾立第2遺跡」に変更する。なお、文書・記録類はすべて「朝倉遺跡」となっている。
- 4 現地での実測図等の記録は安藤利光、山田洋一郎、岸田裕一、福田宏光、石津晴菜を中心に行った。
- 5 現地での写真撮影は岸田が行った。また、遺物写真は牛島茂氏（奈良文化財研究所）、竹田亨志、今塙屋毅行の協力・助言を得て岸田が行った。
- 6 尾立第2遺跡では空中写真撮影を(有)スカイサーバイ九州に、測量杭設置を(株)新藤測量設計事務所に、自然科学分析を(株)古環境研究所に委託して行った。なお、第V章に掲載した自然科学分析の成果は、成果報告に若干体裁を替えて掲載した。
- 7 遺構・遺物の実測図作成は、整理作業員の補助を得て岸田が行った。また、石器実測図及びトレースの一部は、(株)九州文化財研究所に委託した。
- 8 本書に利用した周辺遺跡分布図は国土地理院発行の1/50,000図（都農）を利用した。また、遺跡周辺地形図は土地分類基本調査図（都農）を、遺跡周辺地形図等は日本道路公団宮崎工事事務所提供的1/2,000図を基に作成した。
- 9 土層断面、遺構埋土の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局／監修の『新版標準土色帖』に拠った。
- 10 本書で用いた標高は海拔絶対高である。また方位は座標北(G.N.)を基本とするが、遺構実測図などの一部に磁北(M.N.)を用いた。
- 11 本書で用いた遺構・火山灰の略号は、次のとおりである。  
SC：土坑 SI：礫群・集石遺構 SX：石組遺構 SZ：不明遺構  
K-Ah：鬼界アカホヤ火山灰 Kr-Kb：霧島小林軽石 AT：姶良Tn火山灰
- 12 遺物実測図の縮尺は、石器1/2（IV章第7節のみ2/3で等一）、縄文土器1/3、弥生土器1/4と統一した。  
また、遺構実測図においても礫群・集石遺構、土坑、不明遺構を1/30、石組遺構を1/40としている。
- 13 本書の執筆・編集は岸田が行った。
- 14 出土遺物および諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

## 本文目次

第Ⅰ章はじめに	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第Ⅱ章立地と環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第Ⅲ章調査の経過と方針	
第1節 確認調査の概要	9
第2節 発掘調査の経過	12
第3節 整理作業の経過	13
第4節 普及活動	13
第Ⅳ章調査の記録	
第1節 基本層序	14
第2節 遺物包含層の認識	19
第3節 石材の分類基準	20
第4節 後期旧石器時代Ⅰ期	21
第5節 後期旧石器時代Ⅱ期	21
第6節 後期旧石器時代Ⅲ期	37
第7節 後期旧石器時代Ⅳ期	76
第8節 縄文時代早期の遺構と遺物	87
第9節 弥生時代の遺構と遺物	111
第10節 その他の遺構と遺物	117
第Ⅴ章自然科学分析の成果	
第1節 土層とテフラ	119
第2節 放射性炭素年代測定	124
第3節 蛍光X線分析（黒曜石産地推定）	126
第4節 種実同定	128
第VI章まとめ	
第1節 後期旧石器時代	129
第2節 縄文時代早期	133

## 挿図目次

第1図 尾立第2遺跡および東九州自動車道 （都農～西都間）周辺遺跡の位置図	2
第2図 林用軌道路線図	5
第3図 周辺遺跡分布図	6
第4図 周辺地形断面図	6
第5図 周辺地形分類図	8
第6図 確認調査出土遺物実測図	9
第7図 遺跡周辺地形図	10
第8図 グリッド配置図	10
第9図 確認トレンチ配置図	11
第10図 尾立第2遺跡基本土層図	14
第11図 層位別遺物出土状況	15
第12図 IV層・V層遺物出土状況	16
第13図 VI層・VII層遺物出土状況	17
第14図 土層堆積状況	18
第15図 後期旧石器時代Ⅰ期石器実測図	23
第16図 後期旧石器時代Ⅱ期石器分布図	25
第17図 ブロックA石器分布図	26
第18図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（1）	26
第19図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（2）	27
第20図 ブロックB石器分布図（器種）	28
第21図 ブロックB石器分布図（石材）	29
第22図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（3）	30
第23図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（4）	31
第24図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（5）	32
第25図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（6）	33
第26図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（7）	34
第27図 Ⅱ期礫群実測図	34
第28図 後期旧石器時代Ⅲ期石器分布図	40
第29図 Ⅲ期石器接合状況	41
第30図 Ⅲ期礫群実測図	42
第31図 ブロックD石器分布図（器種）	46
第32図 ブロックD石器分布図（石材）	47
第33図 ブロックE石器分布図（器種）	48
第34図 ブロックE石器分布図（石材）	49
第35図 ブロックF石器分布図（器種）	50
第36図 ブロックF石器分布図（石材）	51
第37図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図（1）	52
第38図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図（2）	53

第39図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(3) ..... 54	第79図 縄文時代早期石器実測図(4) ..... 104
第40図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(4) ..... 55	第80図 縄文時代早期石器実測図(5) ..... 105
第41図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(5) ..... 56	第81図 縄文時代早期石器実測図(6) ..... 106
第42図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(6) ..... 57	第82図 塊状耳飾実測図 ..... 107
第43図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(7) ..... 58	第83図 SZ1実測図 ..... 112
第44図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(8) ..... 59	第84図 SZ1出土弥生土器実測図(1) ..... 112
第45図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(9) ..... 60	第85図 SZ1出土弥生土器実測図(2) ..... 113
第46図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(10) ..... 61	第86図 SZ1'土層断面図 ..... 115
第47図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(11) ..... 62	第87図 鉤・ヘリ実測図 ..... 117
第48図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(12) ..... 63	第88図 SX1実測図 ..... 118
第49図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(13) ..... 64	第89図 弥生時代以降遺構分布図 ..... 118
第50図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(14) ..... 65	第90図 K3グリッド土層柱状図 ..... 123
第51図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(15) ..... 66	第91図 K3グリッド下部の火山ガラス比ダイヤグラム ..... 123
第52図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(16) ..... 及び日東産黒曜石分布図 ..... 67	第92図 試料5 暗年代較正曲線図 ..... 125
第53図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(17) ..... 68	第93図 桑ノ木津留産黒曜石産地と消費遺跡 ..... 131
第54図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(18) ..... 69	第94図 分析試料追加原石採取地 ..... 132
第55図 細石刃打面幅・厚相関図 ..... 76	
第56図 後期旧石器時代Ⅳ期石器分布図 ..... 77	
第57図 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(1) ..... 78	表 目 次
第58図 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(2) ..... 79	
第59図 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(3) ..... 80	第1表 周辺遺跡地名表 ..... 7
第60図 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(4) ..... 81	第2表 石器石材分類表 ..... 20
第61図 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(5) ..... 82	第3表 Ⅱ期接合資料剥離工程表 ..... 24
第62図 縄文時代早期遺構分布図 ..... 89	第4表 I期・Ⅱ期石器観察表 ..... 35
第63図 集石遺構実測図(1) ..... 90	第5表 Ⅲ期縄群観察表 ..... 42
第64図 集石遺構実測図(2) ..... 91	第6表 グリッド別器種分類表 ..... 43
第65図 集石遺構実測図(3) ..... 92	第7表 Ⅲ期石器観察表 ..... 70
第66図 集石遺構実測図(4) ..... 93	第8表 Ⅲ期接合資料剥離工程表 ..... 75
第67図 集石遺構実測図(5) ..... 94	第9表 Ⅳ期石器観察表 ..... 84
第68図 集石遺構実測図(6) ..... 95	第10表 Ⅳ期接合資料剥離工程表 ..... 86
第69図 土坑実測図 ..... 96	第11表 集石遺構観察表 ..... 88
第70図 縄文時代早期土器実測図(1) ..... 98	第12表 土坑観察表 ..... 96
第71図 縄文時代早期土器実測図(2) ..... 99	第13表 縄文土器観察表 ..... 108
第72図 縄文時代早期石器実測図(1) ..... 100	第14表 縄文時代石器観察表 ..... 109
第73図 玉髓製石器分布図 ..... 100	第15表 弥生土器観察表 ..... 116
第74図 縄文時代早期石器実測図(2) ..... 101	第16表 火山ガラス比分析結果表 ..... 122
第75図 チャート製石器分布図 ..... 101	第17表 重鉛物組成分析結果表 ..... 122
第76図 縄文時代早期石器実測図(3) ..... 102	第18表 屈折率測定結果表 ..... 122
第77図 その他の石器分布図 ..... 102	第19表 試料と方法 ..... 124
第78図 縄文時代早期土器・石器分布図 ..... 103	第20表 測定結果表 ..... 124
	第21表 尾立第2遺跡出土黒曜石の産地推定結果 ..... 127

# 図版目次

## 巻頭図版

- 巻頭図版1 尾立第2遺跡より尾鈴連山をのぞむ  
巻頭図版2 IX層B9Gr出土 石器製作ブロック出土遺物  
巻頭図版3 稲群と集石遺構  
K3Gr壁面土層堆積状況  
巻頭図版4 尖底の貝殻文系土器（掲載番号578）  
巻頭図版5 不明遺構（SZ1）出土の弥生土器  
巻頭図版6 尾立第2遺跡出土黒曜石産地判別図（1）  
巻頭図版7 尾立第2遺跡出土黒曜石産地判別図（2）  
巻頭図版8 旧石器時代の使用石材：黒曜石①類  
旧石器時代の使用石材：黒曜石③類  
旧石器時代の使用石材：黒曜石②・⑤類  
旧石器時代の使用石材：黒曜石④類

## 巻中写真図版

- 写真1 尾立第2遺跡とトロッコ道 ..... 5  
写真2 旧祠堂跡 ..... 5  
写真3 整理作業：石器実測風景 ..... 13  
写真4 整理作業：縁接合風景 ..... 13  
写真5 都農町遺跡報告会展示風景 ..... 13  
写真6 SZ1検出状況（南西より撮影） ..... 114  
写真7 SZ1'半截状況（B-B'） ..... 114  
写真8 種実写真 ..... 128

## 巻末図版

- 図版1 遺跡遠景（北西より） ..... 137  
V層検出状況 ..... 137  
図版2  
3 壁層（AT面）検出状況 ..... 138  
4 壁層（AT）除去後の地形 ..... 138  
図版3  
5 IX層出土 ブロックA検出状況 ..... 139  
6 土坑検出状況 ..... 139  
図版4  
7 SI18検出状況 ..... 140  
8 ブロックAとSI18 ..... 140  
9 SI30検出状況 ..... 140  
10 SI23検出状況 ..... 140  
11 SI27検出状況 ..... 140  
12 遺物出土状況（B9Gr・B10Gr） ..... 140  
13 SI44・45検出状況 ..... 140  
14 SI55・56検出状況 ..... 140  
図版5  
15 K-Ah堆積状況 ..... 141  
16 調査B区 V層遺物出土状況 ..... 141  
17 SI38検出状況 ..... 141  
18 SI38検出層 ..... 141  
19 SI41検出状況 ..... 141  
20 VI層石器出土状況 ..... 141  
21 SI33検出状況 ..... 141  
22 SI53検出状況 ..... 141  
図版6  
23 SI34検出状況 ..... 142  
24 SI34配石検出状況 ..... 142  
25 SI1検出状況 ..... 142  
26 SI1半截状況 ..... 142  
27 SI3検出状況 ..... 142  
28 SC3検出状況 ..... 142  
29 SC3断ち割り状況 ..... 142  
30 SC7・8完掘状況 ..... 142

## 図版 7

31 SZ1半截状況	143
32 SZ1遺物出土状況	143
33 弥生土器検出状況	143
34 SZ1完掘状況	143
35 SX1半截状況	143
36 SX1完掘状況	143
37 SX1石組除去状況	143
38 SE1完掘状況	143

## 図版 8

39 後期旧石器時代Ⅰ期の石器	144
40 後期旧石器時代Ⅱ期の石器（1）	144
41 後期旧石器時代Ⅱ期の石器（2）	144
42 後期旧石器時代Ⅱ期の石器（3）	144
43 後期旧石器時代Ⅱ期の石器（4）	144
44 後期旧石器時代Ⅱ期の石器（5）	144
45 後期旧石器時代Ⅲ期の石器（1）	144
46 後期旧石器時代Ⅲ期の石器（2）	144

## 図版 9

47 後期旧石器時代Ⅲ期の石器（3）	145
48 後期旧石器時代Ⅲ期の石器（4）	145
49 後期旧石器時代Ⅲ期の石器（5）	145
50 後期旧石器時代Ⅲ期の石器（6）	145
51 後期旧石器時代Ⅲ期の石器（7）	145
52 後期旧石器時代Ⅲ期の石器（8）	145
53 後期旧石器時代Ⅲ期の石器（9）	145
54 後期旧石器時代Ⅲ期の石器（10）	145

## 図版10

55 後期旧石器時代Ⅲ期の石器（11）	146
56 後期旧石器時代Ⅲ期の石器（12）	146
57 後期旧石器時代Ⅲ期の石器（13）	146
58 後期旧石器時代Ⅲ期の石器（14）	146
59 後期旧石器時代Ⅳ期の石器（1）	146
60 後期旧石器時代Ⅳ期の石器（2）	146
61 後期旧石器時代Ⅳ期の石器（3）	146
62 後期旧石器時代Ⅳ期の石器（4）	146

## 図版11

63 純文時代早期の土器（1）	147
64 （裏）	147
65 純文時代早期の土器（2）	147
66 （裏）	147
67 純文時代早期の土器（3）	147
68 （裏）	147
69 純文時代早期の土器（4）	147

## 図版12

70 純文時代早期の石器（1）	148
71 純文時代早期の石器（2）	148
72 純文時代早期の石器（3）	148
73 純文時代早期の石器（4）	148
74 純文時代早期の石器（5）	148
75 純文時代早期の石器（6）	148
76 純文時代早期の石器（7）	148

## 図版13

77 SZ1出土弥生土器（1）	149
78 SZ1出土弥生土器（2）	149
79 SZ1出土弥生土器（3）	149
80 SZ1出土弥生土器（4）	149
81 SZ1出土弥生土器（5）	149
82 SZ1出土弥生土器（6）	149
83 SZ1出土弥生土器（7）	149
84 SZ1出土弥生土器（8・9）	149
85 SZ1出土弥生土器（10）	149

## 図版14

86 SZ1出土弥生土器（11）	150
87 SZ1出土弥生土器（12）	150
88 SZ1出土弥生土器（13）	150
89 SZ1出土弥生土器（14）	150
90 SZ1出土弥生土器（15）	150
91 SZ1出土弥生土器（16）	150
92 SZ1出土弥生土器（17）	150
93 SZ1出土弥生土器（18）	150

# 第Ⅰ章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

東九州自動車道延岡～清武間は平成元年に基本計画がなされ、平成9年3月に門川～西都間が整備計画区間となった。このうち都農～西都間は同年12月に建設大臣（現国土交通大臣）から日本道路公団へ施行命令が出され、翌年の2月から事業に着手している。その間、県教育委員会では、平成6年度に延岡～西都間の決定路線上の遺跡詳細分布調査を行い、それに基づき埋蔵文化財保護について関係機関と協議を重ねた結果、工事施工によって影響を受ける部分については工事着手前に発掘調査を実施することとなった。

調査は平成11年度から日本道路公団の委託を受け、宮崎県埋蔵文化財センターで行っている。なお、日本道路公団は分割民営化され、平成17年10月1日から西日本高速道路株式会社九州支社宮崎工事事務所・延岡工事事務所となった。

本遺跡は平成16年度に確認調査が実施され、後期旧石器時代および縄文時代の遺物が出土し、砾群や陥し穴らしき遺構が確認された。このため、遺構・遺物が分布すると想定される6,000m<sup>2</sup>を対象に発掘調査が実施されることとなった。

## 第2節 調査の組織

尾立第2遺跡の発掘調査・整理報告は以下の組織で実施した。

### 調査主体

宮崎県教育委員会

宮崎県埋蔵文化財センター

### （平成17年度）

所長	宮園 淳一
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫
総務課長	宮越 尊
主幹兼総務係長	石川 恵史
調査第一課長	高山 富雄
主幹兼調査第一係長	長津 宗重
主幹兼調査第二係長	菅付 和樹

### 調査担当

#### 調査第一係

主査	山田洋一郎
主事	岸田 裕一
調査員	福田 光宏

#### 調査第二係

調査員	石津 晴菜
-----	-------

### 整理担当

調査第一係	主事	岸田 裕一
-------	----	-------

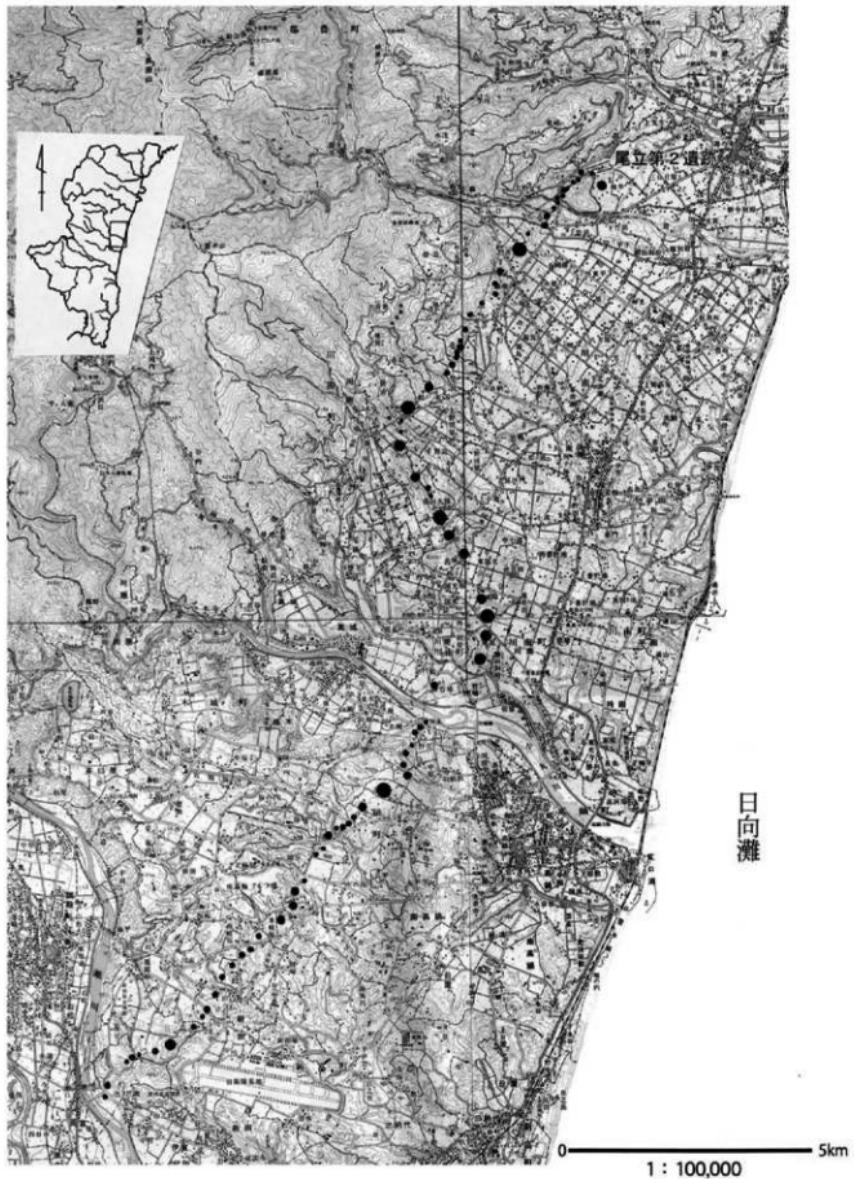
### （平成18年度）

所長	清野 勉
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫
副所長	加藤 悟郎
総務課長	宮越 尊
主幹兼総務課担当リーダー	高山 正信
調査第一課長	高山 富雄
主幹兼調査第一担当リーダー	長津 宗重
主幹兼調査第二担当リーダー	菅付 和樹
整理担当	
調査第一担当 主事	岸田 裕一

### （平成19年度）

所長	清野 勉
副所長	加藤 悟郎
総務課長	宮越 尊
主幹兼総務担当リーダー	高山 正信
調査第一課長	長津 宗重
副主幹兼調査第一担当リーダー	南中道 隆
主幹兼調査第二担当リーダー	菅付 和樹
整理担当	
調査第一担当 主事	岸田 裕一

調査指導（五十音順、敬称略、所属は平成17年当時）  
泉 拓良（京都大学）、小畑弘己（熊本大学）、田崎 博之（愛媛大学）、広瀬和雄（国立歴史民俗博物館）、  
本田道輝（鹿児島大学）、柳沢一男（宮崎大学）



第1図 尾立第2遺跡および東九州自動車道（都農～西都間）関連遺跡の位置図

## 第Ⅱ章 立地と環境

### 第1節 地理的環境

尾立第2遺跡は都農町大字川北字湯半田に所在する。遺跡が立地する都農町は宮崎県中央部よりやや北側、宮崎平野の北端に位置する。

町の北西には九州脊梁山脈から続く山々が連なり、標高1405.2mの尾鈴山がそびえている。この尾鈴連山東麓から流れ出る名貫川や都農川・心見川等の、幾度もの海進や海退によって、新しい扇状地が次々とつくられている。そして古い扇状地が開析されることによって、数段の河岸段丘が形成され、現在の地形となっている。

これらの段丘は、中期更新世に形成された上・中位段丘面と、最終氷期に形成された低位段丘面とに大きく区分される。

遺跡は川南町との境をなす名貫川左岸の台地上、標高約82mに位置する。遺跡が立地する中位段丘面（朝草原面）は宮崎平野部で、旧石器時代の遺跡が多く確認される国光原面や唐潮原面、新田原面と対比される。遺跡の西は開析谷となっており、遺跡を西側から眺望すると独立丘陵のような景観を呈している。遺跡からは尾立第3遺跡を遠望できる。

中位段丘面には起伏が少なく、その段丘崖付近に旧石器時代・縄文時代の遺跡が立地する。また、段丘下位の面からは尾鈴山酸性岩類を主とする拳大～径1m大の礫が約10mの厚さで堆積している。

遺跡北西に控える尾鈴山は、県内出身の歌人若山牧水が故郷を懐かし「ふるさとの尾鈴の山のかなしさよ秋もかすみのたなびきてをり」と詠んだように、地域の象徴であるとともに、本地域の地理・歴史を物語る上でも重要である。遺跡の立地する本町は、九州脊梁山脈から続く山々が尾鈴山でさらに高度を上げることで、寒風を遮り、さらに尾鈴山を越えた風がフェーン現象により、暖かい風となって吹き降りる。

発掘調査中も、尾鈴山の恩恵を受けた。尾鈴連山が雲に隠れはじめると雨が降り出す前兆であり、逆に曇っていても尾鈴山が雲に覆われず山の輪郭が見えている時には雨が降ることはほとんどなかった。

### 第2節 歴史的環境

尾立第2遺跡周辺は、多くの遺跡が周知されているが、発掘調査による遺跡の解明はほとんど行われていない。しかし、東九州自動車道建設に伴い、発掘調査が行われ、その成果は着実に増えつつある。

遺跡周辺には平成17年度東九州自動車道建設に伴う発掘調査の遺跡である、尾立第3遺跡・朝草原遺跡・立野第5遺跡・立野第2遺跡が立地する。上記の遺跡は直線距離で約1kmの範囲内に立地し、徒歩にして尾立第3遺跡・朝草原遺跡が約5分、立野第5遺跡が約20分の位置に立地する（第3図）。

#### 旧石器時代

旧石器時代の発掘調査は都農町では近年まで行われず、その存在は大野寅男氏採集資料「黒萩」出土の尖頭器<sup>(12)</sup>や、1987年の分布調査で又猪野原遺跡・京塚遺跡で採集された剥片のみであった。しかし、東九州自動車道建設に伴う発掘調査では本報告遺跡を始め尾立第3遺跡・朝草原遺跡・立野第5遺跡・立野第2遺跡で、それぞれA T下位から上位にかけて旧石器時代の遺構・遺物が確認されている。特に立野第5遺跡ではA T直下より環状ブロック群の可能性を示す遺物の出土が報告されている。

#### 縄文時代

縄文時代になると、遺跡は標高20m以上の高地に立地する傾向にある。開析谷によって形成された河川や、その支流に近い台地上に、遺跡が立地し、そのほとんどが早期に位置づけられる。縄文時代の集石造構に用いられる礫は、ほぼ全てが尾鈴山酸性岩類で構成され、蔽石や磨石などにも同石材の利用が確認されている。また、朝草原遺跡では草創期と考えられる尖底の無文土器が細石刃石器群と共に出土したと報告されている。後期の遺跡は、数少ないが新別府下原遺跡から貝殻条痕文土器や磨製石斧等が、新別府川原遺跡では竪穴住居跡が1軒検出されている。

## 弥生時代

発掘調査が行われた遺跡には、弥生中期から終末期に新別府下原遺跡、後期後に境ヶ谷第一遺跡、後期に白水遺跡の集落跡がある。新別府下原遺跡では竪穴住居跡や周溝状造構などの遺構と共に、多数の壺・壺が出土している。調査区外からも竪穴住居跡が調査により確認されることから遺跡の範囲はさらに広がるものと考えられる。他に瀬戸内系の土器が出土した森遺跡でも住居跡が検出されている。また、名貫川対岸に位置する川南町所在の八幡第2遺跡では、後期の住居跡が調査されている。

これらの調査成果から、いくつかの集落遺跡が存在し、人の生活・活動などがわかるものの、集落規模は通時的小規模である。

## 古墳時代

海岸部を中心に12基の県指定古墳がある。前方後円墳2基、円墳10基で、積石塚であること特に特徴がある。内部主体や副葬品等は不明であるが、積石塚は県内では珍しく、都農町に集中して築造されている。海岸部以外では、新別府川原、木戸平、舟川中原に円墳が1基ずつ確認されている。

## 古代～近世

古代以降の遺跡は都農町では確認されていない。しかし、律令体制の時期、町内は大宰府と日向国府を結ぶ官道が通り、駅が設けられた要衝の地であった。都農に比定される「去飛」駅の存在が知られるが、詳細な位置は、未だ明らかになっていない。また、日向国は昔から馬の名産地として知られる。「延喜式」には馬牧の「都濃野」の記述があり、現在の都農を指している可能性もある。さらに、日向国の式内社の1つである都農神社は日向一ノ宮ともいわれ著名である。このように、都農町は日向国府の近くにあり、奈良～平安時代にかけ日向国的主要な役割を担った地域である。

中世から近世になると、町内には山丘頂部に平坦地がみとめられる城郭平や、空堀が確認される鍛冶屋敷で山城関連の遺跡が確認されている<sup>(13)</sup>。

## 近代以降（トロッコ列車の記憶）

都農町は山林がその面積の3分の2を占め、そのほとんどが国有林である。本町では林業が盛んで、当時の面影が至る所に残る。国有林の伐採が本格的にはじまつたのは明治42（1909）年からで、当初木馬道が敷かれ、木材はトロッコ列車に乗せ出荷された。翌年には木軌道、大正4年には鉄軌道となって、同13年尾鈴山から都農駅までの全長50kmが開通した。軌道は最高海拔800m、尾鈴山から大師山の北を抜け、本遺跡が挟む町道を抜け、都農駅まで続く。林用軌道を走るトロッコ列車は木材運搬だけではなく、病人の急送、日用品・食糧の買い出し、通学等の移動手段に利用され、住民の交通手段の1つとなっていた。昭和30年、トロッコより急勾配が登れる上、道路は軌道より作り易いことからトラックへと木材運搬が変わり、昭和33（1958）年に魔隕となつた。

本遺跡周辺を踏査したところトロッコ道の面影を残す祠堂の跡がみとめられた（写真1・2）。当時はここに林用軌道の交通安全を祈願する碑が建立されていたと地域の住民は記憶しているが、現在は近隣に移転されている。

## 文献

- 1 宮崎県埋蔵文化財センター『銀座第1遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター報告書第120集 2006
- 2 宮崎県埋蔵文化財センター『八幡第2遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター報告書第148集 2007
- 3 宮崎県埋蔵文化財センター『立野第5遺跡・立野第2遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター報告書第156集 2007
- 4 都農町『都農町史 通史編』1998
- 5 都農町教育委員会『新別府下原遺跡』都農町文化財調査報告書第3集 1990
- 6 宮崎県埋蔵文化財センター『朝草原遺跡・尾立第3遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター報告書第146集 2007
- 7 都農町教育委員会『森遺跡』都農町文化財調査概要報告書第5集 1993
- 8 都農町教育委員会『黒石遺跡』都農町文化財調査報告書第4集 1992
- 9 都農町教育委員会『都農町遺跡詳細分布調査報告書』1988
- 10 宮崎県教育委員会『東九州自動車道間違遺跡詳細分布調査報告書2』1995
- 11 宮崎県農政水産部農業振興課『土地分類基本調査都農』1984
- 12 茂山謙・大野寅男『鬼湯郡下の旧石器』『宮崎考古』3号 1977
- 13 宮崎県教育委員会『南九州城郭談話会』『宮崎県中近世城跡緊急分布調査報告書II 詳細編』1999



#### 作業員話

K氏（男性58歳）：轟から運輸合会などの荷物に乗って行った。乗らないときは歩いて学校まで行っていた。枕木がじきまで行くのが大変だった。トロッコの距離はレールの軸が駅から上を歩くのが大変だった（子供の遊び、バランスとり）。

K氏（男性59歳）：トロッコが通ると興味でみていて楽しかった。然りその日は早く帰らないといけないから朝早くトロッコで下った（学校に間に合わせる為）。野木場側に学校があった。轟から1時間前に1台ずつトロッコを派出していた。午前中は利用しないから個人が使っていた。丸太の上にもトロッコが走っていた。

K氏（男性59歳）：乗ったときの悪い点として例挙。子供は思わずわーっと声を出す。来なき人が嫌いない。ジェットコースターに乗っているようなもの。

H氏（女性60歳）：乗ったときの悪い点として例挙。自分の近所から材木場が近く、トロッコを借りて近所まで引っこ張り、勾配の落ちる方に乗って遊んだ。ディーゼルが引っこ張る騒音は結構（△角屋根）を引っ張っていた。父が勝っ払らった母に乗っていた。馬の糞に踏み込むのが三番あつ。最近も後ろ足にも馬が踏み込んだ。散歩した際を画面馬の足に見て、糞を馬の足に打ち込んでいた。材木は2mくらい積んでいた。

K氏（男性58歳）：10号機はトロッコ便だ。車が一旦停む。トロッコが走っている際材木職員は笛を吹いてトロッコが通ることを知らせる。そのころは車が少なかった。

#### 尾立第2遺跡

#### 軒木場

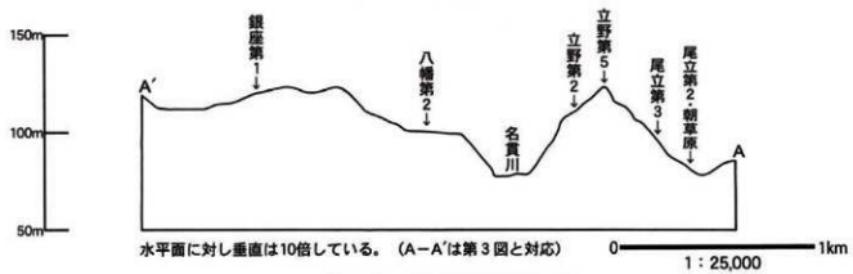
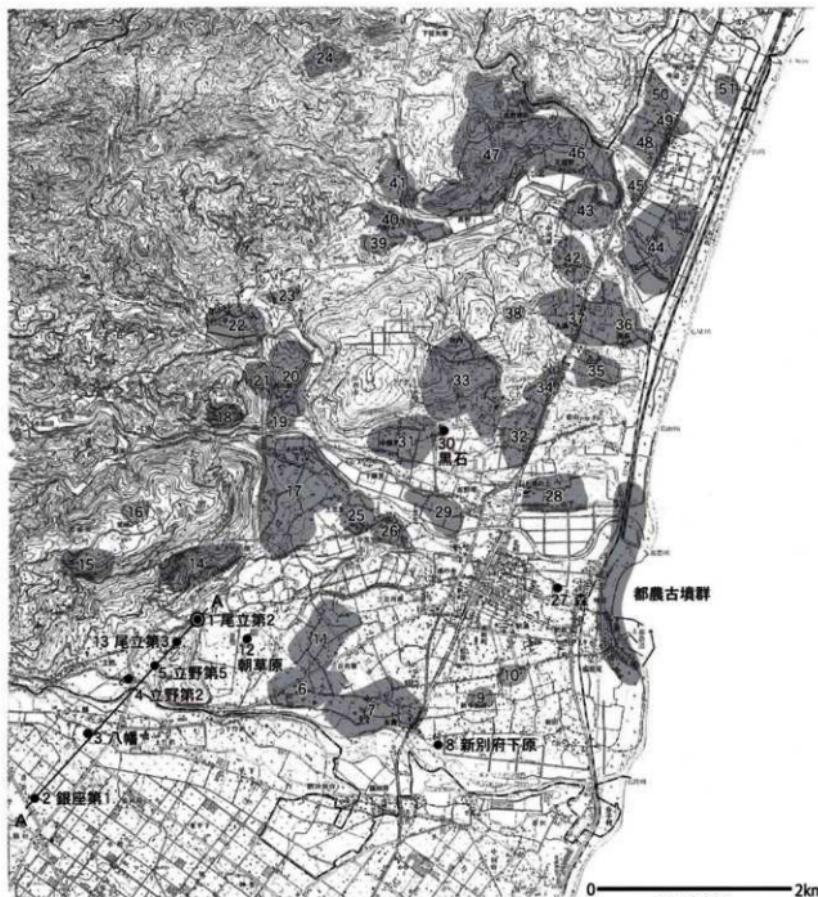
第2図 林用軌道路線図（大日本帝国陸地測量部 昭和15年発行を加工）



写真1 尾立第2遺跡とトロッコ道  
(白線範囲がトロッコ軌道)



写真2 旧祠堂跡

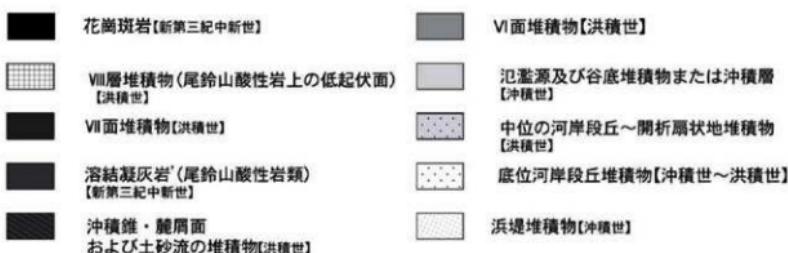
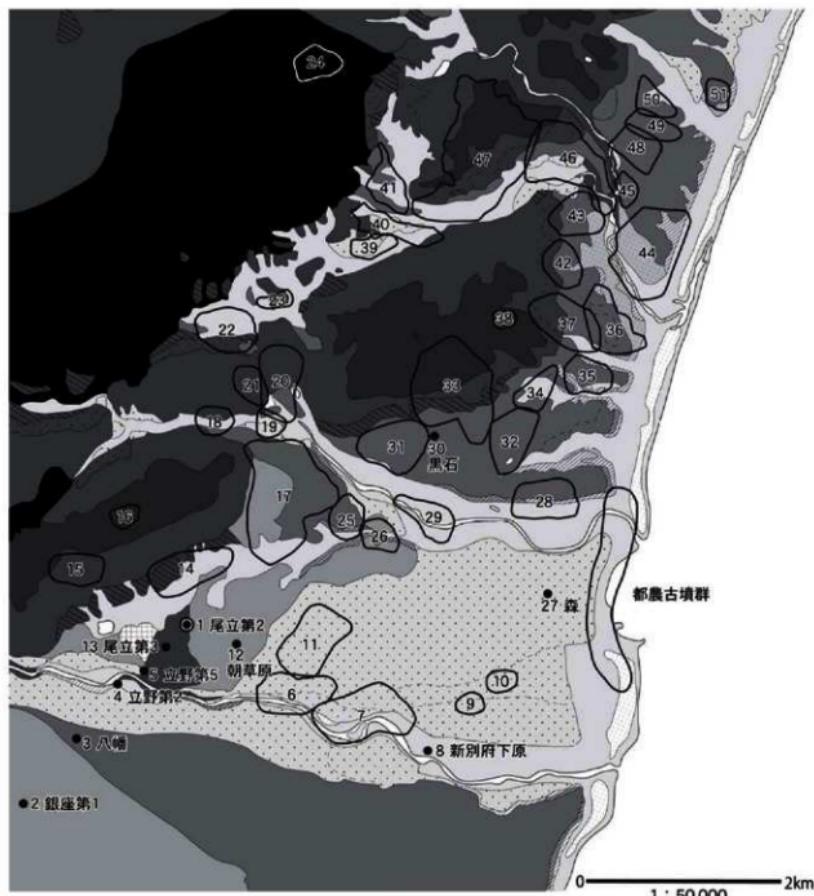


第4図 周辺遺跡地形断面図

第1表 周辺遺跡地名表

遺跡No.	分布調査番号 報告書刊行年	遺跡名	所在地	時期	文献
1	※	尾立第2遺跡	大字川北字湯牟田・巖石・	旧石器・縄文(早期)・弥生・近世	-
2	※	銀座第1遺跡	大字川南字前田・香袋塙	旧石器・縄文(早期)・弥生・中世～近世	1
3	※	八幡第2遺跡	大字川南字八幡山	縄文(草創期)・弥生	2
4	※	立野第2遺跡	大字川北字竜ヶ平	旧石器・縄文(早期)	3
5	※	立野第3遺跡	大字川北字竜ヶ平	旧石器・縄文(草創期・早期)	3
6	1006	下原遺跡	大字川北字下原	縄文	9
7	※	新別府川原遺跡	大字川北	弥生・古墳	4
8	※	新別府下原遺跡	大字川北	縄文(後)・弥生・古墳	5
9	1003	新別府遺跡	大字川北字新別府		9
10	1004	新別府肥跡	大字川北字新別府肥		9
11	1015	榎木土手塚跡	大字川北字榎木土手	弥生・古墳	9
12	※	朝草原遺跡	大字川北字朝草原	旧石器・縄文(草創期・早期)	6
13	※	尾立第3遺跡	大字川北字尾立	旧石器・縄文(早期)	6
14	1012	俵石第2遺跡	大字川北字俵石	弥生・古墳	9
15	1017	蒼生尾立第1遺跡	大字川北字蒼生尾立		9
16	1018	蒼生尾立遺跡	大字川北字蒼生尾立		9
17	1019-1023・ 1024-1025	馬場口遺跡	大字川北字馬場口・鹿牟田・木戸平・ 上原・後半田・南半田・中原原	縄文・弥生・古墳	9
18	2018	井手平遺跡	大字川北字井手ヶ平		9
19	2005	川神田遺跡	大字川北字川神田	縄文・弥生	9
20	2007	西ノ原第2遺跡	大字川北字西ノ原	古墳	9
21	2006	西ノ原第1遺跡	大字川北字西ノ原	縄文・弥生	9
22	2008	平山遺跡	大字川北字平山・大丸	縄文・弥生・古墳	9
23	-	下原遺跡	大字川北字下原・寺下・宮原	中世	10
24	3011	舟川尾立遺跡	大字川北字舟川尾立	弥生	9
25	1022	鹿牟田遺跡	大字川北字鹿牟田		9
26	1021	鍛冶屋敷遺跡	大字川北字鍛冶屋敷	弥生・古墳・中世(城跡)	9
27	※	森遺跡	大字川北字森		7
28	2001	中原遺跡	大字川北字中原		9
29	2002	師匠田遺跡	大字川北字師匠田	弥生	9
30	※	黒石遺跡	大字川北字黒石		8
31	2003	京塚遺跡	大字川北字京塚見尾ノ下	旧石器・縄文・弥生・古墳	9
32	※	境ヶ谷第1遺跡	大字川北字境ヶ谷	弥生・古墳	9
33	2009	白木遺跡	大字川北字白木・尾ノ下	弥生・古墳	9
34	2011	境ヶ谷第2遺跡	大字川北字境ヶ谷・白石	弥生・古墳	9
35	2012	久次半田遺跡	大字川北字久次半田	弥生・古墳	9
36	2019	上黒萩遺跡	大字川北字上黒萩	縄文・弥生・古墳	9
37	2013	白石第3遺跡	大字川北字白石	弥生・古墳	9
38	2014	白石第2遺跡	大字川北字白石		9
39	3002	内野遺跡	大字川北字内野々		9
40	3001	内野々遺跡	大字川北字内野・下原・小野原・中野	弥生	9
41	3008	舟川中原遺跡	大字川北字舟川中原	縄文	9
42	2015	旧牧跡第1遺跡	大字川北字旧牧跡	弥生	9
43	2016	旧牧跡第2遺跡	大字川北字旧牧跡・下中原	古墳	9
44	3009	心見遺跡	大字川北字心見・上ノ原・堀之内		9
45	3005	心見往還遺跡	大字川北字心身往還上		9
46	3004	又猪野原遺跡	大字川北字又猪野原・又猪野		12
47	3010	長野遺跡	大字川北字境谷・長野		9
48	3006	山末大原第1遺跡	大字川北字末大原	弥生・古墳	9
49	3007	山末大原第2遺跡	大字川北字末大原	弥生・古墳	9
50	3008	宮川遺跡	大字川北字宮川・寺迫	弥生・古墳	9
51	3015	寺迫下原遺跡	大字川北字寺迫下原	縄文・弥生・古墳	9

※遺跡No.は第3図・第6図の番号と一致。  
文献No.はP.4の参考文献と一致。



第5図 周辺遺跡地形分類図（表層地質図 国土調査昭和60年を加工）

### 第Ⅲ章 調査の経過と方針

#### 第1節 確認調査の概要

確認調査は、朝倉遺跡と尾立第2遺跡、そして平成17年度に確認調査が行われていない範囲を、朝倉遺跡（二次確認調査）とし、以下の期間実施した。

朝倉遺跡 : 平成17年2/14~3/18

尾立第2遺跡 : 平成17年2/14~3/10

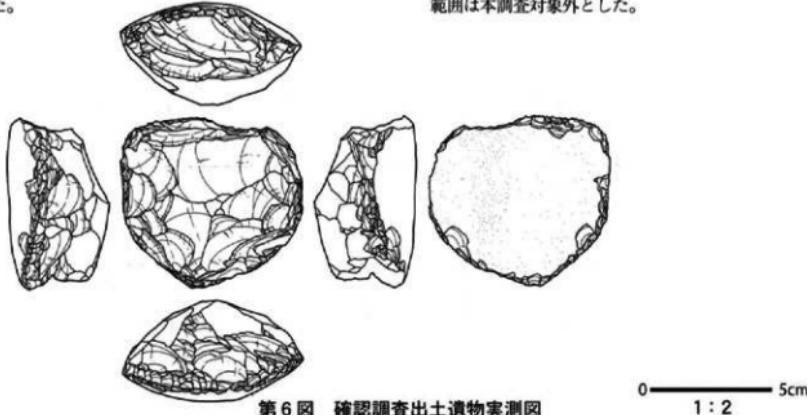
朝倉遺跡（二次確認調査） : 平成17年6/13~11/4

確認調査の結果を受け、朝倉遺跡、尾立第2遺跡を併せ朝倉遺跡とし平成18年度に本調査を行った。なお、例言にふれたとおり、確認調査・本調査時に朝倉遺跡、尾立第2遺跡としていた両遺跡を尾立第2遺跡とし本報告を行っている。以下に各調査の概要を述べる。

朝倉遺跡では、7,200m<sup>2</sup>に対し、調査区に3箇所の深掘りトレンチと14箇所のトレンチ（800m<sup>2</sup>）を設定し、人力による掘削が行われた。その結果、調査区北東ではK-Ahの良好な堆積が確認され、K-Ah下位より縄文時代早期の押型文土器が確認された。また、調査区西では表土下からKr-Kbを含む層が確認され、調査区は西から東に向かって傾斜していることが想定された。トレンチ調査により遺跡の全範囲に遺構・遺物が分布すると考えられた為、調査区西側斜面部分の表土下が砾層となる範囲（2,200m<sup>2</sup>）を調査除外とし5,000m<sup>2</sup>を調査対象とした。

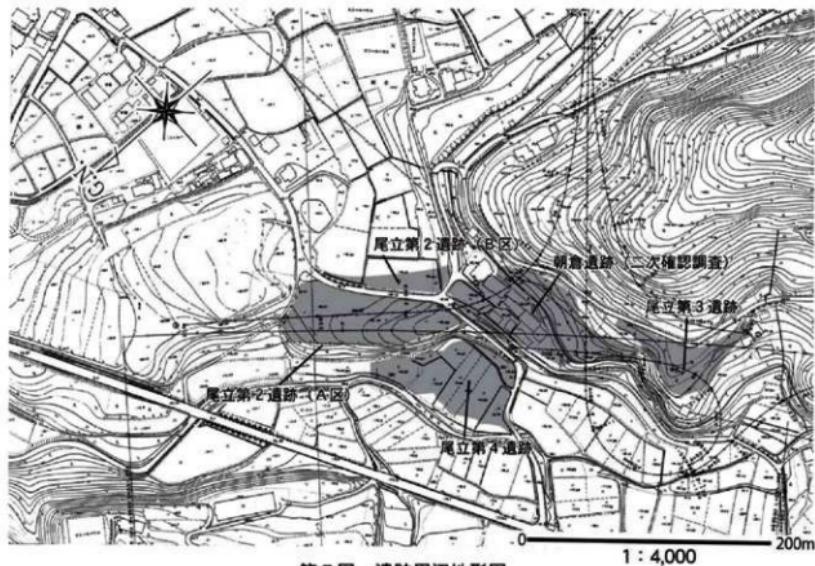
尾立第2遺跡は、朝倉遺跡から町道を挟む南側に位置し、比高差約2mの一段下がった耕作地に立地する。調査区中央~北西にK-Ahの良好な堆積が確認されている。朝倉遺跡同様、人力によるトレンチ掘削が行われ、ナイフ形石器や敲石等が出土した。このため1,000m<sup>2</sup>の調査区全体を調査対象範囲としたが、遺跡は町道を挟み朝倉遺跡と隣接することから、作業の効率を考え、朝倉遺跡の本調査に組み込み、朝倉遺跡（5,000m<sup>2</sup>）と尾立第2遺跡（1,000m<sup>2</sup>）の合計6,000m<sup>2</sup>を本調査対象面積とした。

また、朝倉遺跡の本調査と並行して実施された朝倉遺跡（二次確認調査）では対象面積12,200m<sup>2</sup>に対し、15本のトレンチ（1,089m<sup>2</sup>）を設定し、重機による表土除去後、人力による掘削を行った。調査区東に僅かに残る平坦面からはK-Ahの堆積が確認されたが、平坦面から西は削平の為、K-Ahの堆積が確認できず、A-Tの堆積も傾斜に沿って低地に流れていることが確認された。K-Ahの堆積が確認される箇所も下層は本遺跡のX層と考えられる灰褐色土層が確認され、さらに下層からは1m大の巨礫がまばらにみられた。トレンチ内から遺構・遺物は確認されず、礫器（第6図）を1点採集したのみであったため、朝倉遺跡（二次確認調査）範囲は本調査対象外とした。

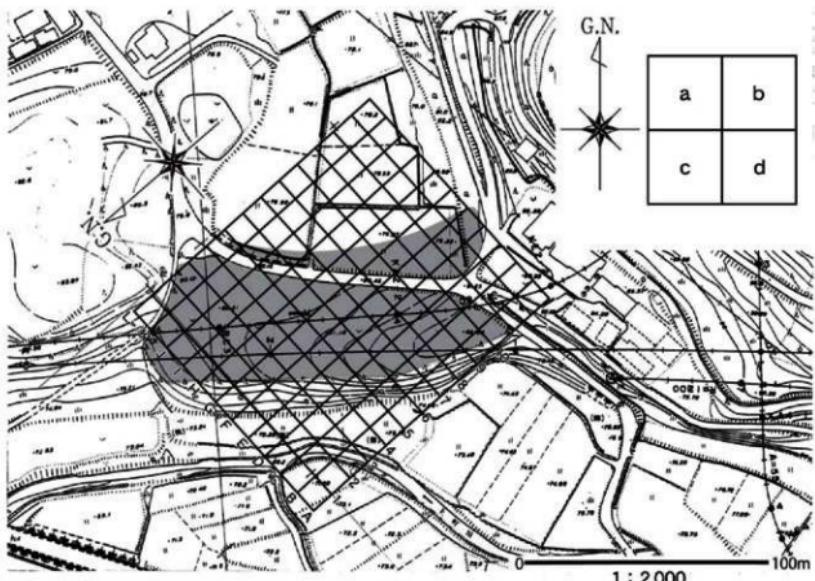


第6図 確認調査出土遺物実測図

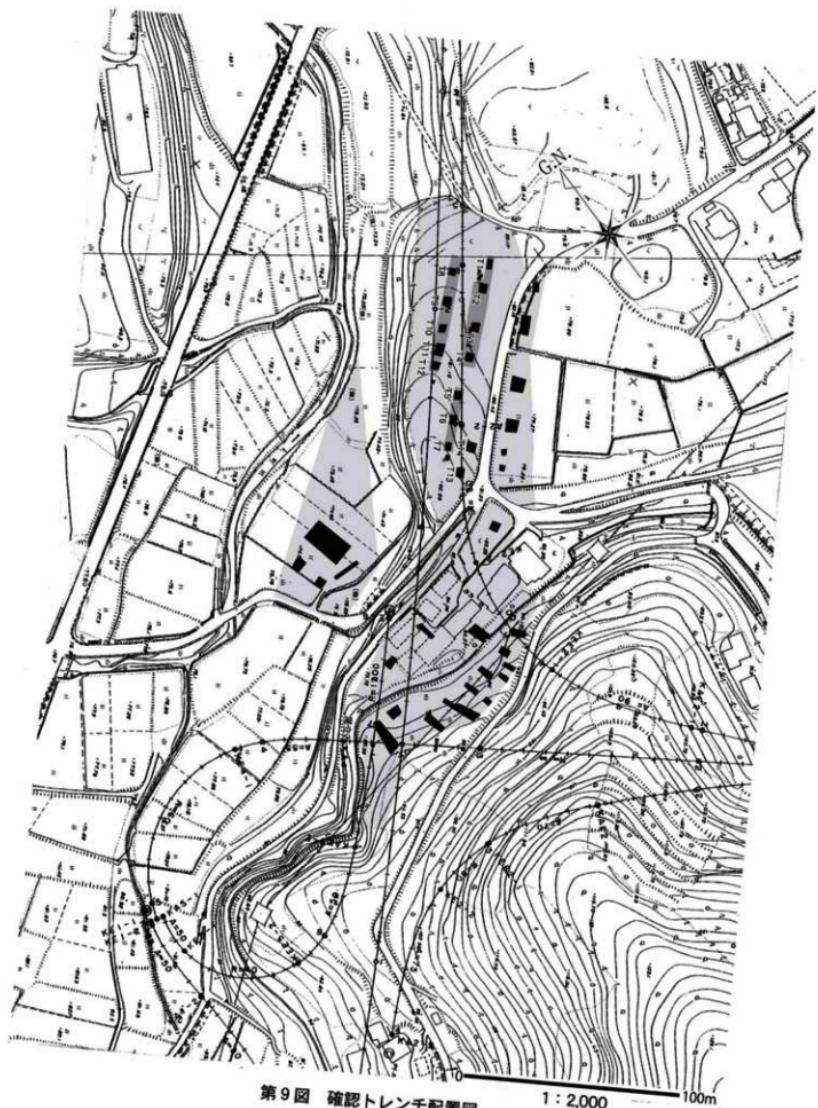
0 ————— 5cm  
1:2



第7図 遺跡周辺地形図



第8図 グリッド配置図



第9図 確認トレンチ配置図

1 : 2,000 100m

## 第2節 発掘調査の経過

本調査は平成17年6月9日から平成18年2月10日まで実施した。調査にあたっては、確認調査時の朝倉遺跡をA区、尾立第2遺跡をB区とした。また、排土置き場の確保等の問題からA区を南北に分け、調査区の南側をA1区、A2区に便宜上分け調査を実施した。調査はA1区→B区→A2区の順で終了していった。

調査区は国土地標に準じた10m×10mグリッドを、西から東にA～K、北から南に0～10とし、このグリッドを5m×5mで四分したものを作成し、各グリッドについて、B9Gr或いは、B9aGr等と呼ぶこととした（第8図）。

調査は、層の残存状況を確認しながら、まず表土を重機で除去した。確認調査で把握していたところA1区は表土下よりVI層の堆積が確認され、同一層で検出された集石遺構も下部のみ検出されることが多かった。また土層堆積の良好なA2区北東では、残存するK-Ah（Ⅲ層）上面を精査したが遺構・遺物は確認できなかった。さらに重機を使用してⅢ層を除去した後、手鋤による人力掘削に移った。包含層内より出土した遺物はトータルステーションで出土位置を記録し、取り上げを行った。また包含層内より出土した礫も遺物と同様トータルステーションによる取り上げを行った。

調査の結果、IV層～X層より遺構・遺物が確認され、後期旧石器時代から縄文時代早期、弥生時代、近世の遺構・遺物が確認された。検出された遺構は原則として1/10の縮尺で図化を行った。

### 【調査日誌抄】

平成17年

- 6. 9 (水) 現場事務所設置・駐車場の整地。
- 6.13 (月) 作業員雇用開始（二次確認調査開始）。
- 6.20 (月) B区作業員掘削開始。
- 7. 4 (月) B区V層より礫群検出。石鎚、剥片・碎片等がまとめて出土し始める。
- 7.12 (火) A1区作業員掘削開始。
- 7.27 (水) A1区溝状遺構（SE1）を検出。
- 8. 4 (木) B区空中写真撮影終了。

8.26 (金) A1区南西側より石組遺構（SX1）を検出。

9. 7 (水) 台風14号上陸。調査B区完全に水没。排水作業に日数を要す。

9.12 (月) B9Gr層より黒曜石製剥片の集中を検出。ネジリ鎌、竹串、ハケにより慎重に掘削を行う。

9.27 (火) A1区X層より局部磨製石斧出土。

10.12 (水) 調査区反転終了。A2区人力掘削開始。

10.14 (金) 泉 拓良氏・本田道輝氏・清野孝之氏・柳沢一男氏来訪。遺構・出土遺物について調査指導が行われる。

10.17 (月) A1区調査終了。

（A1区遺物取り上げ点数2087点）

10.25 (火) B区IX層湧水の為、トレーナによる調査。遺物出土なく、B区調査終了。

（B区遺物取り上げ点数501点）

11. 4 (金) 貝殻刺突が施された尖底の縄文土器出土。

11.10 (木) 小畠弘己氏・田崎博之氏・広瀬和雄氏来訪。遺構・出土遺物について調査指導が行われる。

11.15 (火) 不明遺構（SZ1）を検出。壺・甕が出土。その成因過程に悩む。

12. 1 (木) A2区空中写真撮影終了。

12.20 (火) VI層面より黒いシミを検出。ATを掘り込む土坑で尾根の谷際に集中する。

12.22 (木) 朝倉遺跡二次確認調査終了。

平成18年

1.18 (水) 勝古環境研究所の早田勉氏来訪。K3Gr壁面の土層採取が行われる。

1.27 (金) I3Grにトレーナ設定。X層下位掘削を進めるが遺物の出土は確認されず。

1.30 (月) 北海道埋蔵文化財センター鈴木宏行氏来訪。

2.10 (金) A2区調査終了。調査区埋め戻し。（A2区遺物取り上げ点数3265点）

### 第3節 整理作業の経過

整理作業は平成17年2月から埋蔵文化財センター内で開始し、水洗、注記、計測、接合、実測、製図を経て、平成19年10月に終了した。

石器は接合作業を行なながら、見た目、手触りを重視して、石材を分類した。また、黒曜石資料に関しては、肉眼、顕微鏡観察で分類を行うとともに、(株)古環境研究所に蛍光X線分析による黒曜石産地推定を委託した。

石器の実測は石巣等の剥離が細かな石器を業者に委託し、残りのナイフ形石器等の実測は整理作業員と岸田とで行った(写真3)。

また、SX1、SZ1の床面の土を、埋蔵文化財センターに持ち帰り水洗選別を実施した。

現場段階では、後述するⅩ層より検出されたブロックAの範囲の土を5mmメッシュの篩を用い選別を行い、黒曜石製の碎片が多数確認された。同様にSC1~26の床面付近の土を採取し5mmメッシュによる篩選別を試みたが、期待した成果は得られなかつた。

砾の整理は水洗、注記、計測、接合の各作業を実施した(写真4)。計測は砾の法量、重量、石材の他に、砾に残された付着物、赤化、破損状況などを記録した。これらの砾の計測等のデータ採取作業は周辺に立地する尾立第3遺跡、朝草原遺跡と立野第5遺跡、立野第2遺跡の各調査者、井上美奈子、日高優子(平成17・18年度宮崎県埋蔵文化財センター所属)と検討を加え、共通のデータ採取をする事とした。

### 第4節 普及活動

平成18年8月25日に宮崎県立図書館を会場に「ひむかの歴史2006」が行われ、尾立第2遺跡を始めとする、平成17年度に埋蔵文化財センターで調査された発掘調査成果が報告された。【71名参加】

また、平成19年3月4日には都農町立図書館を会場に都農町遺跡報告会を実施し、尾立第2遺跡を始めとして、町内外に発掘調査の成果を報告した(写真5)。【72名参加】



写真3 整理作業：石器実測風景



写真4 整理作業：砂接合風景



写真5 都農町遺跡報告会 展示風景

## 第IV章 調査の記録

### 第1節 基本層序

基本層序を設定するにあたって、K3Grの南西壁を土層観察用の壁面として利用した（第10図）。土層は色調、土質によりI～XII層までの層に分層した。各層の詳細は次項に示している。

本遺跡の土層の堆積は一定ではなく、旧地形は西から東に向かって傾斜し、北東側は南西側に比べ層が厚く堆積していた。地形の変化を南北でみると、Eライン（Y=49830）付近より西側は削平によってV層以上が消失している。

また、東西では、標高の低いH4Gr・I4Gr周辺でⅢ層からV層の堆積が確認され、北側・西側に進むにつれその堆積は徐々に薄くなっている。調査区の旧地形は南西から北に延びる尾根となり、B区が所在する南東側は谷となる。さらに、調査区で最も標高が高い南西側では耕作土を除去するとすぐに疊層が検出された（第14図）。

本遺跡の旧地形は近年まで蜜柑畑として利用され、約1m×1mの正方形の蜜柑穴が調査区の全体に等間隔に並んでいた。これらの擾乱は堆積の薄い調査区南西では地山（VI層）を切るように蜜柑穴が掘り込まれ、逆に堆積の厚い調査区北東では耕作土（I層）よりも蜜柑穴の深度が浅いため、III層以下は影響を受けていない。耕作土（I層）下がすぐに疊層となる範囲では、掘削時に疊層を掘り込むことが困難であったためか、蜜柑穴は確認されなかった。

また、本遺跡では、土層中にいくつかの火山灰が確認された（第V章第1節参照）。K-Ahは調査区南東に、A-Tは調査区全面に純層で堆積していた。これらの火山灰は色調・土質に特徴があるため、ローム層との比較は容易であったのに対し、Vlb層からVla層より検出されたKr-Kbは橙色の粒子が上下に散在して確認される状況であり、単一層としての判断は行えなかった。同様に、IX層で確認された始良大塚テフラ・始良深港テフラに至っては調査中には確認することができなかつたが火山灰分析の結果、両テフラの存在が判明した。

なお、東九州自動車道（都農～西都間）の調査では、宮崎平野部で認められるテフラやローム層、黒色帶に共通の略称を用いている。第10図に示したMB0やML1等がこの略称にあたる。ただし本遺跡が所在する都農町は宮崎平野部の北端にあたり、共通認識として捉えられてきた宮崎平野部の基本層序にそぐわないことも確認されてきている（宮崎県埋蔵文化財センター2006）。

宮崎県埋蔵文化財センター「東九州自動車道（都農～西都間）開通埋蔵文化財発掘調査概要報告書VI」2006

I	耕作土	
II	黒色土〔クロボク〕	
IIIa・b	鬼界アカホヤ火山灰〔K-Ah〕	
IV	黒色土〔MB0〕	※
V	黒褐色土〔ML1上部〕	※
Vla	黒褐色土〔ML1下部〕	※
Vlb	黒褐色土〔ML1下部〕	
	小林軽石〔Kr-Kb〕	
Vla	黒褐色土〔MB1上部〕	
Vlb	黒褐色土〔MB1下部〕	
Vlc	にぶい黄褐色土〔ML2〕	
Vla・Vlb	始良Tn火山灰〔AT〕	
IXa	黒色土〔MB2〕	※
	始良深港〔A-Fm〕・始良大塚〔A-Ot〕	
IXb	黒色土〔MB3〕	
X	灰褐色土〔ML3〕	
XI	明黄褐色土	
XII	にぶい黄橙色〔疊層〕	

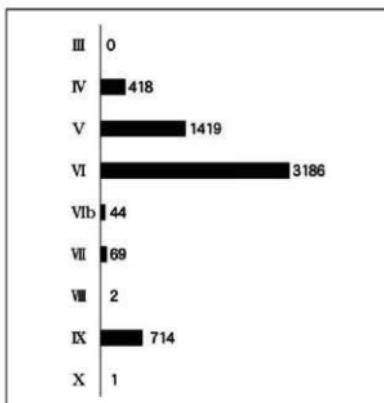
※主要遺物包含層

第10図 尾立第2遺跡基本土層図

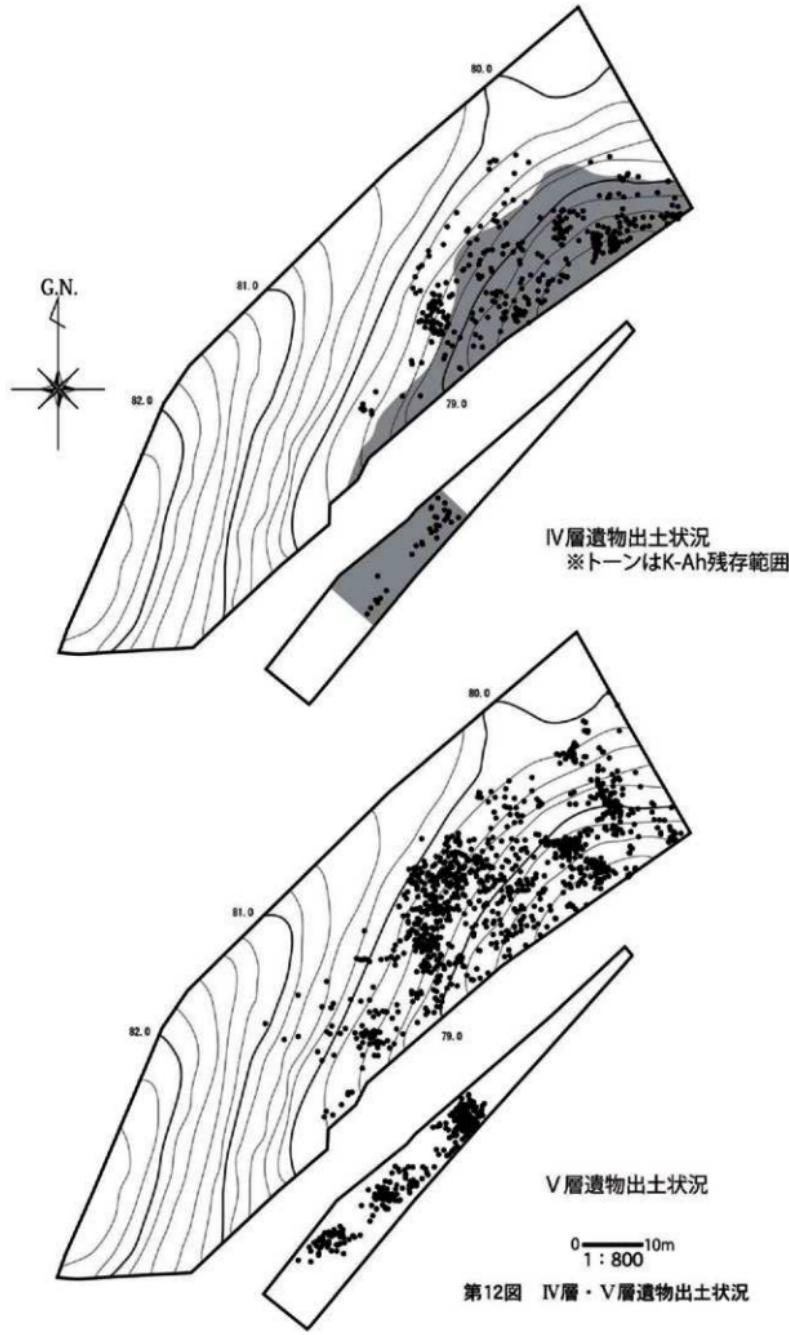
## 基本層序

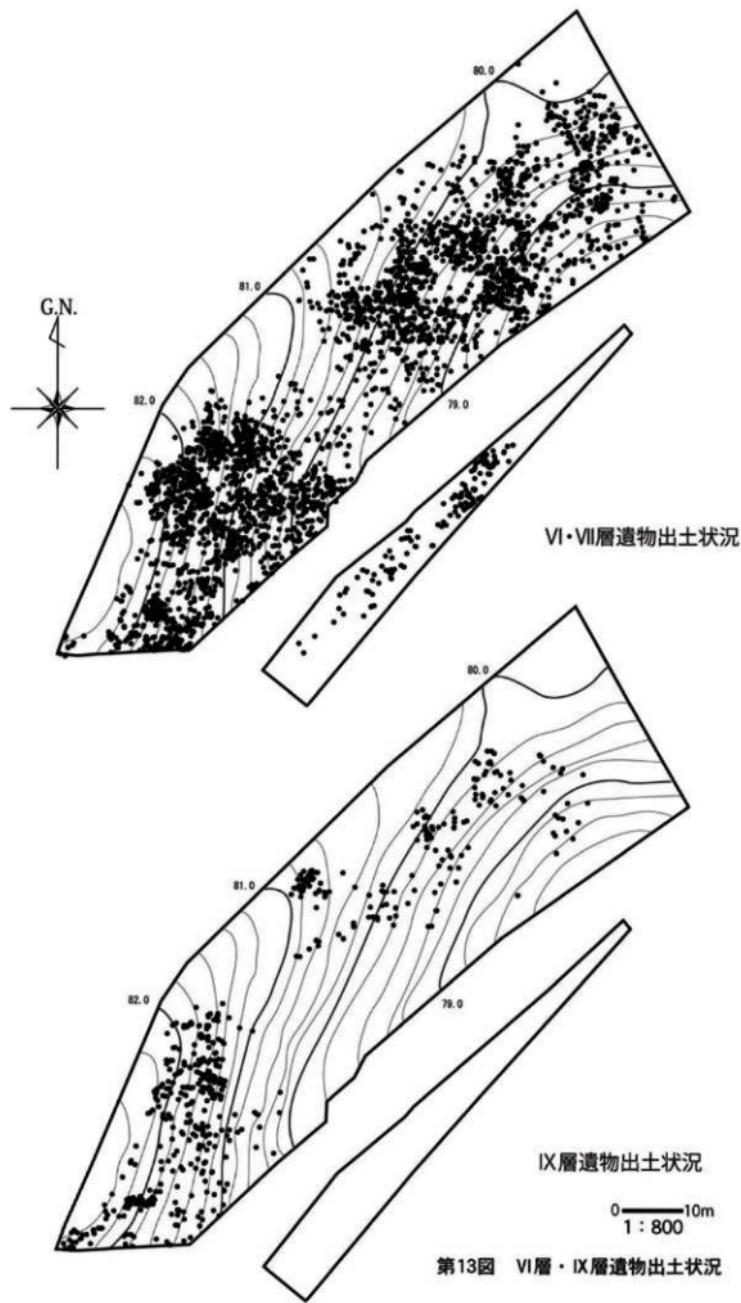
- I層：耕作土
- II層：黒色土 (Hue7.5YR1.7/1)  
層厚およそ2~4cmを測る。しまりが弱く、粘性が弱い。所謂クロボクと考えられる。
- IIIa層：橙色土 (Hue7.5YR6/8)  
鬼界アカホヤ火山灰。層厚22cmを測る。
- IIIb層：明褐色土 (Hue7.5YR5/8)  
鬼界アカホヤ火山灰。IIIaに比べ1mm大のオレンジ粒子が多くなる。
- IV層：黒色土 (Hue10YR2/1)  
層厚は最大で6cmを測る。しまりは弱く、粘性も弱い。MB0に相当する。  
遺物包含層
- V層：黒褐色土 (Hue10YR3/1)  
層厚は6cmを測る。しまりはやや強く、粘性がある。ML1上部に相当。  
遺物包含層
- VIA層：黒褐色土 (Hue10YR3/2)  
層厚は最大で20cmを測る。しまりはやや弱く、粘性がある。オレンジ粒子をわずかに含み、ブロック状で入る箇所もある。  
遺物検出層・遺物包含層
- VIb層：黒褐色土 (Hue10YR3/2)  
層厚は最大で21cmを測る。VIA層に比べ粘性が弱くなる。オレンジ粒子わずかに含む(粒子量VIA<VIb)。ML1下部に相当する。
- VIIa層：黒褐色土 (Hue7.5YR3/1)  
層厚16cmを測る。しまりはやや弱く、粘性がある。また、乾燥すると明瞭なクラックが発達する。MB1上部に相当する。
- VIIb層：黒褐色土 (Hue10YR3/1)  
層厚は15cmを測る。粘性があり、固くしまっている。1mm以下の白色粒子をわずかに含む。MB1下部に相当。遺物包含層
- VIIIc層：にぶい黄褐色土 (Hue10YR5/4)  
層厚は7cmを測る。しまりはやや強く、1mm大の黄色粒子や白色粒子が多くなる。AT直上(ML2)に相当する。  
遺物検出層

- VIIa層：明黄褐色土 (Hue10YR6/8)  
層厚は最大で12cmを測る。1mm大のオレンジ粒子を多く含む。粗粒でざらざらしていて粘性が非常に弱い。始良Tn火山灰。
- VIIb層：黄橙色 (Hue10YR7/8)  
VIIaに比べ粒子が細かい。始良Tn火山灰。
- IXa層：黒色土 (Hue10YR2/1)  
層厚は最大で32cmを測り、しまりが強い。1mm以下の白色粒子を多く含み、クラックが発達する。MB2に相当する。  
遺物検出層・遺物包含層
- IXb層：黒褐色土 (Hue10YR2/2)  
層厚は最大で17cmを測る。IXa層に比べしまりが弱く、粘性が強くなる。MB3に相当する。
- X層：灰褐色土 (Hue5YR4/2)  
層厚は6cm。しまりは弱く、粘性が強い。ML3に相当する。遺物包含層
- XI層：明黄褐色土 (Hue10YR6/6)  
巨礫を含み、しまり、粘性ともに強い。
- XII層：にぶい黄橙色土 (Hue10YR6/4)  
しまり、粘性ともに強い。礫層。

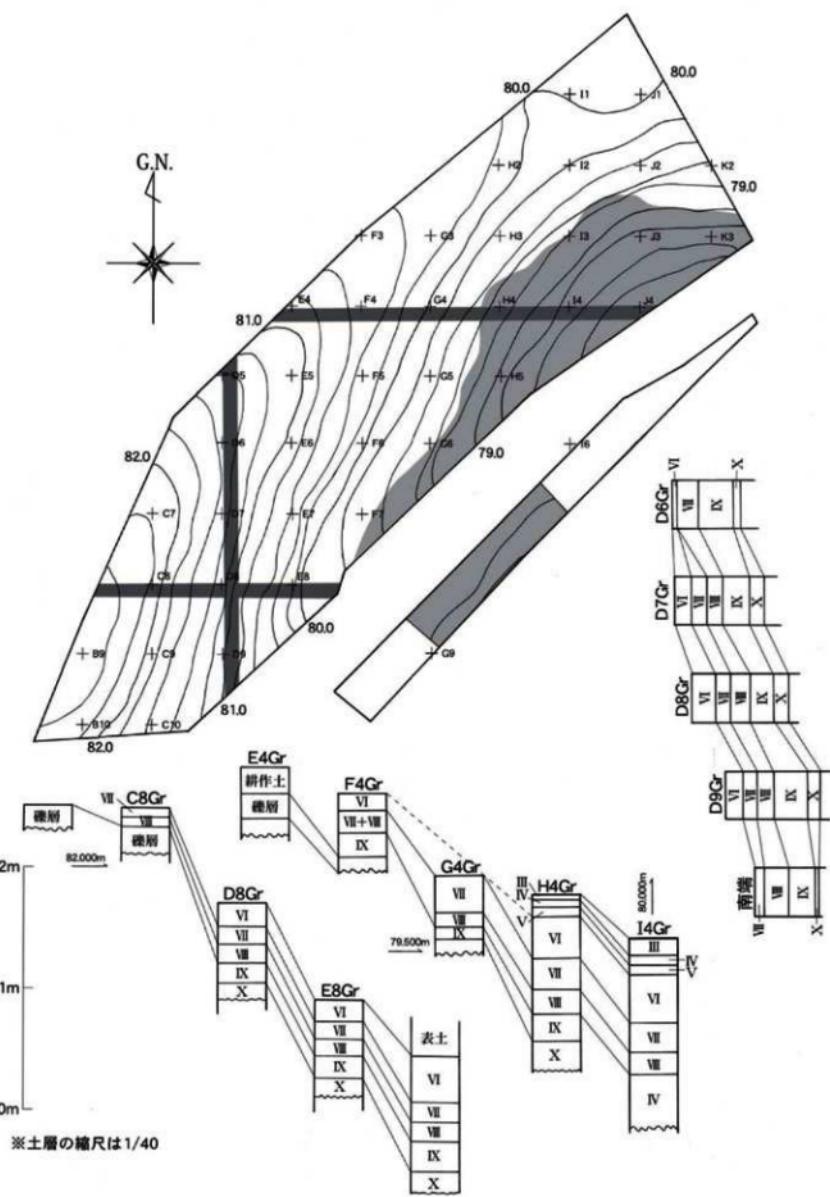


第11図 層位別遺物出土状況





第13図 VI層・IX層遺物出土状況



第14図 土層堆積状況

## 第2節 遺物包含層の認識

本遺跡の調査中および調査直後の層位と遺構、遺物の認識は以下のとおりであった。

V層	：縄文土器、石錐の出土、不定形洞片の出土。
V層	：縄文土器、石錐、打製石斧、細石刃、細石刃核、縦長洞片を素材とした小型のナイフ形石器を有する石器群。遺構検出面。
Vla層	：細石刃、細石刃核、縦長洞片を素材とした小型のナイフ形石器、角錐状石器を有する石器群。本遺跡で最大量の遺物が出土。遺構検出面 (遺構数V< Vla)。
Vlb層	：層位でのVla層との分層は困難。Vlaに比べ大幅に洞片等遺物数が減少。下部になる程遺物は少なくなる。
Vla～Vlb層	：遺物の出土はほとんど確認されない。
Vlc層	：切り出し状のナイフ形石器がB区で1点出土。遺物はほとんど確認されない。遺構検出面。
IXa層	：縦長洞片を素材とした小型のナイフ形石器が出土。遺物は調査区全体に散在する。また、B9Grより黒曜石が集中する範囲を確認。標群を1基検出。
IXb～X層	：D8Gr・I3Gr周辺のみ調査。局部磨製石斧、敲石が出土。

今回、報告書作成において、出土遺物の層位別遺物分布状況および石材別分布図を基に検討した結果、調査時の認識とともに、以下の事柄を考慮しつつ記述を進めたことを断っておく。

- ① Kr-Kbの堆積は火山灰分析の結果、最厚37cmの堆積を示すが、層として確認できなかった。そのため火山灰を鍵とした遺物包含層の判断上下に限られ、層の細分は土質によるものである。こうした状況から遺物の取り上げは色調や土質が似るVla層・Vlb層を含めVI層と、IXa層・IXb層を含めIX層として行った。
- ② 調査区北東は旧地形が谷となり、IV・V層の堆積が確認される。しかし、調査区南西は、後世の耕作による削平が考えられ、遺物に二次的な移動が生じている可能性がある。また、層の堆積は調査区内で一定でなく、急な勾配

は存在しないが、西から東に傾斜し、平坦な場が広がる範囲はH2GrやI1Gr周辺に限られる。

- ③ ①・②を踏まえ、基本的に接合資料、平面分布、石材をもとにブロックを設定した。本報告で用いるブロックの名称は、同一母岩、同一石材を重視し、他時期の遺物の混在を避けることを努め、設定したものである。そのため、通常用いられるブロックの名称とは異なっている。

これらのことから、本報告書では後期旧石器時代の時期細分について以下のように取り扱った。

### I期

IX層下部からX層より出土した石器。AT直上で出土が確認されなかつた石器で、出土した箇所もII期の石器群とは遺物の平面分布が重ならずI期の石器とした。

### II期

V層(AT)直下より出土した石器群。Vlc層がわずかに残る層からIXa層直上で遺物が出土している。調査区のほぼ全面にATの堆積が確認されたため、後述するI期の石器群を除くAT下位の石器群として取り扱った。上部からの擾乱も少なく、他の時期に比べ時期の決定を判断しやすかった。

### III期

細石刃石器群を除くAT上位の石器群。縦長洞片を素材とした小型のナイフ形石器を主とし、角錐状石器や台形様石器、洞片尖頭器等、多くの器種が確認され、時期差も考慮される。出土遺物量が最も多いが、その分布から時期の判断が困難であった。

### IV期

細石刃石器群を有する時期。層位では、III期石器群との区分ができるず、III期石器群、或いは後続する縄文時代の時期との区別が困難であった。そのため、明らかに細石刃石器群と判断できる器種(細石刃・細石刃核・打面再生洞片)とその同一母岩の遺物について取り扱った。

### 第3節 石材の分類基準

石器石材は第Ⅲ章第3節で触れたように、色調、表面の特徴、手触り、風化の状況などを重視し分類を行った(第2表)。各石材の同定にあたっては、赤崎広志氏(宮崎県総合博物館)の協力を得て、岸田が決定した。また、確実に同一母岩と判断されるものに関しては文中で触ることとし、遺物の平面分布等の検討には第2表に示す石材分類名を用いた。石材名称については周辺に立地する立野第5遺跡、立野第2遺跡、朝草原遺跡、尾立第3遺跡と石材名称が異なることを極力避けたが、見解の相違によりやむをえず別の名称を付したものもある。

黒曜石は、肉眼により観察される情報をもとに分類を行い、その分類の中から蛍光X線分析による黒曜石産地推定分析を委託した。そうした分析結果から得られた石材の特徴を援用して最終的な石材産地の決定に至った。

第2表 石器石材分類表

石材名	小分類	略称	石器石材の特徴
流紋岩	①類 Ryu①	Ryu①	白色に風化し、流紋構造が確認されるものもある。風化にはツヤがあるもの、粉を吹くもの等バリエーションがあり、新鮮面は黒色無機。
	②類 Ryu②	Ryu②	黑色を呈し、灰褐色の流紋構造が確認されるもの、黒色面のみの部分もある。新鮮面は黒色無機、裏面は滑らか。
ホルンフェルス	①類 Hol①	Hol①	黒色でツヤがあるものと、灰白色無機があるものがある。裏面は滑らかである。剥離面の特徴は流紋岩④類の流紋構造が確認されないものに近似し、流紋岩底部を含む可能性がある。
	②類 Hol②	Hol②	風化面は黒色を呈し、粉を吹いたかのような状態になっているもの、種々な埋藏する傾向が強い。新鮮面は黒色無機。
	③類 Hol③	Hol③	風化面が灰褐色或は白色を呈し、粉を吹いたかのような状態になっているものと、表面は白色無機が含まれるが部分でない、全て表面は白色無機。
安山岩	-	An	風化面が白灰色を呈し、表面がざらざらしているもの。新鮮面は黒灰色。
頁岩	-	SH	黒灰色を中心とした薄い層状に剥離する。ホルンフェルスなどと比較が困難となり、新鮮面が剥離すると、表面の剥離が確認されないものと認定される。
チャート	-	Ch	青色、白色等、色調にはバリエーションをもつ、表面には光沢があるものも存在する。薄く剥離されたものは半透明となる。
玉髓	-	CC	白色、不純物を含む表面は滑らかなものと、不純物を含むものがある。
砂岩	①類 Sn①	Sn①	黄褐色から黄土色を呈し、内面で砂粒が確認できるもの。礫石が多いが、剥離面も存在する。
	②類 Sn②	Sn②	青灰色を呈する。硬質無機で重感がある。裏面は滑らかで、形状は円あるいは楕円の礫。
尾鈴山酸性岩類	-	Os	新鮮面は灰白色を呈し、白色に風化する。質質で無機なものとそうでないものとが混在する。裏面は滑らかで凹凸のものもある。
黒曜石	※	Ob①	透過性が高・強色を見る。わざに白色の不純物や気泡を含むものもある。裏面は粒状にざらざらするものと、一見、溶離されたような滑らかな面で覆われるものがある。【人吉桑ノ木津留群】
黒曜石	※	Ob②	割りガラス状で透過性が低いもの、黄白色の不純物を含むものもある。3mm大の粒状あるいは3mm大の球状が剥離され、ターラー状の凹凸面や剥離面に含まれる。裏面は一見、溶離されたような滑らかな面で覆われる。【立野第20X群】
黒曜石	※	Ob③	黒色で透過性が低いもの、黄白色の不純物を多く含む。剥離面に薄いものは透過性をもつものもある。【大口日東群】
黒曜石	※	Ob④	全面が風化し、光沢が全くない。新鮮面は透過性がない・黒灰色。【桶上牛鼻群】
黒曜石	※	Ob⑤	青みがかる黒色を呈する。剥離面は割りガラス状で透過性が低い。裏面はクレーター状の細かい凹凸をもつ。【尾立第20X群】
黒曜石	※	Ob⑥	漆黒色で透過性が低いもの。(埋没)
黒曜石	※	Ob⑦	乳白色を呈し、1mm以下の赤い粒子が認められるもの。(巣島)

※黒曜石産地推定分析(蛍光X線分析)実施石材

## 第4節 後期旧石器時代Ⅰ期

I期とした石器群はIX層下部からX層より出土した石器である。第Ⅲ章第1節で触れたように、堆積の薄い調査区南西側はIX層除去後すぐに疊層となるため、調査は、良好な堆積が確認されたD8GrとI3Gr・I4Gr周辺に限られた。遺物の出土は、Ka層掘削後、トレンチ調査を行っていた際出土したものであり、調査区全面の掘削は行っていない（第15図）。

### 遺物（第15図1・2）

1は局部磨製石斧である。背面は疊面の形状を利用し、両側面からの剥離で整形をした後、表面下部付近に磨きを行い刃部が作り出されている。ホルンフェルス製で、風化は激しい。局部磨製石斧は調査区南東側の堆積が薄いIXb層下部からの出土であり確実にIX層と分離できる状況ではなかったが、IX層出土の石器群より下位で出土したとの判断からI期の石器と理解した。また、局部磨製石斧の出土により、D9Gr周辺の掘削を行ったが、他の遺物は確認されなかった。

2は敲石である。円礫の側面を巡るように敲打痕がみられ、特に左側面には明瞭な敲打による凹みが認められる。砂岩製ではあるが、IX層あるいはAT上位より出土する砂岩製の敲石とは石材の特徴が異なる。1に比べIXb層の堆積は厚い範囲よりの出土であったため、X層内の出土が明確であつたものの、周辺の掘削で剥片等の遺物は確認されなかつた。

### 【小結】

I期の遺物は資料数に乏しく、掘削範囲も限られることから詳細を語ることはできない。また、IX層の堆積が薄い範囲にI期の石器が混在する可能性もある。AT下位出土遺物のうち定型的な綫長剥離をもつ石核と、不定形な剥片石核に注意し、整理作業時にI期石器群の抽出に努めたが、明確なI期の石器を判断することができなかつた。

## 第5節 後期旧石器時代Ⅱ期

AT直下にあたるIKa層上面より石器の出土が確認された。IKa層は尾根状に伸びる調査区の北東で約30cmの堆積が確認されたが、調査区南側に行くに従つて、その堆積は徐々に薄くなっていた。また、B8Gr、C6Gr、D5Gr、E3Grはすでに疊層が露出しておりIX層の堆積が認められなかつた。

調査は、遺物が安定的に確認された範囲を中心として行ったが、掘削を行っていない範囲もある。確認された遺構・遺物は疊層1基、石器712点で、これらの遺構・遺物をもとに3箇所のブロックを設定した（第16図）。

### ブロックAの石器群（第17～19図3～48）

B9Gr周辺に堆積していたⅨ層を手鋤で掘削していったところ、Ⅸ層下部がわずかに残るIX層直上から多量の黒曜石製剥片が出土してきた。そのため、手鋤からネジリ鎌、竹串に発掘道具を替え、掘削を進めていった。

黒曜石製石器が密集する範囲からはナイフ形石器や二次加工剥片、敲石等が出土し、石器は約2m四方に密集していた。これらの石器は、黒曜石内に2～3mm大の球顆を含むものが存在することから、同一産地の黒曜石と考えられるが、遺跡内に搬入された母岩数は1個体だけではない。これらの黒曜石製石器群に対して、蛍光X線分析を行ったところ、分析した試料10点中1点が桑ノ木津留産黒曜石と分析され、残りの8点がデータベースにないものであった。この産地不明の資料は仮に尾立第2OX群と名称づけられた。（原石は全面風化の為、測定不可）。

上記の黒曜石製石器群が集中する範囲をブロックAとする。

ブロックAでは17例の接合資料が確認された。剥片剥離に利用される母岩には拳大よりも小さな黒曜石が用いられ、自然面に覆われた状態で遺跡内に搬入されたと考えられる。剥片と剥片、石核と剥片との接合が確認されたが、剥片を採取する際に、衝撃により生じた偶発的な剥片・碎片との接合が多く認められた。遺物が集中する範囲、遺

物の集中する範囲とその周辺、遺物の密集する範囲の周辺どうしでの接合が認められる。また、B9 Gr周辺の土を篠により選別した結果、1cm以下の黒曜石製片が多量に確認された。

ナイフ形石器は7点が確認され、全て二側縁加工が施される。最大長は2~3cmであり、左側面に丹念な調整が入るものが多い。黒曜石製片が最も集中する範囲より7、8が出土している。

また、同ブロックより出土した18は棒状を呈する敲石である。敲打の痕跡が両端部に認められ、中央部で欠損している。出土状況からブロックAの黒曜石製石器の製作に伴う敲石と考えられる。

#### ブロックBの石器群（第20~23図49~85）

ブロックBはC7Gr周辺を中心とするホルンフェルス①類の石材を中心とした石器群でナイフ形石器、二次加工剥片、礫器、搔器、剥片、石核で構成される。遺物の出土状況は、ブロックAに比べ、同一石材が密集するという状況ではなく、石器群の器種構成、石材構成に顕著なまとまりは認められない。また、ブロックB周辺はIX層の堆積が薄く上層の遺物の混在も排除できない。石器に用いられる石材の傾向として、ナイフ形石器や二次加工剥片、剥片にはホルンフェルス①類が石材として用いられることが多く、スクレイバーや礫器はホルンフェルス③類が用いられる。ホルンフェルスは前者に比べ、後者は風化が著しい。

ナイフ形石器は全て、約2~3cm大の綫長剥片を素材とし、素材の打面側を基部に設定する。このうち50~52、54、55は正面に、ナイフ形石器の素材を獲得する以前に石刃状の剥片が採取された痕跡を残す。74は親指大の搔器で、素材の周縁を巡るように粗い剥離が施されている。

石核はホルンフェルス①類とホルンフェルス②類が確認されるが、接合資料7や60の石核のように打面を固定せず不定形方向から剥離を行うものと、72や73、75のように、打面を固定し、共通した打面から綫長剥片を採取するものがある。また、61は水晶製の石核であるが、調査区内に同一石材の石器は出土していない。

#### ブロックCの石器群（第24図86~105）

E4Gr周辺にホルンフェルス②類の剥片が集中しており、ブロックCを設定した。ナイフ形石器等の利器は出土せず、石核、剥片で構成される。剥片は綫長のものだけでなく、幅広のもの等、不定形な剥片が採取され、剥片剥離に一定した技術は認められない。ブロックCの石器群は同一の母岩を用いていると考えられ、全ての石器が黄色く、粉を吹いているように風化する特徴が共通して確認される。

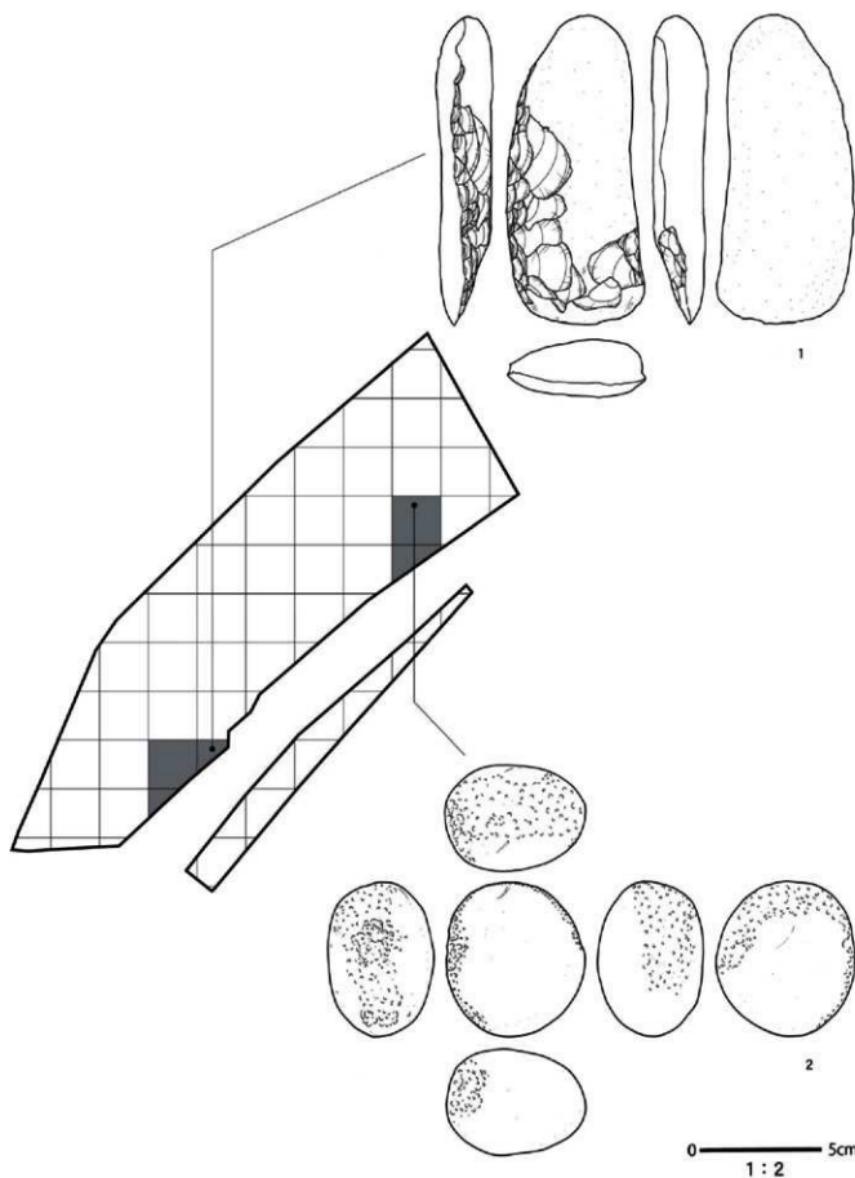
#### ブロック外の石器（第25~26図106~126）

106~113はナイフ形石器である。ブロック内で確認されるナイフ形石器と同様に、綫長剥片を素材とし、石器基部側に素材打面部を設定し、二側縁加工が施されている。114は頁岩を石材とした打製石斧である。AT直下からの出土であり、剥片等の遺物が集中する範囲とは位置が離れる。基部側のみの出土であり、刃部は欠損により消失している。正面・裏面ともに側面からの加工が行われ、後が摩滅する箇所も認められる。風化が激しく、研磨による線状痕は確認できないが、整形の後磨きを行った可能性もある。薄い層状に剥離される頁岩がホルンフェルス化したものであり、Ⅸ層下位から同一石材は確認されていない。

#### 遺構（第27図）

SI18は17点の礫で構成される。礫は密集せず、遺構のはば中央に、やや環状に配置される小礫と、自然による凹みをもつ10cm大の礫が確認される。石材は尾鈴山酸性岩類である。礫に被熱等による赤化はみられず、炭化物は出土しなかった。礫群の西は、IX層の堆積が確認できず礫層が露出しており、東におよそ2mの位置には前述したブロックAが存在する。周辺には人為的な礫の配置は確認されず、Ⅸa・Ⅸb層下位よりの礫層の巨礫が頭を出しているような状況であった。

123はSI18内より出土した礫器である。正面を正面に配置し、裏面側からの粗い加工が施される。遺構を構成する礫とは明らかに石材が異なり、遺構内の遺物と判断される。



第15図 後期旧石器時代Ⅰ期石器実測図

## 【小結】

II期石器群を理解するにあたって、3つの石器ブロックを設定した。これらブロックの中でも、ブロックAは敲石とナイフ形石器、剥片、碎片等がATにパックされた状態で出土し、石器製作の痕跡を残す良好な一括資料と判断される。また、出土した黒曜石産地は蛍光X線分析の結果、尾立第2OX群と桑ノ木津留群の黒曜石が出土している。

各ブロックの状況をみると、ブロックA・ブロックBでナイフ形石器の製作が行われた痕跡がわかる。特に、ブロックBでは、縦長剥片素材を採取することを目的とした石核(72・73・75)が特徴的で、縦長剥片を採取しようとする技術の存在を見て取れる。これらの石核は、ナイフ形石器の素材として縦長剥片を目的としていたことを示し、II期石器群の特色である。また、本遺跡のII期石器群ではブロックと認識しなかったものも含め、縦長剥片を素材とし、基部側に剥片の打面が設定される長さ4~5cmの大いなナイフ形石器が15点出土している。

これに対し、ブロックAの剥片剥離技術を石核から見出すことは難しい。出土した石核からは背面や側面に礫面を残す資料が多く、剥片剥離の際に、礫面を除去し剥片を採取する。しかし、前述した石核のように縦長剥片を剥離する痕跡を残すもの

は少なく、やや縦に長い不定形な剥片を、一定の面に打面を固定せず採取しているようである。

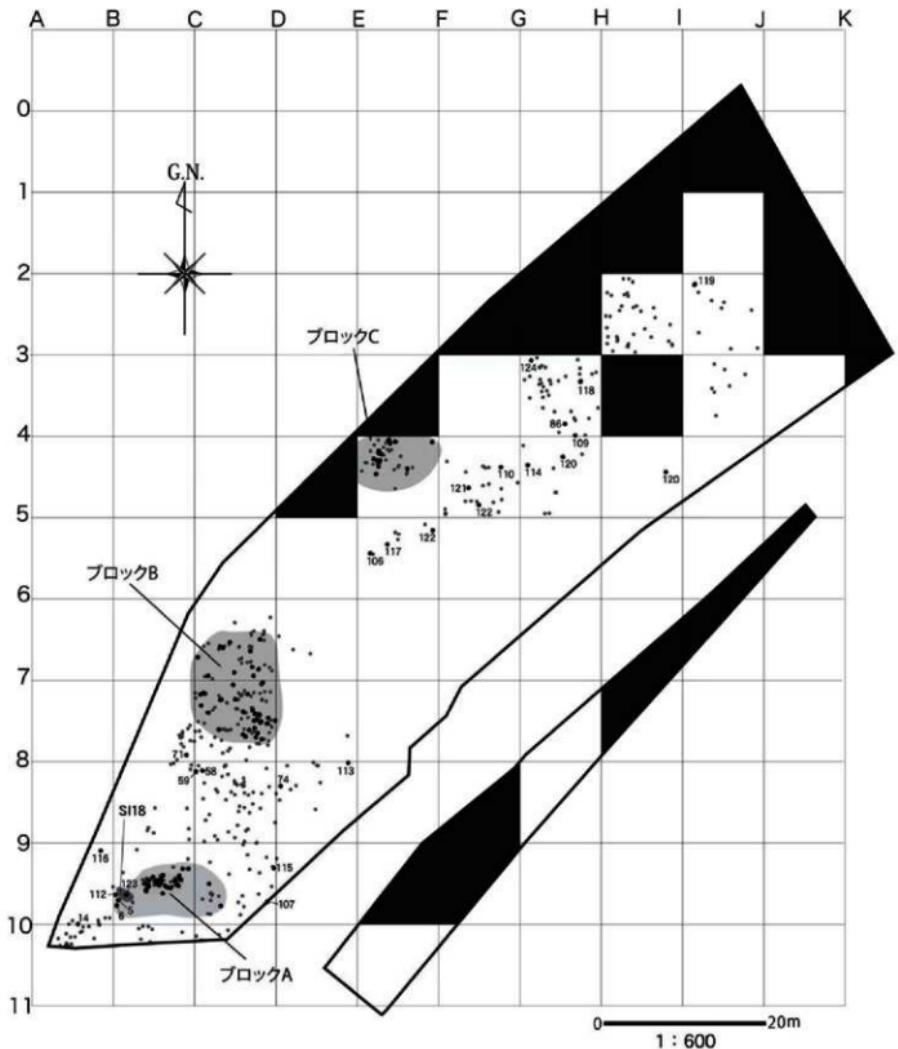
石核と接合する剥片はサイズが小さく、これらの資料は、剥片剥離による加熱の際、衝撃により採取されたものであり、尾立第2OX群とされる黒曜石が、剥片剥離を安定的に行うことに向きな石材であることを示している。こうした黒曜石②類の持つ安定的に目的とする剥片を得ることができない特徴から、ブロックAより出土したナイフ形石器は、幾度かの剥片作出により偶発的に生じた剥片のうち、形のよいものを素材として利用して整形されたと考えられる。

また、ブロックAより出土した敲石にも注目したい。対象となる石器石材の違いが選ばれる敲石のサイズに影響すると指摘されるように(藤木2000)、18は拳大よりも小さな石核より剥片剥離を行うには手頃な大きさと考えられる。しかし、同ブロックより出土したナイフ形石器に施される細かな二次加工にも、この敲石が使用されたとは考えづらく、その他のハンマーの利用も想定される。

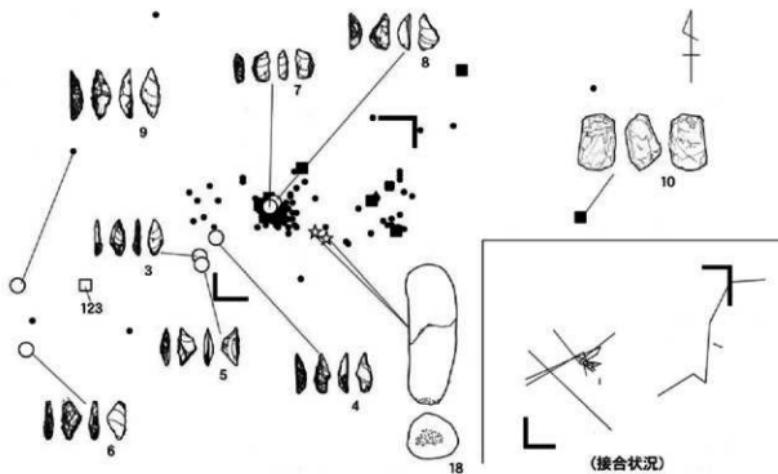
藤木聰「敲石と石器製作」「旧石器考古学」60号 旧石器文化談話会 2000

第3表 II期接合資料剥離工程表

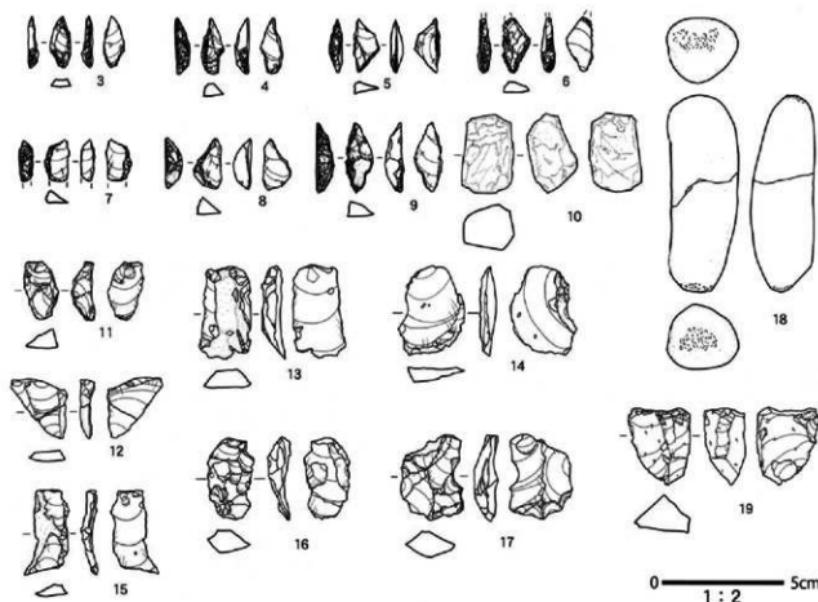
接合番号	遺物番号	長	幅	厚	重	剥離の順序
		(cm)	(cm)	(cm)	(g)	
接合資料1	30+21+22+23+24+25	4.7	3.5	2.2	28.9	幅広剥片(21)を剥離。→刃打面上に幅広剥片(22)を剥離。→正面側からの剥離により剥出された平打面より幅広剥片(23)を剥離。剥片23は剥離時に石核(24)と石核(25)が分離。小剥片(26)は裏面側刃打面より礫面を除去するように剥離。
接合資料2	26+27+28	2.5	1.8	0.5	1.8	幅広剥片(27)剥離時に、小剥片(26, 28)が偶発的に剥離。小剥片(26, 28)が剥離された痕跡なく、裏面全てに礫面が残存。
接合資料3	29+30+31	2.4	1.3	0.9	1.2	平打面より小縦長剥片(29)を剥離。→小縦長剥片(30)を剥離。その後、縦名前片(31)を剥離。29, 30, 31の全ての剥片は同一の平打面より剥離される。剥片間の結合。
接合資料4	33+34+35	2.8	1.8	0.5	2.6	縦長剥片(33)を剥離後、縦長剥片(34+35)を剥離。縦長剥片(33-34)は平打面より剥離される。剥片(33)と剥片(35)の場合は剥離の際の偶発的な割れで、34, 35の主要剥離面に残る跡跡の凹みにより割れが生じたと思われる。剥片同士の接着。
接合資料5	36+37+38+39	3.8	1.8	0.6	3.3	縦長剥片(36)剥離時の衝撃により、下平底のみ残存(38)。→平打面上に小剥片(39)を剥離。→一般剥片(37)を剥離。→刃打面を180°回転させ、小剥片(36)を剥離。38剥離の際の打面は37, 39と同じ。→平打面と思われる。
接合資料6	40+41+42+43+44+45	2.8	2.3	0.9	8.1	複打面上の剥片(41)を剥離。→刃打面を180°回転させ、複打面上に幅広剥片(40)を剥離。→一削片(42)と同一の縦長剥片(43)を剥離。複打面上に幅広剥片(40)を剥離。剥片42, 43は中央部より欠損。→刃打面から小剥片(43)を剥離。上部半欠損は剥離の衝撃によるものか。→刃打面から小剥片(44)を剥離。
接合資料7	62+63+64+65	3.8	4.7	2.8	59.8	正面方向からの剥離に上り幅広剥片(63)と幅広剥片(64)を剥離。剥片63, 64により作成された刃打面上の複広の打面を剥離。→正面側からの加工により縦長剥片(62)を剥離。65は2枚組で複雑形状の原石は円錐。



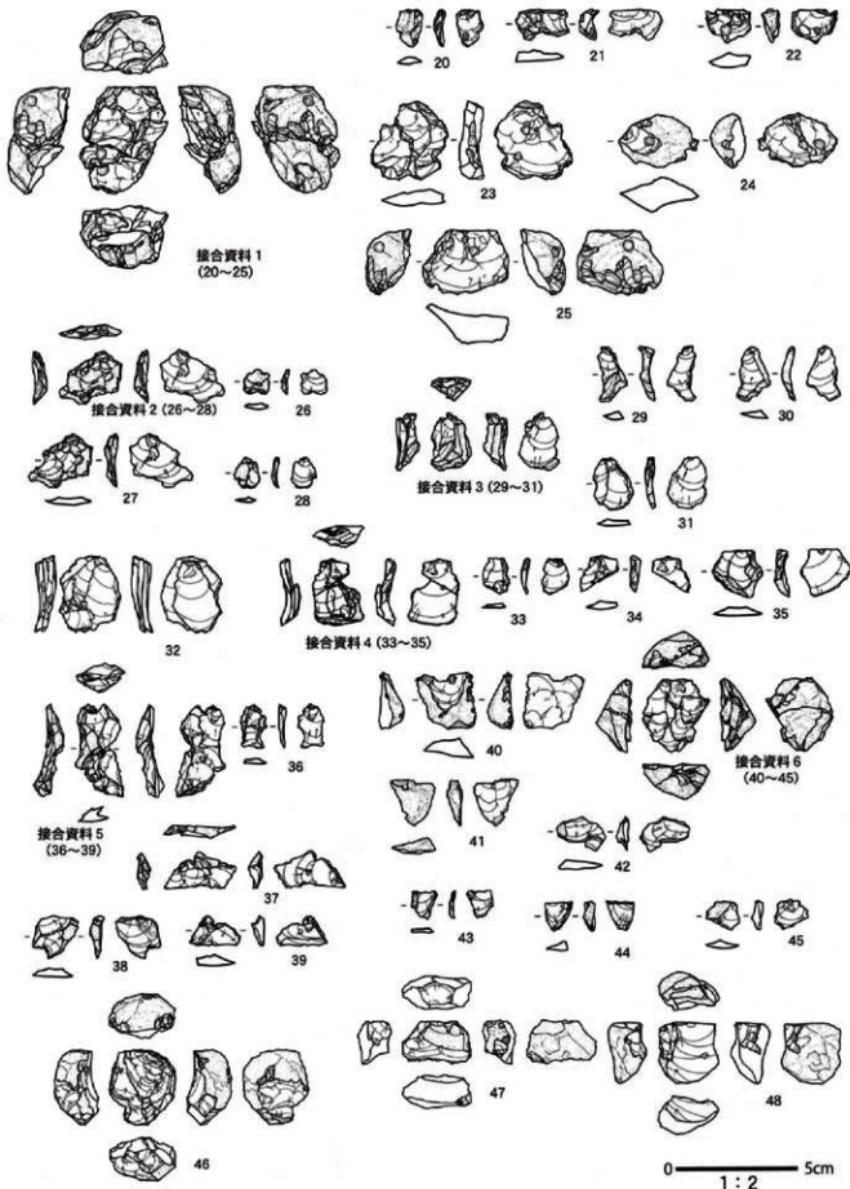
第16図 後期旧石器時代Ⅱ期石器分布図



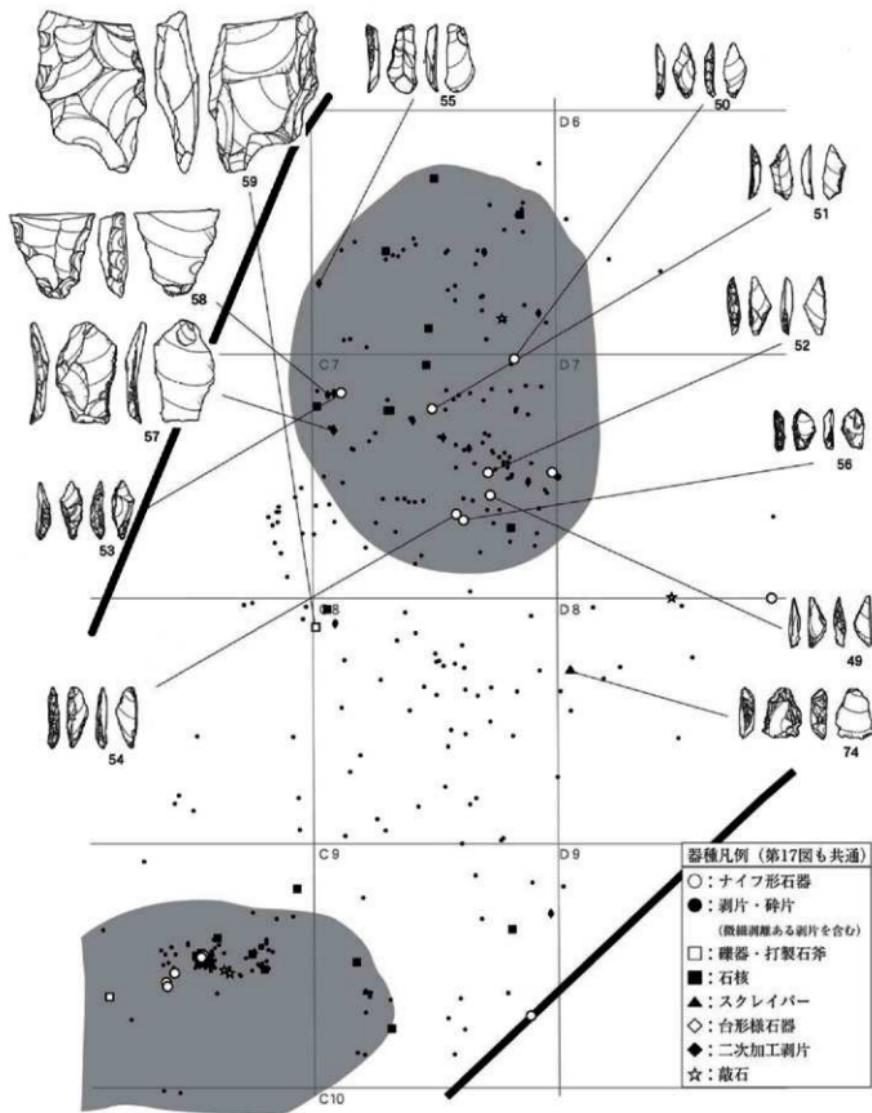
第17図 ブロックA石器分布図



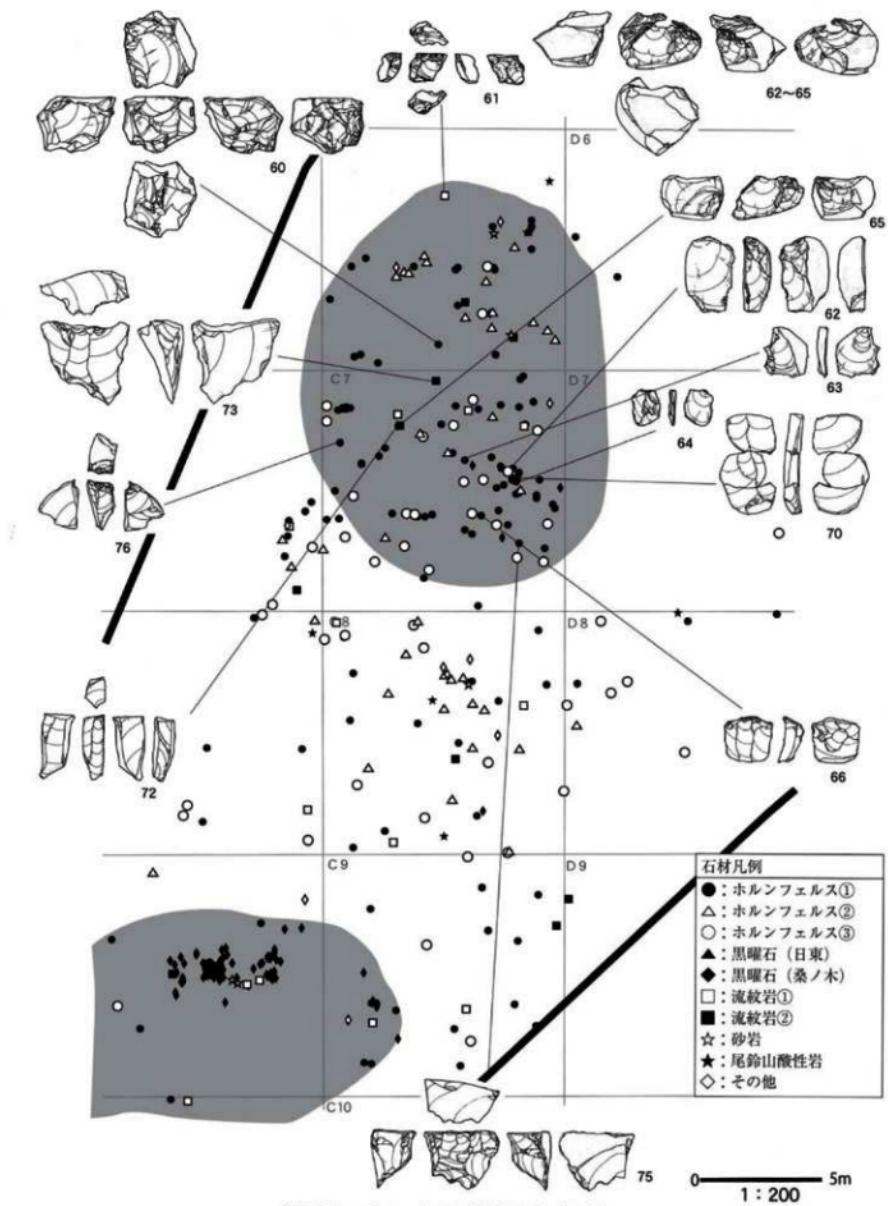
第18図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（1）



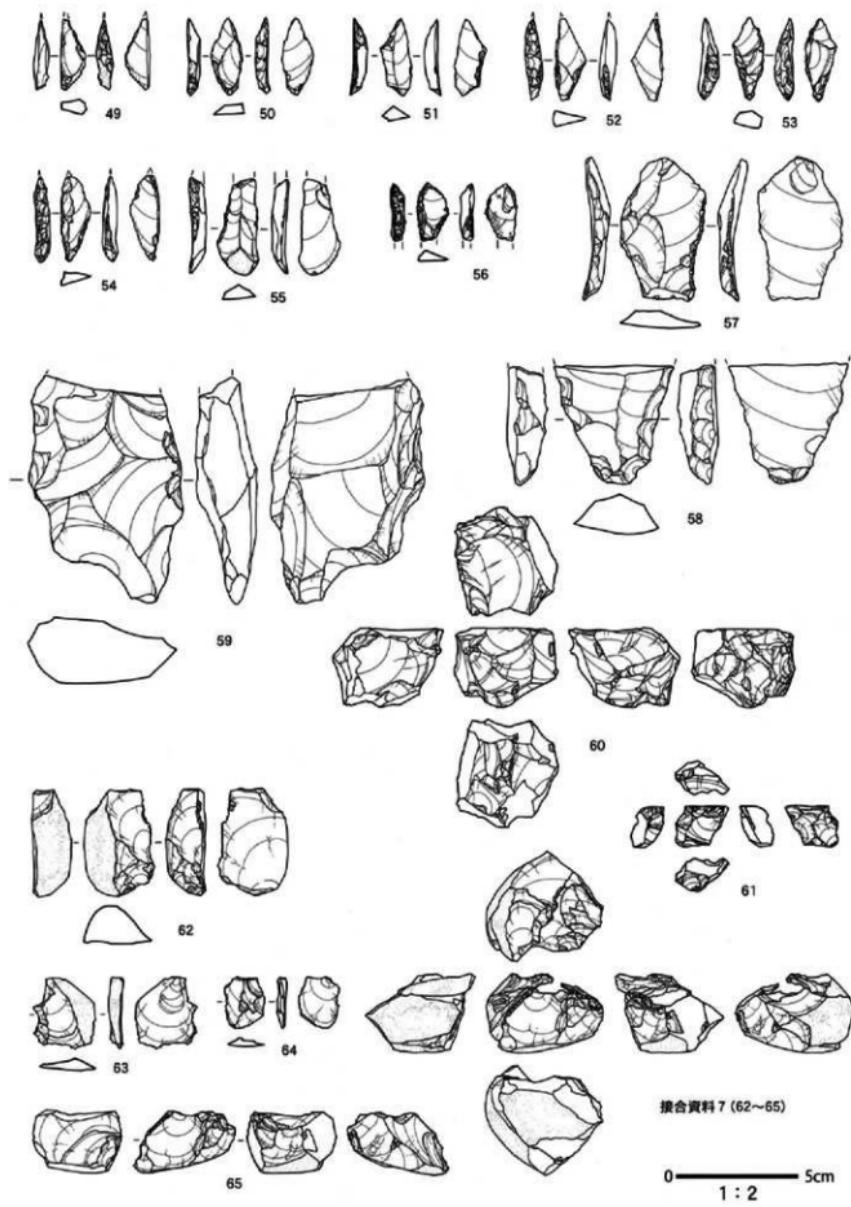
第19図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（2）



第20図 ブロックB 石器分布図 (器種)



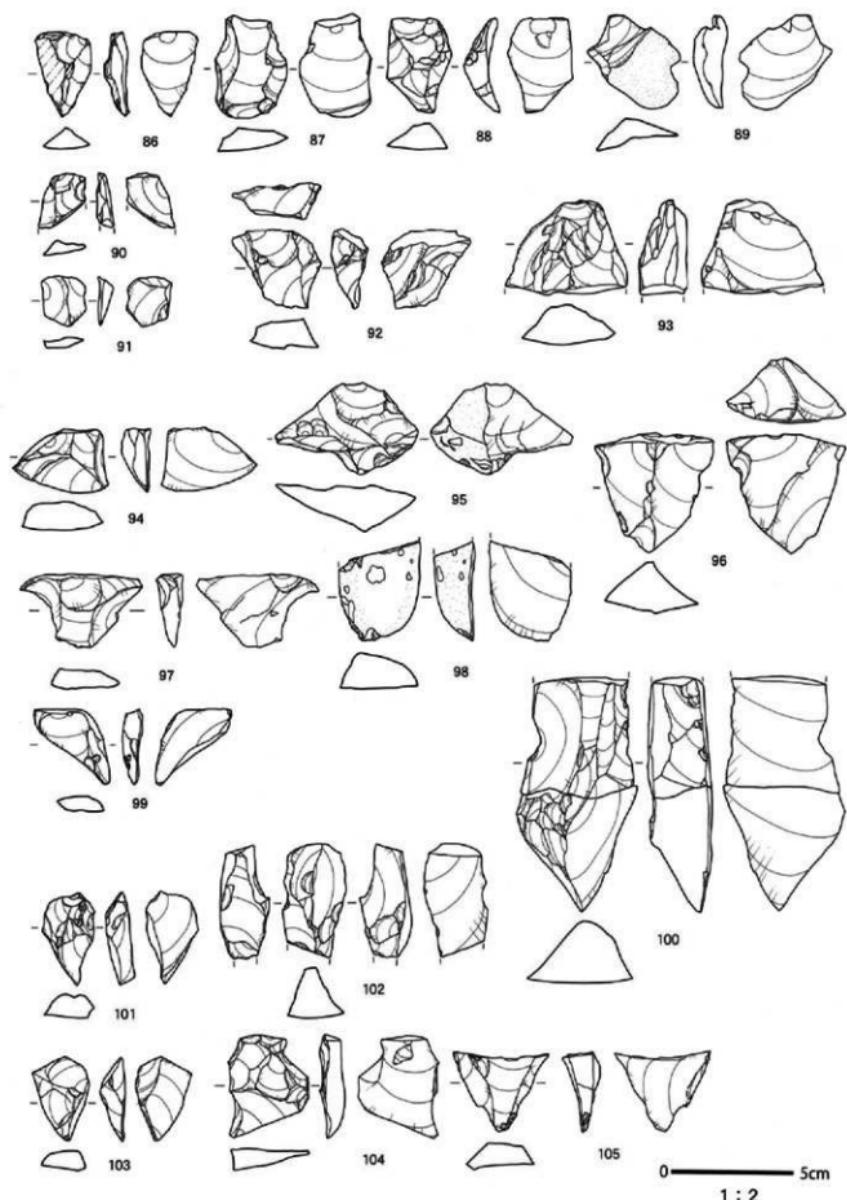
第21図 ブロックB石器分布図(石材)



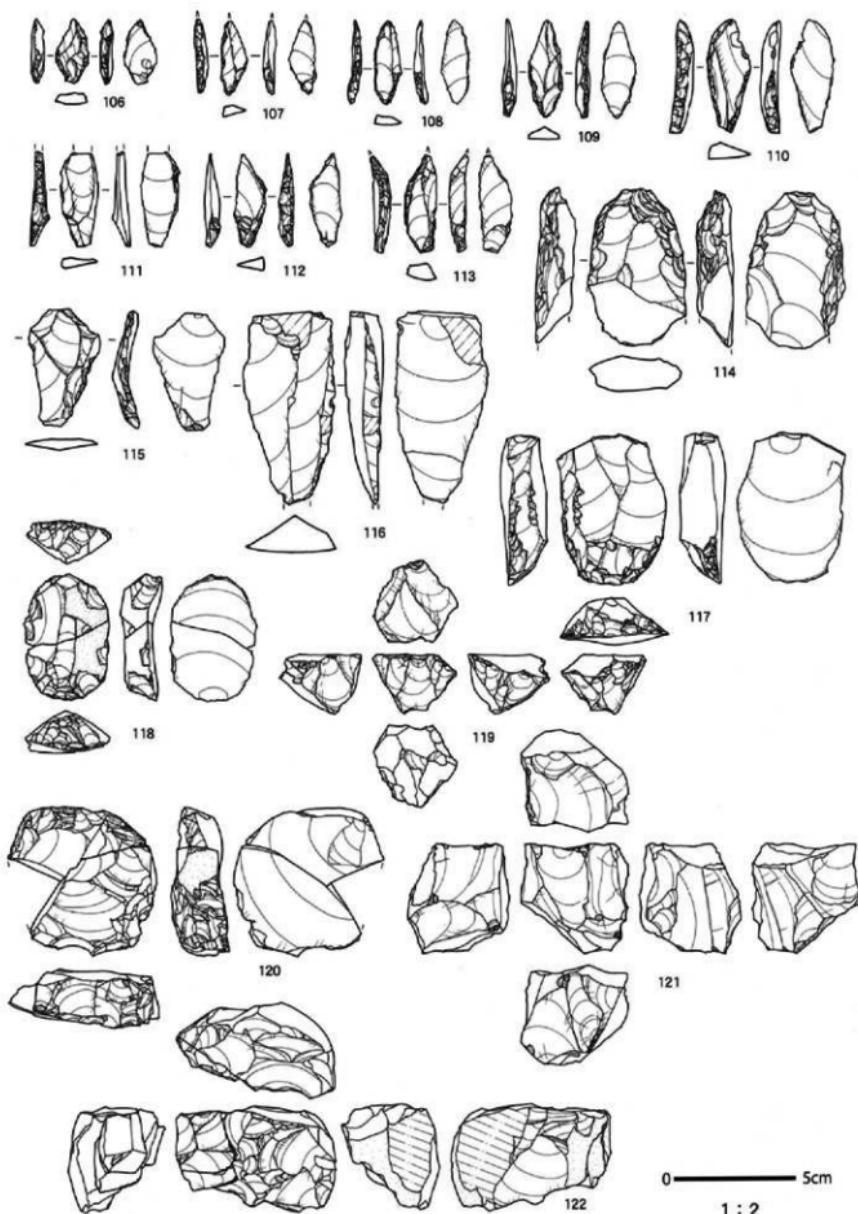
第22図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(3)



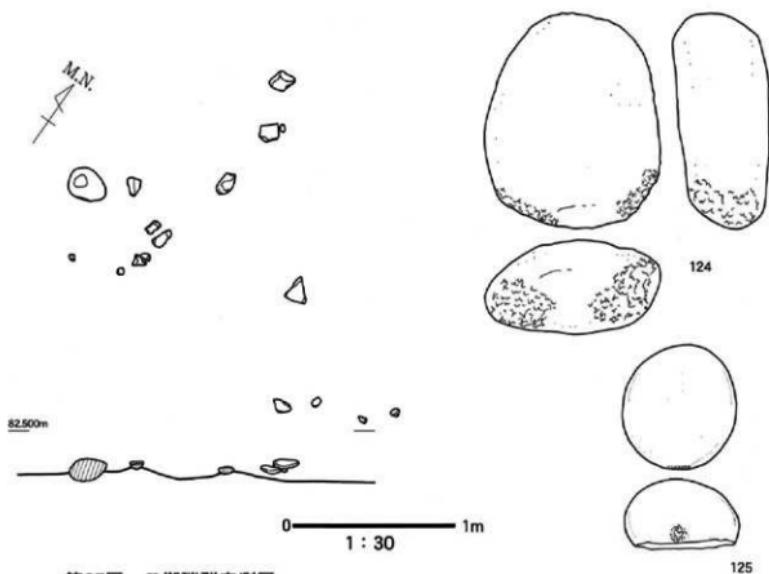
第23図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（4）



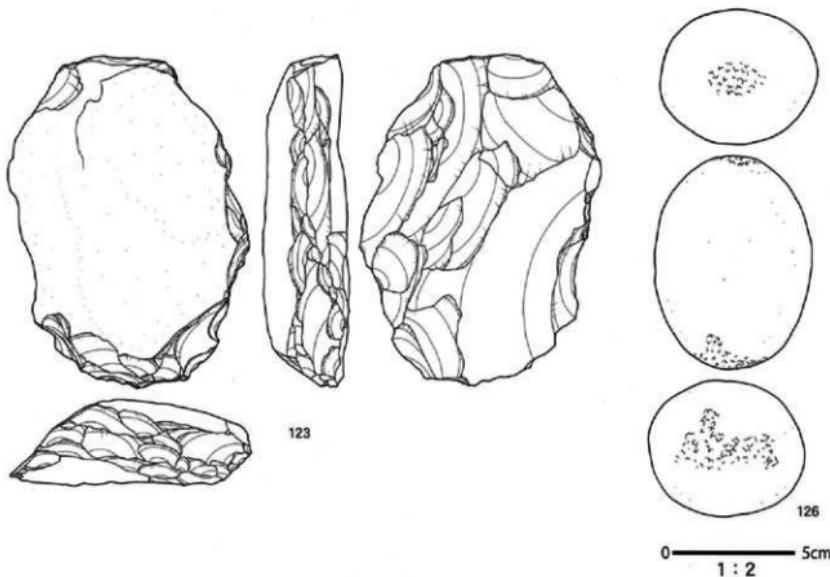
第24図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（5）



第25図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(6)



第27図 II期礫群実測図



第26図 後期旧石器時代 II期石器実測図 (7)

第4表 I期・II期石器観察表

掲載番号	遺物番号	出土層位	Gr	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	ブロック	観察所見
1	1682	IX	09	筒部磨削器	Hed③	12.6	5.6	2.3	245.5	—	扁平な環状素材を利用。刃部付近磨削。
2	5340	X	13	敲石	Se①	8.3	5.7	4.4	199.0	—	円錐。ほぼ全面に敲打痕。
3	1844	IX	B9	ナイフ形石器	Os②	2.1	0.8	0.4	0.5	A	小型の裁量片を素材とし、素材末端が基盤。
4	1843	IX	B9	ナイフ形石器	Os②	2.3	0.9	0.6	0.9	A	小型の裁量片を素材とし、側面に入念な加工。
5	1845	IX	B9	ナイフ形石器	Os②	2.2	1.0	0.5	0.6	A	小型の裁量片を素材とし、側面線から側面により基部は鋭角。
6	1940	IX	B9	ナイフ形石器	Os②	2.2	1.1	0.5	1.1	A	縦長い凹いわゆる底広の裁量片素材。先端部は欠損。
7	1869	IX	B9	ナイフ形石器	Os②	1.7	1.0	0.6	0.7	A	縦長の裁量片素材。左側面に入念な加工。
8	1832	IX	B9	ナイフ形石器	Os②	2.1	1.1	0.7	1.1	A	縦長い凹いわゆる底広の裁量片素材。石器基部側には縫面が残存。
9	1842	IX	B9	ナイフ形石器	Os②	2.8	1.1	0.7	1.8	A	縦長の裁量片素材で素材本端が基盤。正面下に縫面が残存。
10	1705	IX	C9	原石	Os②	3.2	2.0	1.8	14.4	A	豊富な研磨。3cm大の垂直面。
11	1489	C7	筒部研磨の小片	Os①	2.4	1.5	1.0	2.3	—	A	縦長の裁量片素材。素材末端に縫面が残存。左側面に微細な削痕。
12	1801-1802	IX	B9	調片	Os①	2.4	2.1	0.4	2.2	A	幅広調片。前側面の削痕とは逆方向を中心削除痕。
13	1841	IX	B9	調片	Os②	3.8	2.0	0.8	8.3	A	縦長調片。正面はほぼ全面に縫面が残存。
14	1706	IX	A9	調片	Os②	3.8	2.7	0.7	4.8	—	横長調片。
15	1941	IX	B9	調片	Os②	3.5	1.4	0.3	1.9	A	縦長調片。正面は上・下両端側から側面により縫面除去。
16	1844-1845	IX	B9	調片	Os②	3.2	1.8	0.7	3.4	A	縦長調片。不規則方向からの削片調削。
17	1806	IX	B9	調片	Os②	3.5	2.5	1.0	6.8	A	幅広調片。両側面に不定方向からの削痕。
18	1817-1818	IX	B9	敲石	Os②	8.1	2.7	2.7	83.1	A	棒状状。上端・下端に敲打痕。
19	1713	IX	B9	調片	Os②	2.8	2.3	1.5	16.9	(A)	立のみの筒片。上部から流れ込みの可能性が高い。
20	1796a	IX	B9	調片	Os②	1.5	1.1	0.4	0.4	A	小範長調片。接合資料1。
21	1817	IX	B9	調片	Os②	1.2	2.1	0.7	1.1	A	幅広調片。接合資料1。
22	1793a	IX	B9	調片	Os②	1.4	1.8	0.7	1.3	A	幅広調片。接合資料1。
23	1793	IX	B9	調片	Os②	3.7	3.1	1.0	6.6	A	幅広調片。打削調整なし。右側面は縫面が残存。接合資料1。
24	1811	IX	B9	石核	Os②	2.2	3.2	1.4	7.1	A	円錐素材。不整形調片調削。接合資料1。
25	1815	IX	B9	調片	Os②	2.7	3.5	1.8	12.4	A	円錐素材。幅広調片調削。縫面が残存。
26	1905	IX	B9	調片	Os②	1.0	1.0	0.3	0.1	A	小調片。裏面は全面縫面。
27	1846	IX	B9	石核	Os②	2.2	2.6	0.5	1.8	A	幅広調片。打削調整なし。縫面調整なし。接合資料2。
28	1971	IX	B9	調片	Os②	1.2	1.0	0.3	0.1	A	小調片。接合資料2。
29	1874	IX	B9	調片	Os②	1.1	1.1	0.2	0.1	A	小範長調片。接合資料3。
30	1873	IX	B9	調片	Os②	1.2	1.1	0.4	0.4	A	小範広調片。接合資料3。
31	1826	IX	B9	調片	Os②	1.2	1.4	0.4	0.7	A	小範広調片。接合資料3。
32	1809-1810	IX	B9	調片	Os②	3.1	2.3	0.6	4.7	A	縦長調片。筒片。
33	1875	IX	B9	調片	Os②	1.5	1.3	0.3	0.4	A	小範長調片。接合資料4。
34	1890	IX	B9	調片	Os②	1.5	1.5	0.4	0.6	A	小範広調片。接合資料4。
35	1880	IX	B9	調片	Os②	1.8	2.0	0.6	1.5	A	幅広調片。接合資料4。
36	1814	IX	B9	調片	Os②	1.8	1.1	0.3	0.4	A	小範長調片。接合資料5。
37	1892	IX	B9	調片	Os②	1.5	2.9	0.6	1.2	A	小範広調片。接合資料5。
38	1947	IX	B9	調片	Os②	1.7	1.9	0.6	1.0	A	小範広調片。接合資料5。
39	1998	IX	B9	調片	Os②	1.2	2.0	0.5	0.7	A	小範広調片。接合資料5。
40	1840	IX	B9	石核	Os②	2.3	2.4	1.0	3.5	A	幅広調片。正面縫面復元。接合資料6。
41	1824	IX	B9	調片	Os②	1.9	1.8	0.8	1.3	A	幅広調片。接合資料6。
42	1894	IX	B9	調片	Os②	1.9	1.9	0.5	0.9	A	小範広調片。接合資料6。
43	1881	IX	B9	調片	Os②	2.2	1.2	0.7	0.6	A	小調片。接合資料6。
44	1833	IX	B9	調片	Os②	2.2	1.3	0.3	0.8	A	小調片。接合資料6。
45	1903	IX	B9	調片	Os②	2.1	1.6	0.5	1.0	A	小調片。接合資料6。
46	1847	IX	B9	石核	Os②	3.1	2.7	1.7	13.1	A	円錐素材。打削調整を施さず幅広調片剥離。
47	1858	IX	B9	石核	Os②	1.8	2.8	1.3	6.4	A	円錐素材。人為的加工なく、縫形状によるもの。
48	1821	IX	B9	石核	Os②	2.5	2.4	1.8	8.7	A	亜角錐素材。打削調整なく、縫面が調片剥離時の打削。
49	1523	IX	C7	ナイフ形石器	Hed③	2.9	1.0	0.8	1.8	B	小形の裁量片素材。右側面は平面上に念な加工。
50	1594	C7	ナイフ形石器	Hed③	3.1	1.2	0.5	1.8	B	縦長調片素材。素材表面を石器部基部に規定。	
51	1905	C7	ナイフ形石器	Hed③	3.1	1.2	0.6	1.8	B	縦長調片素材。先端・基部は裏面側。刃尖は正面側から調整。	
52	1544	C7	ナイフ形石器	Hed③	3.2	1.2	0.5	2.1	B	縦長調片素材。素材末端が基盤。刃部は鋭角で切り出し狀。	
53	1588	C7	ナイフ形石器	Hed③	3.4	1.3	1.0	2.5	B	両側面線から基部周辺に入念な加工。刃部はベンチ先状。	
54	1492	IX	C7	ナイフ形石器	Hed③	3.5	1.2	0.6	2.1	B	縦長調片素材。刃部は微細調整が残る。先端部欠損。
55	1740	IX	C6	二次加工調片	Hed③	3.9	1.7	0.7	3.9	B	縦長調片素材。左側面に加工が施される。先端部欠損。
56	2007	C7	ナイフ形石器	Os①	2.3	1.3	0.5	1.4	B	縦長い凹いわゆる底広の裁量片素材。	
57	1555	IX	C7	二次加工調片	Hed③	8.0	3.9	1.0	14.5	B	縦長調片素材。右側面に二次加工。右側面上部に張継調削。
58	1760	IX	C8	二次加工調片	Hed③	4.9	3.9	1.5	32.1	B	縦長調片素材。裏面から二次加工。上部欠損。
59	1761	IX	C8	剥離	Hed③	9.3	6.2	3.0	151.2	—	全面が不定形かねの細い縫形による形態。上部欠損。
60	1600	IX	C6	石核	Os②	3.3	4.2	4.5	74.8	B	打削調整を施さない。不規則方向からの剥離。頭部調削を有する。
61	1694	IX	C8	石核	水晶	1.6	2.1	1.4	3.5	B	平坦打削面を有し、幅広調片剥離。頭部調削を有する。
62	1585	IX	C7	調片	Hed③	4.4	2.9	1.8	21.7	B	縦長い凹いわゆる底広調片。裏面に縫面が残存。接合資料7。
63	1532	IX	C7	調片	Hed③	2.9	2.5	0.6	2.7	B	幅広の調片。正面右に縫面が残存。接合資料7。

掲載番号	遺物番号	出土層位	Gr	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	ブロック	備考
64	1531	IX	C7	調片	Hed①	2.1	1.6	0.4	1.1	B	幅広小調片。接合資料7。
65	1560	IX	C7	石核	Hed①	2.5	4.1	3.6	33.4	B	円錐素材。不定形方向から幅広調片剥離。接合資料7。
66	1522	IX	C7	調片	Hed①	2.8	2.8	1.1	7.3	B	幅広調片。頭部調整性を有し、調片剥離前終端は綫長調片剥離。
67	1597	IX	C8	調片	Hed①	2.5	2.3	0.8	4.9	B	幅広調片。平坦打面で頭部調整性を有する。
68	1526	IX	C7	調片	Hed①	3.1	3.2	1.4	7.4	B	幅広調片。
69	1543	IX	C7	調片	Hed①	3.9	2.5	1.5	7.7	B	幅広調片。正面右に縦面が残存する。頭部調整性を有する。
70	1539-1540	IX	C7	調片	Hed①	5.8	2.8	0.8	19.2	B	綫長調片。正面に綫長調片剥離の痕跡。中央欠損は偶発的か。
71	1524	IX	B7	調片	Ryu②	6.3	3.8	2.0	42.1	-	綫長調片。石核中央均等地とする。平坦打面。
72	1561	IX	C7	石核	Ryu②	3.8	1.2	1.3	8.8	B	綫長調片。頭部に凹凸を認める痕跡は無く。平坦打面。
73	1595	IX	C7	石核	Ryu②	4.8	5.1	2.6	39.7	B	調片素材。正面に3条の剥離面の痕跡が残る。平坦打面。
74	2022	IX	B9	スクリーパー	Hed①	2.8	1.9	0.9	6.3	-	綫長調片素材。素材末端、両側縁に三次加工。
75	1487	IX	C7	石核	Hed①	3.4	4.3	2.5	36.1	B	平坦打面から小綫長調片剥離。正面左には打面移行前の剥離。
76	1551	IX	C7	調片	Hed①	2.9	1.7	2.3	9.1	B	頭部による平面な面を打面とし小綫長調片剥離。頭部調整性あり。
77	1534	IX	C7	調片	Hed①	1.7	1.5	0.5	1.0	B	小幅広調片。
78	1548	IX	C7	調片	Hed①	1.8	1.7	0.5	1.1	B	小幅広調片。平坦打面を有する。
79	1568	IX	C7	調片	Hed①	2.5	1.4	0.4	1.2	B	小綫長調片。頭部調整性が介在する。下部欠損。
80	1515	IX	C7	調片	Hed①	2.7	1.0	0.5	1.5	B	小綫長調片。下部欠損。
81	1593	IX	C7	調片	Hed①	2.9	4.1	1.1	6.4	B	幅広調片。
82	1599	IX	C6	複数剥離の小調片	Hed①	4.4	2.2	0.6	7.2	B	綫長調片。頭部による平面な面を打面とし小綫長調片剥離。
83	1584	IX	C7	調片	Hed①	2.1	2.8	0.5	2.4	B	小幅広調片。
84	1559	IX	C7	調片	Hed①	3.1	2.5	0.9	4.2	B	幅広調片。正面右に縦面が残存する。
85	1577	IX	C7	調片	Hed①	2.9	3.0	1.4	7.0	B	綫長調片。左側縁に微細剥離が残る。頭部調整性を介在。
86	5220	IX	G3	調片	Hed②	3.5	2.3	1.5	8.1	B	幅広調片。平坦打面より剥離を採取。
87	5281	IX	E4	調片	Hed②	4.2	2.9	1.2	15.2	C	綫長調片。頭部による平面な面を打面とし小綫長調片剥離。
88	5282	IX	E4	調片	Hed②	3.9	2.7	1.0	10.2	C	幅広調片。
89	5270	IX	E4	調片	Hed②	3.8	3.8	1.4	10.9	C	幅広調片。円錐素材で、正面に縦面が残存。
90	5280	IX	E4	調片	Hed②	2.3	2.0	0.7	2.3	C	綫長調片。下部欠損。
91	52840	IX	E4	調片	Hed②	2.0	1.8	0.7	1.7	C	幅広調片。
92	5293	IX	E4	石核	Hed②	3.2	3.7	1.8	13.5	C	正面、裏面ともに不定形な小調片を採取。打面は縦面か、裏面は幅広調片。下部欠損か、使い込まれて風化が激しい。
93	5264a	IX	E4	調片	Hed②	3.9	5.0	2.0	35.0	C	幅広調片。後が摩耗し風化が激しい。
94	5290	IX	E4	調片	Hed②	2.8	4.0	1.2	12.1	C	幅広調片。後が摩耗し風化が激しい。
95	5297	IX	E4	石核	Hed②	3.8	5.8	2.0	28.3	C	円錐素材。不規方尚から幅広調片を採取。
96	5288	IX	E4	石核	Hed②	4.9	4.9	2.5	45.4	C	向厚な幅広調片。
97	5295	IX	E4	調片	Hed②	3.0	5.0	1.1	11.9	C	幅広調片。後が摩耗し風化が激しい。
98	5292	IX	E4	調片	Hed②	4.1	3.3	1.7	25.2	C	正面は全て縦面で覆われる。円錐素材。
99	5266	IX	E4	調片	Hed②	3.1	3.1	0.8	6.3	C	不定形調片、壁が摩耗し風化が激しい。
100	1544-1545	IX	E4	二次加工調片	Hed②	9.4	4.5	2.3	110.9	C	綫長調片素材。左側縁に裏面側からの剥離。上部欠損。
101	1615	IX	C6	調片	Hed②	3.8	2.2	1.2	7.8	C	不定形調片、壁が摩耗し風化が激しい。
102	1606	IX	C6	調片	Hed②	4.6	2.8	2.2	20.8	C	不定形調片。
103	1622	IX	C6	調片	Hed②	3.4	2.3	1.2	6.1	C	幅広調片。風化が激しく、枝が摩滅。
104	1602	IX	C6	調片	Hed②	4.2	3.2	1.5	11.7	C	綫長調片。平坦打面より剥離を採取。
105	1610	IX	C6	調片	Hed②	3.2	3.9	1.8	10.5	C	幅広調片。
106	5317	IX	E5	ナイフ形石器	Osh①	2.8	1.3	0.5	1.8	-	幅広調片素材の二側縁加工ナイフ形石器。刃部に微細な剥離。
107	2065	IX	C9	ナイフ形石器	Hed①	3.0	1.1	0.4	1.3	-	小形の綫長調片素材。調片剥離打面を基準側に設定。
108	5263	IX	E4	ナイフ形石器	Hed①	3.4	1.1	0.4	1.6	-	小形の綫長調片素材で調片剥離打面を基準側。先端が尖る。
109	5222	IX	G3	ナイフ形石器	Hed①	3.9	1.4	0.8	2.8	-	綫長調片素材で、素材打面側が基準側とする。刃部に微細剥離。
110	5239	IX	F4	ナイフ形石器	Hed①	4.7	1.8	0.8	5.9	-	綫長調片素材。刃部に微細な剥離痕が残る。下部欠損。
111	1481	IX	C7	ナイフ形石器	Hed①	3.9	1.5	0.7	2.1	-	綫長調片素材。左側縁側のみ三次加工。上部・下部欠損。
112	1942	IX	B9	ナイフ形石器	Hed①	3.8	1.2	0.8	2.4	-	綫長調片素材。素材剥離の打面を残す。
113	2050	IX	D8	ナイフ形石器	Hed①	4.0	1.3	0.7	3.3	-	綫長調片素材。基材剥離の打面を残す。先端部欠損。
114	5227	IX	G4	打磨石斧	SH	8.4	4.1	1.5	45.0	-	両側縁打磨の手加工による整削。正面中央の摩耗部は研磨か。
115	2084	IX	C9	二次加工調片	Ryu②	4.8	2.9	1.0	8.2	-	綫長調片素材。正面下端に縦面が残存。
116	384	IX	A9	複数剥離の小調片	Hed③	7.9	3.8	1.6	38.9	-	綫長調片素材。正面に石刀状の綫長調片剥離を残す。
117	5315	IX	E5	スクリーパー	Hed①	8.1	4.5	1.5	50.0	-	綫長調片素材。調片末端に縦面が残る。三次加工で磨かれる。
118	1500-1501	IX	G3	スクリーパー	Hed②	5.0	3.3	1.8	29.3	-	綫長調片素材。素材上・末尾に二次加工。風化が激しい。
119	5351	IX	I2	石核	Hed②	2.4	3.4	3.3	22.0	-	平坦打面。小形の綫長調片が採取され、抜核形状は円錐形。
120	1510-1514	IX	G4+H4	石核	Hed①	6.2	6.2	2.1	96.1	-	小形の幅広調片採取か。欠損は調片採取時の衝撃か。
121	5252	IX	F4	石核	Hed③	4.5	4.4	4.1	84.4	-	不定方向から面削移動を繰り返す。最終剥離採取は平坦打面。
122	1509-1510	IX	E5+F4	石核	Hed①	4.6	6.8	3	103.8	-	円錐素材。不定形方向から側面調片剥離。
123	1530	IX	B9	縞膜	Hed③	13.5	9.9	3.5	51.0	-	正面ほぼ全面に縞膜。底板は板状。
124	5224	IX	G3	巖石	Os	8.9	7.2	3.8	340.3	-	両側面下端に縞膜。底板の厚さは肥厚。
125	1698	IX	C8	巖石	Se①	5.1	4.7	2.9	84.7	-	小円錐。下端に巖石欠損。欠損は巖核によるためか。
126	5306	IX	E4	巖石	Os	8.8	6.5	5.5	398.2	-	円錐。巖の上端・下端に巖石張。

## 第6節 後期旧石器時代Ⅲ期

Ⅲ期石器群はⅣ層～Ⅶ層で確認された石器群で、遺物のはとんどがⅥ層上部から出土した。しかし、第13図に示されるとおりⅥ層検出面での遺物の分布は調査区全面に渡り、前節で触れたブロックAのような、一定範囲での石器の集中を見出すことは困難であった。

第Ⅳ章第2節において、石器群の理解を図るために、本報告書でのブロックの設定の基準を示した。しかし、説明が不足している点もあるため、出土遺物が各時期の中で最も多いⅢ期石器群の報告を前に、Ⅲ期石器群を検討する際に行った作業を説明したい。

まず、Ⅲ期石器群以外の石器群（Ⅰ・Ⅱ期石器群、後述するⅣ期石器群、縄文時代早期の石器群）を除去し、第28図のような平面分布図を石材ごとに作成するとともに、出土遺物の点数を5m×5mのグリッドで区切り、遺物分布の偏りを確認した。これらの作業の結果、日東系の黒曜石がF5Gr、G5Gr周辺に集中して分布すること等、分布に特徴が見られる石材の抽出を行うことができた。また、チャート製、玉髓製の剥片・碎片が集中する範囲は同石材の石礫と分布域が重なることから、両石材の剥片・碎片は縄文時代早期に帰属されることとした。

数量・重量とともに大きい流紋岩①類やホルンフェルス①類、ホルンフェルス③類は遺物・重量の両分布図を作成するとともに、接合資料の平面的な範囲の確認を行った。

その結果、流紋岩①類、ホルンフェルス①類、ホルンフェルス②類、ホルンフェルス③類の石材は接合範囲がほぼ同じ範囲に収まることとなった。なお、接合資料の多くは尾根の鞍部と谷とで接合が確認され、遺物が標高の低い方へ向かって落ち込んだ可能性を示すかのような状況であった。

また、堆積の薄い調査区南西、C6Gr・D6Gr周辺は、ナイフ形石器等が多く確認されるが、これまで指摘してきたように、上層削平の為、遺物が原位置を留めていない可能性が高い。こうした理由から、調査区のほぼ全面がATに覆われていたⅡ期石器群とは異なり二次的な動きが激しいと考え

られる。そのため出土遺物の図化を行ったが、平面分布等の検討は避けた。

こうした作業を行った後、同一母岩を見出すことを目的とし、石器の観察を行った。ブロックの抽出に対しては、後述する細石刃石器群や縄文時代に位置づけられる剥片等の遺物とⅢ期石器群の明確な区分が行えない以上、石器群の集中するF～H・3～5Gr周辺に限り、平面分布状で石器の集中する範囲の器種構成、石材構成を指摘するに留めた（第31図～第36図）。ここでブロックとした石器群は平面分布から分かるように、掘削範囲に対し、遺物が特に密集する範囲はなく、掘削時から明確に遺物の集中が確認された前述のブロックAのような出土状態ではなかった。

なお、ブロックの名称はⅡ期石器群と区分するため、ブロックD、E、F、Gとした。

### 礫群（第30図・第62図）

Ⅶ層より礫群を4基検出した。SI21はⅥ層直上より、平面形が円を呈するよう礫が検出された。すべてが尾鈴山酸性岩類で構成され、そのほとんどの礫面が激しく赤化していた。礫は完形のものがなくすべて破碎礫で構成され、破損面にも赤化が認められた。造構内の礫は1点ずつ取り上げをおこなったが、礫は全面が赤化し、下部が赤化しないという状況は認められなかった。また、SI21より出土した炭化材に対しAMSによる年代測定を行ったところ、曆年代較正の範囲外ではあるが、24,900±160年BPの年代値が得られている。

Ⅲ期の造構とした4基の礫群は上位層からの落ち込みは考えられない。また、後述する集石造構と比較して造構を構成する礫の赤化が激しいことに特徴をもつことで共通している。

調査区中央の東端に他の礫群に比べ平面規模が大きく、300点を超える破碎礫で構成されるSI21が配置され、その約20m南西に散在状に礫が散在するSI23、SI27が、その約10m南西に礫が円状に密集するSI30が検出されている。調査区中央より北からは礫群は確認されなかった。

### ブロックD・Eの石器群（第31～第34図）

F4Gr、G4Gr周辺で、ナイフ形石器や角錐状石器が集中して分布していた。分布している範囲は重なっていたが石材と器種構成が異なることからブロックDとブロックEを区別した。両ブロックが位置する範囲は旧地形が調査区の中でも比較的平坦な箇所であり、面的にそろって遺物が分布する。

ブロックDでは流紋岩①類製の角錐状石器に特徴がみられる。特に、F4aGr、F4cGr周辺径3m×4mの範囲に、ナイフ形石器と角錐状石器が弧状に分布するような遺物の出土状況であった。

294、295は主要剥離面の両側縁から二次加工が施された後、中央に走る稜を除去するかのように緩あるいは横からの加工が加えられる。そのため、断面形が台形状となることで共通した特徴をもつ。また、312や313のように、角錐状石器の先端部のみが出土している例もある。

ブロックEはブロックDより若干北東に位置する。G4Gr周辺径5m×7mの範囲には347～354、355～359の接合資料があり、これらは、当時の剥離工程を示す接合資料で、偶発的な割れや、二次的な割れ等が含まれるもの、人為的な剥離による痕跡も残る。接合遺物の範囲の広がりは、二次的な移動の範囲を示す上で重要であり、接合範囲を重视しブロックEと設定した。

ナイフ形石器の素材にはホルンフェルス①類が多く利用される。打面を基部側に設定した綫長剥片を用い、基部側にプランティングが施されるものが多く、先端部付近に部分加工を施すものも存在する。

178、195はナイフ形石器としたが、角錐状石器と共に通するような平坦剥離が施される。両石器とも打面を除去するかのように裏面基部側に加工が施されている。

341はホルンフェルス①類の搔器である。幅広の剥片の末端に粗い二次加工が施されている。正面に残る3条の剥離痕はすべて341の素材採取前の剥離によるものである。

### ブロックFの石器群（第35図～第36図）

ブロックFは調査区東H3Gr、H4Gr周辺に位置する。前述のブロックD、ブロックEの範囲からはおよそ5mの間隔をもつ。ブロックFの特徴として、H3Grではナイフ形石器が9点、H4Grからは台形様石器が5点出土している。調査区内で台形様石器が散在せずまとまって出土するのはH4Gr周辺のみである。

台形様石器は5点を図化した。綫長剥片、あるいは不定形な剥片を素材とし、それを横位に用いて両側縁への調整が施されている。基部が先細りするように整形され、形態が盤状を呈することで共通している。

326は剥片尖頭器である。綫長剥片の打面を基部側に設定し基部に抉りを施すように加工が施されている。326と同様の形態を呈す剥片尖頭器は本遺跡内からは他に出土しておらず、特異な石器である。

### ブロックGの石器群（第52図）

F5Gr、G5Gr周辺では、50点を超える黒曜石③類製の石器が集中した。石材は風化が著しい1点の角錐状石器(433)を除き、他の角錐状石器、剥片等と共に通した特徴を示している。同一母岩とも考えられるが接合する遺物は確認されていない。そこでF5Gr、G5Gr周辺より出土した黒曜石③類製の石器群をブロックGと設定した。

ブロックGでは径20m×11mの範囲に黒曜石③類製の角錐状石器が3点、二次加工剥片が1点、50点以上の剥片等が出土している。

### その他の石器（第37～54図）

Ⅲ期の石器としてブロック内外を含め、ナイフ形石器等332点を図化した。これらの石器群の中で、ナイフ形石器や角錐状石器はその素材や加工部位、形態により分類が可能である。

ナイフ形石器は、綫長剥片を素材とするものがほとんどで、横長剥片を素材としたものは僅かに確認される程度である。

二側縁加工のナイフ形石器、あるいは基部加工のナイフ形石器が多くみられ、小形の綫長剥片を

素材としたものや（第40図213～240）、やや幅広の剥片を素材とした基部周辺に加工が施されるもの（241～254）、正面基部中央に前段階の剥離が残るもの（256～261）等は共通した特徴を見出せる。

角錐状石器は最大長が5cmを超えるものと、5cm以下に大別できる（第42図、第43図）。大形のものは、ホルンフェルス③類を石材とし、素材となる縦長剥片の基部側に打面を設定し、縦長剥片採取時に生じた剥片の厚みを除去するかのように、基部裏面に加工が加えられ、粗い二次加工により整形されている（318～320）。

小型の角錐状石器は、背面に主要剥離面が用いられるものと、剥片の厚みを除去するかのように、基部裏面が加工されるものも存在する。

台形様石器は、ナイフ形石器や角錐状石器に比べると出土数が少ないが、131を除き、器軸に対し直交あるいは斜方向の刃部を設定し、平面形態が腰状を呈することで共通している。

剥片尖頭器は3点出土した。322はナイフ形石器とも捉えられ、擬長剥片の打面側を基部に設定し、基部に抉りが施される。

また、326は基部に抉りを施す剥片尖頭器である。

### 【小結】

Ⅲ期の遺構・遺物として砾群4基と、F～H・3～5Gr周辺に設定したブロックについて説明してきた。

砾群は4基検出し、すべての砾群で砾面に激しい赤化が認められた。これらの砾群はⅦ層下部とⅨ層直上より検出されており、Ⅶ層上部で確認されたナイフ形石器等の石器群とは出土層位に違がある。そのため、遺構と遺物との関係は判断しづらいが、SI21上層より出土した石器のレベル差が0.4m存在することから、Ⅲ期とした石器群と砾群の間には、時期差が存在すると思われる。また、遺構が検出されるⅦ層下面では遺物がほとんど出土しないことから、遺構と遺物との統合的な判断を行うことはできなかった。

Ⅲ期石器群は、平面分布状況から、石器群の一括性を見出すことに努め、ブロックの設定を行った。

結果的には、一括性を有する石器の抽出を明確にすることはできなかったが、ブロックD・E・F・Gとした範囲では石器種・石材に異なる様相が確認された。

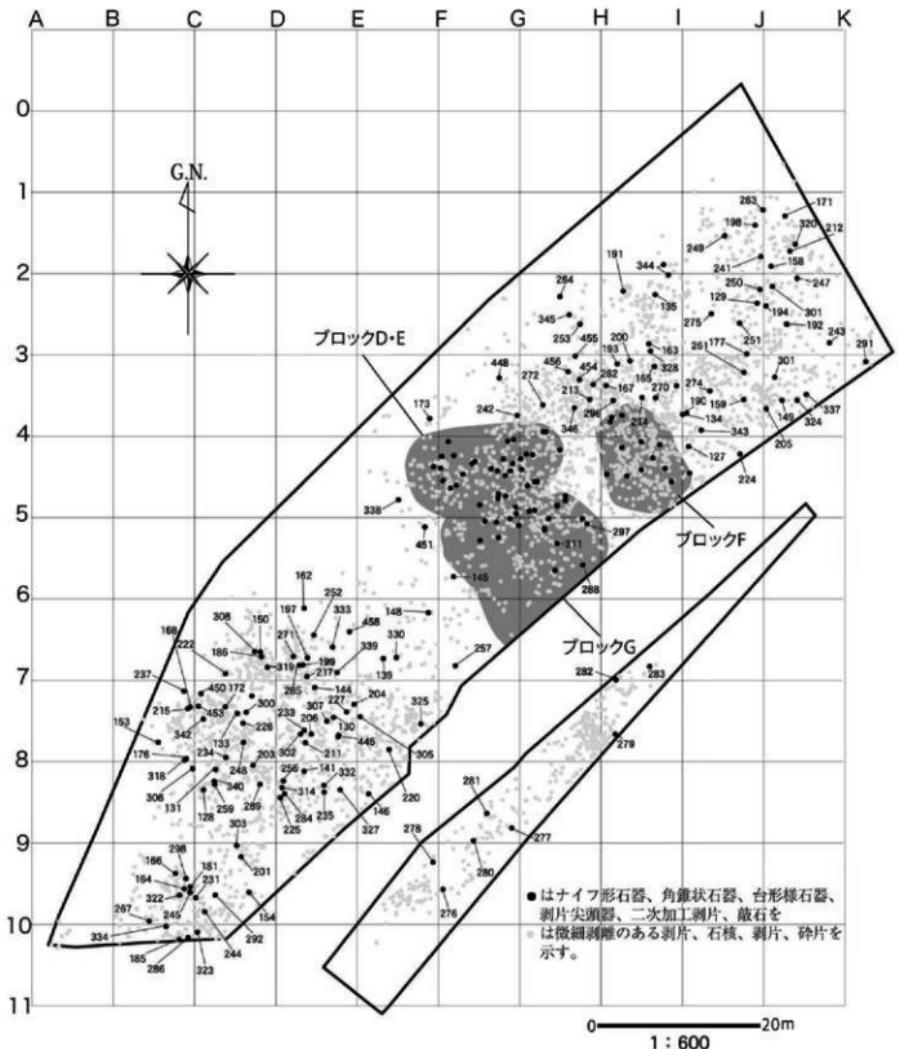
ブロックD・E・F・GはG4Gr、F4Gr周辺、径20m×30mの範囲に当たり、それぞれのブロックの設定基準は前述した通りである。設定されたブロックの特徴をまとめるとブロックDでは風化面が白色を呈す流紋岩①類製の角錐状石器が、ブロックEではホルンフェルス①類のナイフ形石器が特徴的である、また、ブロックFではホルンフェルス①類を石材とした台形様石器を含む石器群が確認される。

ブロックEはナイフ形石器と同じホルンフェルス①類の接合資料が集まる範囲であり、ブロックGの黒曜石③類製の角錐状石器、剥片は同一母岩の可能性を残している。

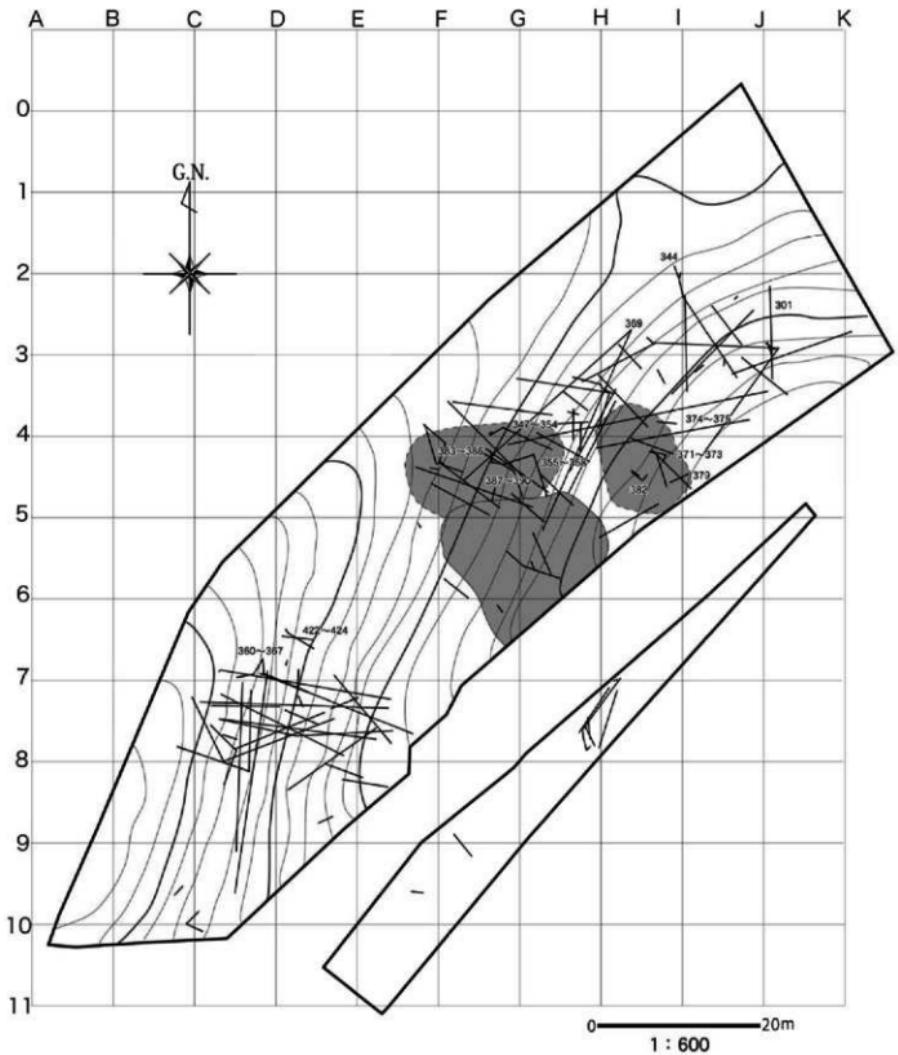
各ブロック間は、ブロックD・Eがほぼ同範囲となるのに対し、ブロックD・Eを中心とするとブロックFは約5m東に位置する。器種分布に限った分布をみると、両ブロック間にはナイフ形石器等の器種が空白となる範囲があり、ブロックD・EとブロックFを隔てた石器群の集中する場が存在するかのようである。また、ブロックGとした黒曜石③類製石器群はおよそ5m南に位置している。

これらの各ブロックすべての石器が同時期の所産とするには課題が残る。しかし、同範囲内において同一石材、同一器種の石器群が集まることは、注目すべきことである。

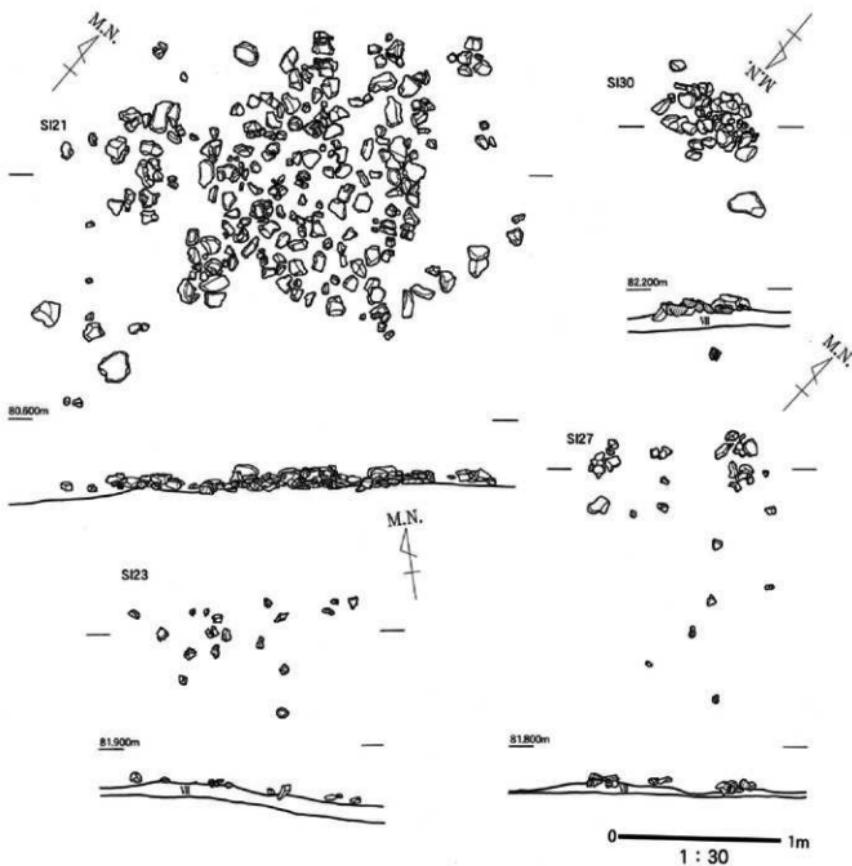
また、調査区の範囲に対し、石器が密に集中する範囲が存在せず、調査区全面に遺物が散漫に分布する状況はⅢ期石器群の特徴であり、その理解を困難にしているが、ブロックあるいは、その範囲外でもナイフ形石器、角錐状石器の分布が集中する範囲をもつ傾向がある（第6表）。これらの石器が集中する背景には、何らかの場の機能を想定することができるのかもしれない。



第28図 後期旧石器時代III期石器分布図



第29図 III期石器接合状況



第30図 III期砾群実測図

第5表 III期砾群観察表

遺構No	検出層	Gr	長(m)	幅(m)	総重量(g)	総標数(個)	振り込み	平面形態 密度	観察所見
SI21	VII	E7	2.8	1.8	125.908	544	-	円・密	堆積面上より検出。全てが砾群で構成。礫の赤化が強い。
SI23	VII	C8	1.7	0.4	2.538	13	-	散・稀	VII層下位より検出。礫の赤化が強い。
SI27	VII	C8	1.1	1.5	3.223	14	-	散・稀	礫の集中する範囲が分かれる。礫の赤化が強い。
SI30	VII	B10	0.8	0.4	11.937	42	-	円・密	平面形態は円弧状になり礫が密集。礫の赤化が強い。

第6表 グリッド別器種分類表

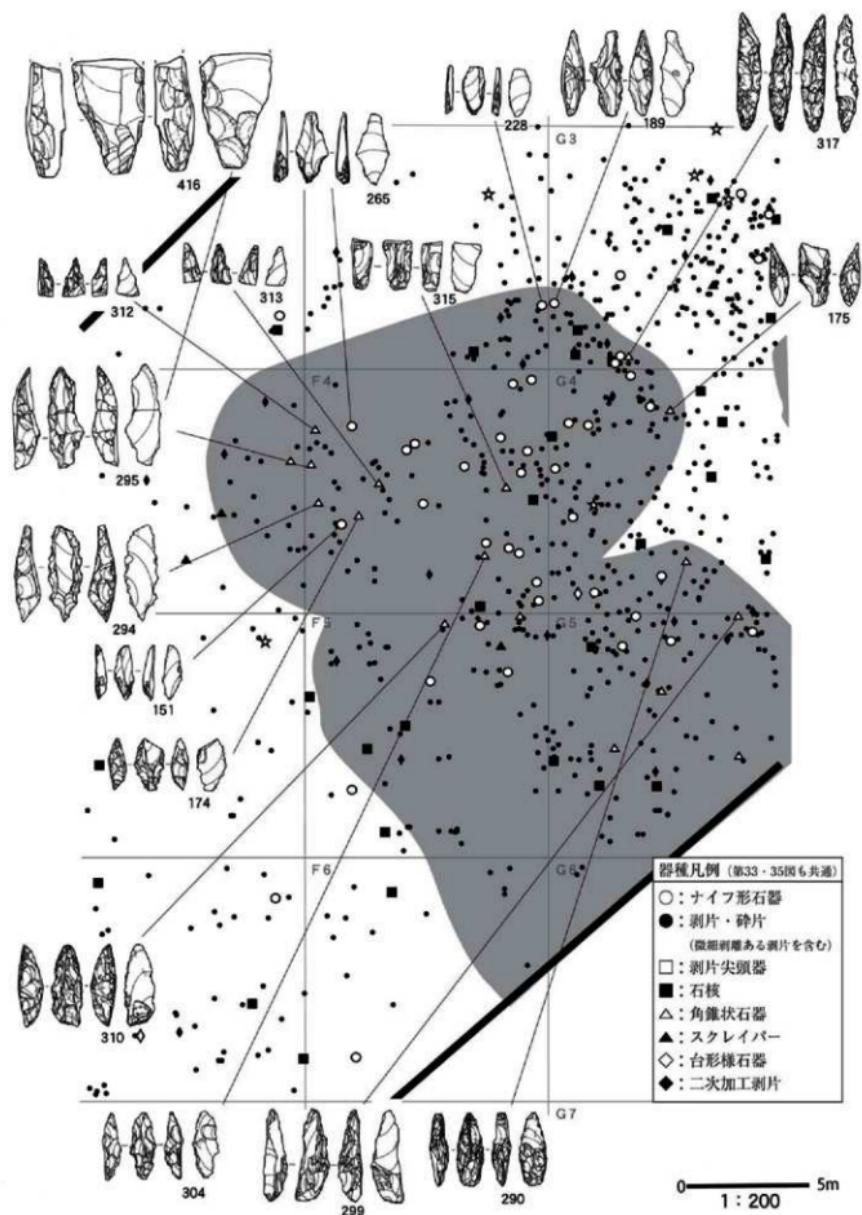
Gr		Kn	Tr	Ka	FP	Sc	RF	UF	Fl	Ch	Co	Ha	Mb	Mc	Cho
A8	b														
	d														
A9	b									2					
	c														
	d														
A10	a									5	1				1
	b														
B6	b														
	c														
	d									1					
B7	a									1					
	b	3								19	3				1
	c									1					
	d	2	1			2	1	26		2		1			
B8	a														
	b		1				1		10	1					
	c						1								
	d									7	1				
B9	a									6	1				
	b	1	1							20				3	1
	c									14	1				
	d	3		1		1				42	5				
B10	a									7	1	1			
	b	2	1			1				14	3		1		1
	c														
B10	a														
C5	a														
	b														
	c										1				
	d										1				
C6	a									1					
	b									13	1	1			
	c	1								8		1			
	d	3	2							72	6	3		4	
C7	a	1								2	2	2	2	2	
	b		1	1						55	2		2	1	1
	c									2	2				
	d	2								1	1	3	4		
C8	a	1	2							36	4	1	2	1	
	b	1	1							41	3	1			
	c									11		1	2		
	d									1	23	1			
C8	a												1		
C9	a		1							2	11	2			
	b	2	1							21	2	3			
	c	2								2	36	3	2		1
	d	1								1	10	1			
C10	a			1						19	1	1	1		1
C10	b														
D4	a														
	b														
	c														
D5	a														
	b														
	c														
	d									1					
D6	a	2								12	1	1	1	1	
	b									5					
	c	4	1							2	60	1	4	1	3
	d						1			2	25	1			
D7	a	2								1	40	3	1		
	b	3	1							4		20	2	1	1
	c	2		1						5	1	33		3	
	d	1								3	1	40	2		2
D8	a	3	1	1						4	1	36	2	3	
	b	1								1	1	21	1	2	
	c										18				
	d										10		1	1	1
D9	a										6				
D10	a														
	b														
	c														
E3	a														
	b														
	c											3			
	d	1										3			
E4	a											1			
	b											1			
	c											2	12		
	d											1			
E4		1										17		1	
E5	a														
	b											7		1	
	c											4		1	
	d											1	5		1

凡例

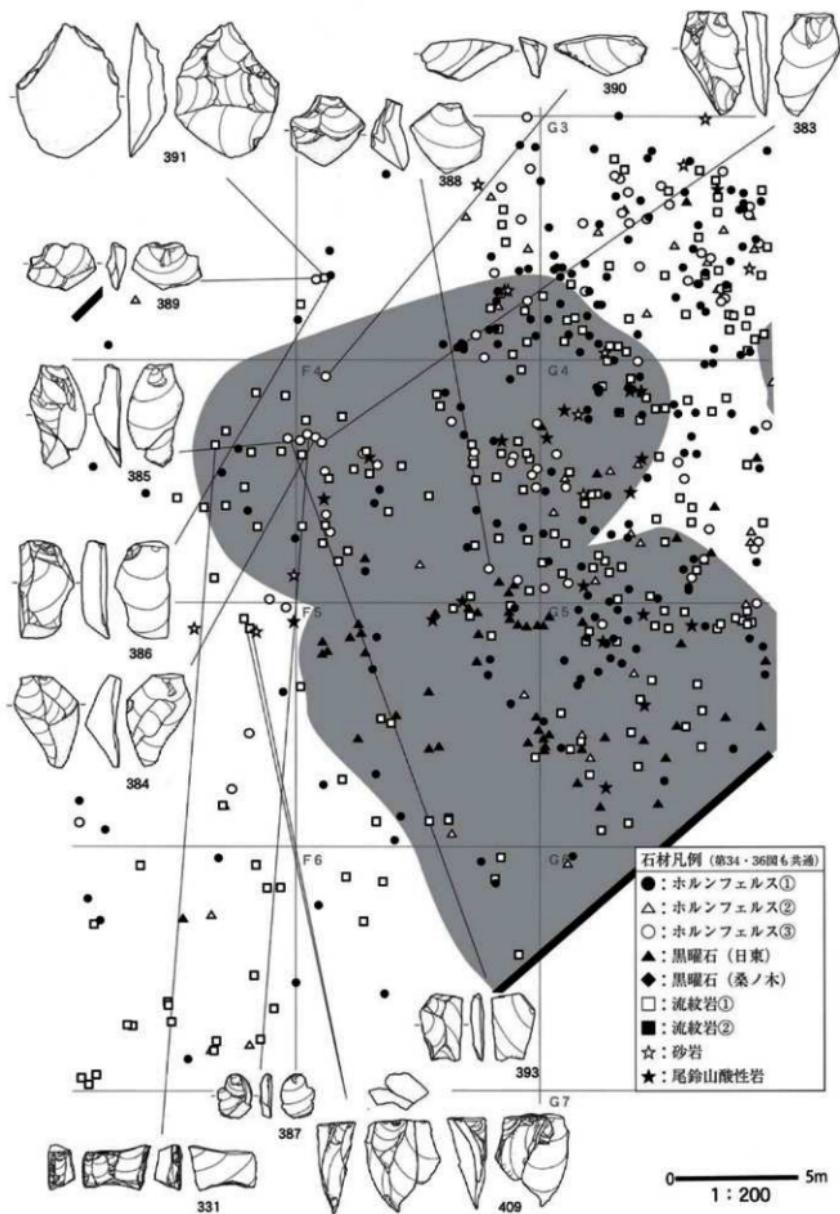
Kn…ナイフ形石器、Tr…台形様石器、Ka…角錐状石器、FP…剥片尖頭器、Sc…スクレイバー、RF…二次加工剥片、UF…微細剥離のある剥片、Fl…剥片、Ch…砂片、Co…石核、Ha…敲石、Mb…細石刃、MC…細石刃核、Cho…砾器

Gr	Kn	Tr	Ka	FP	Sc	RF	UF	Fl	Ch	Co	Ha	Mb	Mc	Cho
E6	a							4		1				
	b							8						
	c		1			1		9	1					
	d							14		2				
E7	a		1					22		1				
	b							1	26					
	c	1						3	49		1	1		
	d				1			27	1					
E8	a	1				1	1	22						
	b							2						
	c							2						
	d													
E9	a													
	b		1					1	4					
	c								6					
	d								33	1	2			1
E10	a							1						
	b													
	c													
	d													
F2	a													
	b								2					
	c								1					
	d								3					
F3	a								2					
	b								13					
	c							1	11	1		1		1
	d	1						2	1	32	1			
F4	F3				1									
	a	3	3						32					
	b	6	1						46			1	2	
	c	2	2						30					
F5	d	5	1						28		2			
	a		1						15	2	1			
	b	3	2		1	1			24					
	c	1							8	2				1
F6	d								16			1		
	a								9	1				
	b								5			1		
	c	1							2					
F7	d													
	a								2					
	b													
	c													
F8	a													
	b								1	3	1			
	c	1							4		1			
	d	1	1						18	3	1			1
F9	a								13					
	b								2					1
	c				1				3		1			
	d													
G0	G0													
	a													
	b													
	c													
G1	d													
	a													
	b													
	c													
G2	d													
	a	1												
	b									3				
	c									4				
G3	d									10				
	a	1				1			26	1	1	1		1
	b	2							2	51	1	2	3	2
	c	4	1						3	54	2	3	1	
G4	d	1				1	1		1	79	1	1		1
	a	3	1						1	50	1	1		
	b								2	28	1	3		1
	c	2	2						59	2	1	1		
G5	d									28	1	1		3
	a	3	1							38	1	1		1
	b								2	26	1			
	c	1							1	25		3		
G6	d									6	1			
	a									2				
	b													
	c													
G7	d													
	a									15				
	b									4				
	c									8	4	3	1	
G8	d									6				
	a									2				
	b													
	c													

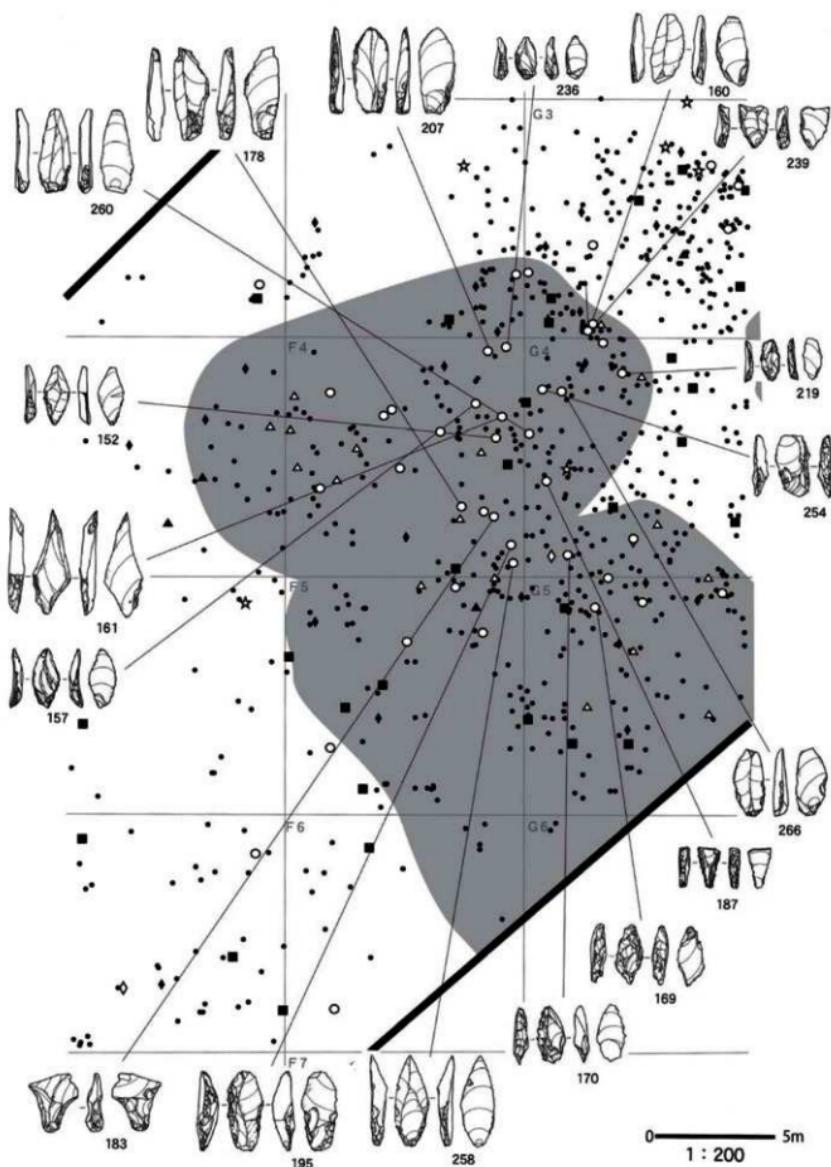
Gr		Kn	Tr	Ka	FP	Sc	RF	UF	Fl	Ch	Co	Ha	Mb	Mc	Cho
H0	a														
	b														
	c														
	d														1
H1	a														
	b														
	c														
	d														
H2	a	1							1	22					
	b		1				2	2		32					2
	c								1	18					
	d									32					
H3	a	3							1	61	1	1			3
	b	1		1			3	35	1	1				4	
	c	5					2	1	59		2			2	2
	d														
H4	a	2	4				1	1	67	1	1			1	1
	b	2	1	1	1		3	1	61		1				
	c						2		22						1
	d								46	1	1			1	1
H5	a									10					
	b														
	c														
	d														
H6	a								1	5					
	b									3					
	c									24	1				
	d	1									1				
H7	a														
	b														
	c														
	d														
I0	a						1	1	1	21	1	1		2	
	b														
	c														
	d														
I1	a								9	1	1		1		
	b	2						1	10		1				1
	c								7						
	d	2					2	2	17	2				2	1
I2	a	1							15	1	1				
	b	1	1						26		3				1
	c								6						
	d	2						2	22		1				1
I2	1														
I3	a	1					2	1	42				5		
	b	2							54	3	2	3	1		
	c	1	1				1		18		1		1		
	d	1							37			1			
I4	a		1				1		23						1
	b	1							4	1					
	c								9						
	d														
I5	c	1													
J0	c	1											1		
J1	a	1								12					
	c	2	1				3		25						1
	d								14	1					
J2	a	3	1				1		16		1	1			
	b								3						
	c	2					1		41	1	1		1		
	d							1	4	1					
J3	a		1				1		22		1				1
	b						1		22	1				3	
	c	2	1				1		24					1	
	d								2						
J4	a														
K1	b														
K2	a														
	b														
	c														
	d														
K3	a		1						2	1					
	b														
	c														
	d														



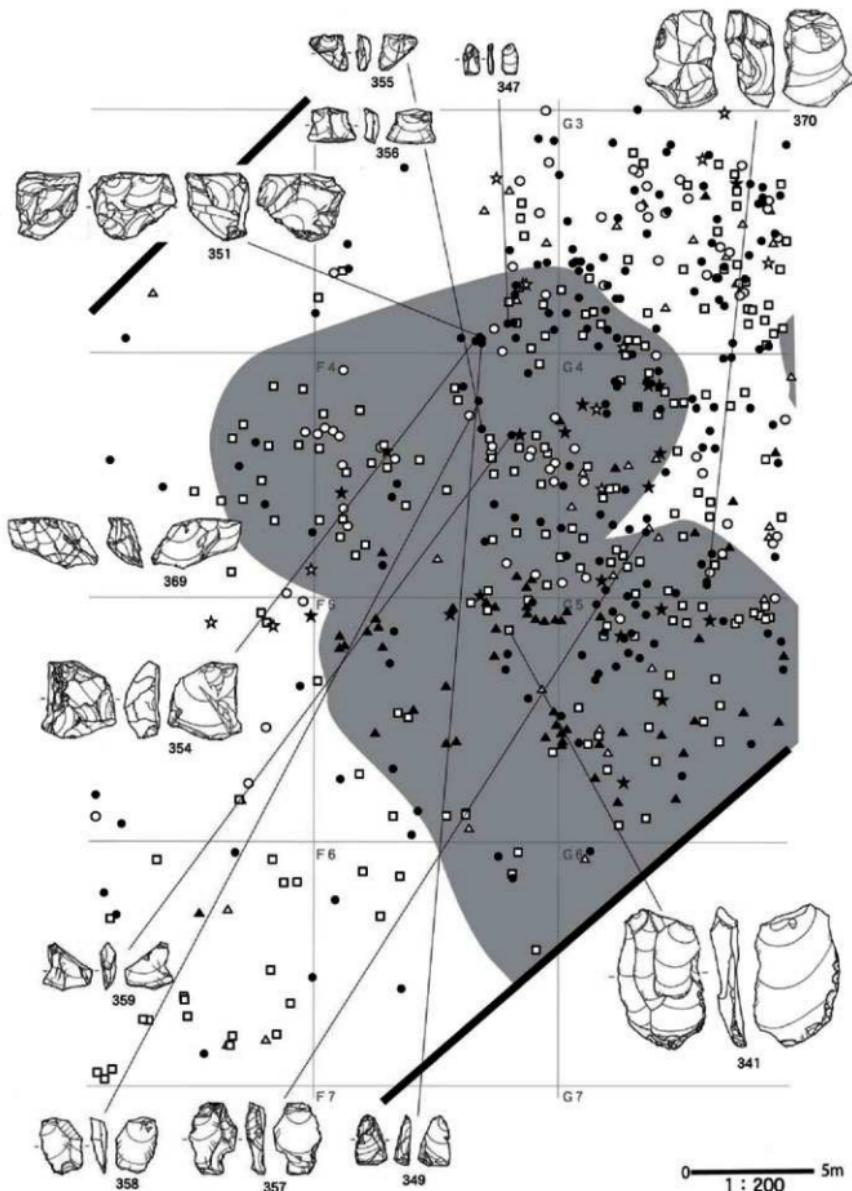
第31図 ブロックD石器分布図（器種）



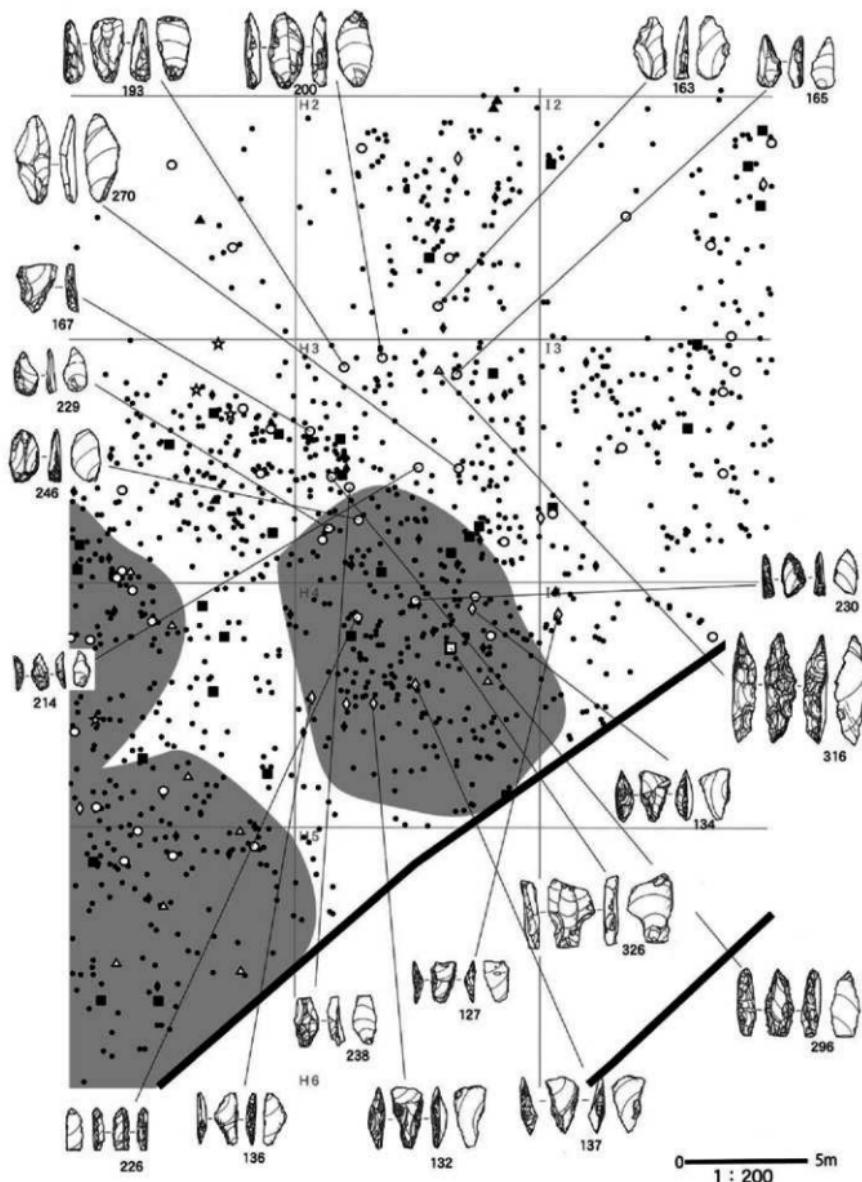
第32図 ブロックD石器分布図 (石材)



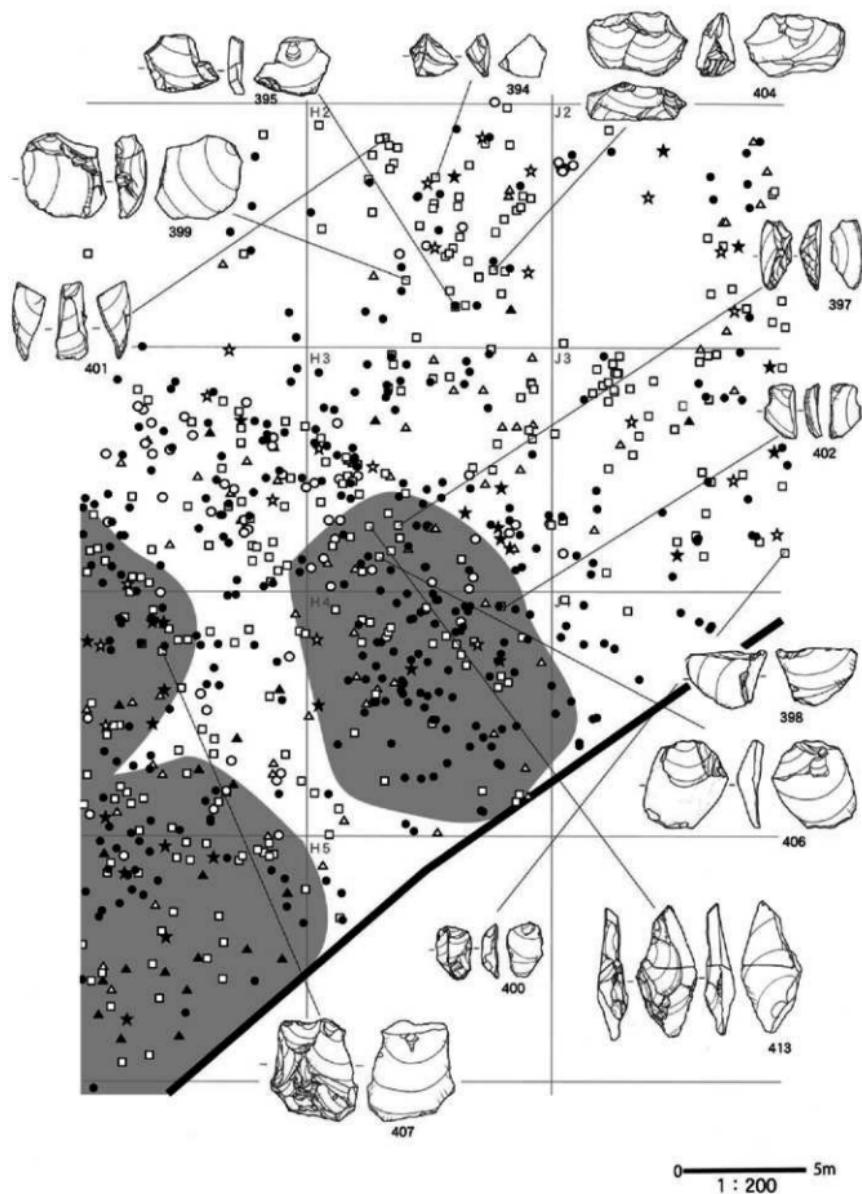
第33図 ブロックE石器分布図（器種）



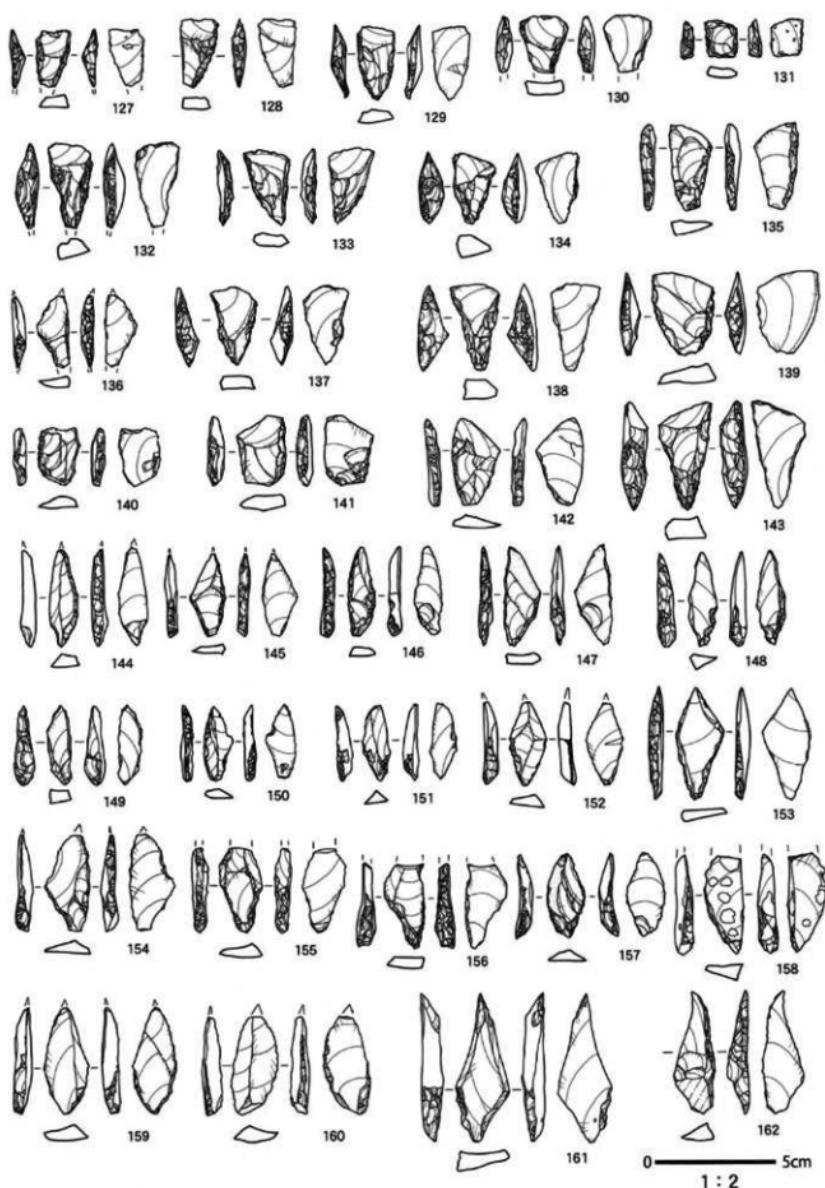
第34図 ブロックE石器分布図（石材）



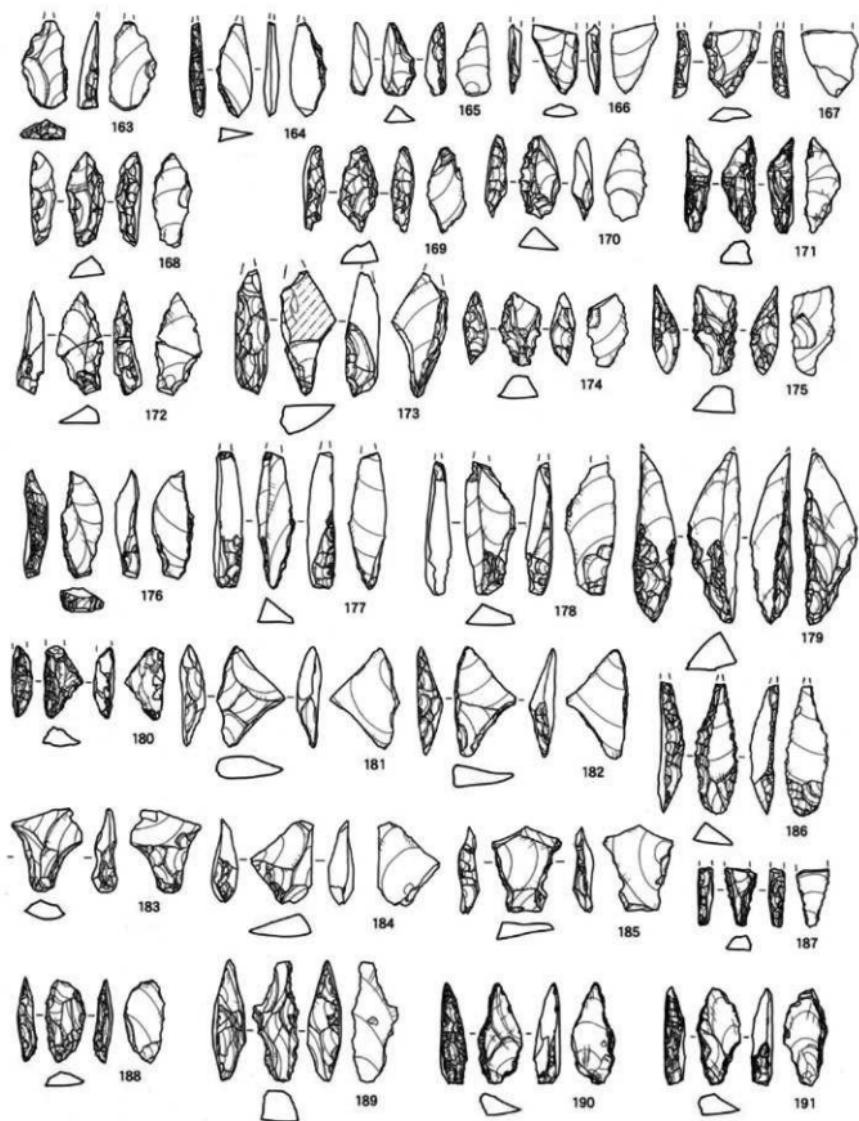
第35図 ブロックF石器分布図（器種）



第36図 ブロックF石器分布図（石材）

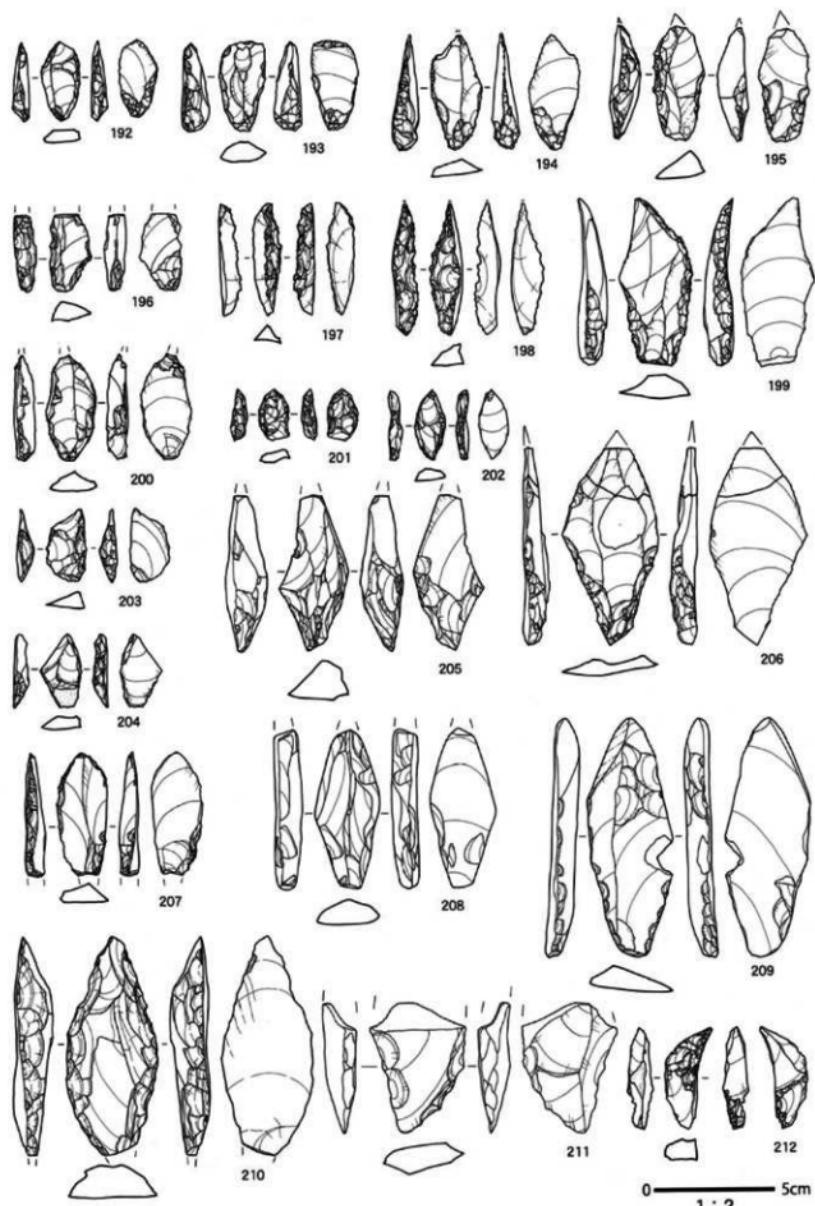


第37図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図（1）

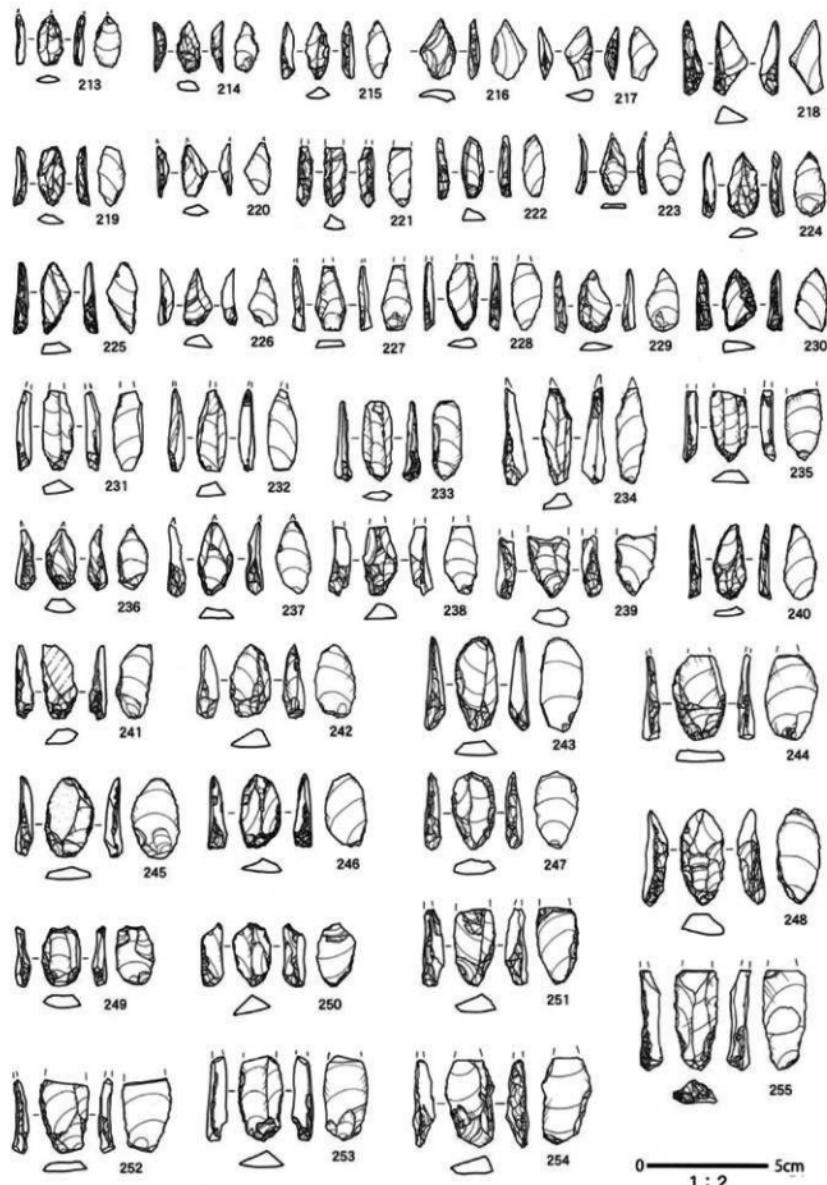


0 —————— 5cm  
1 : 2

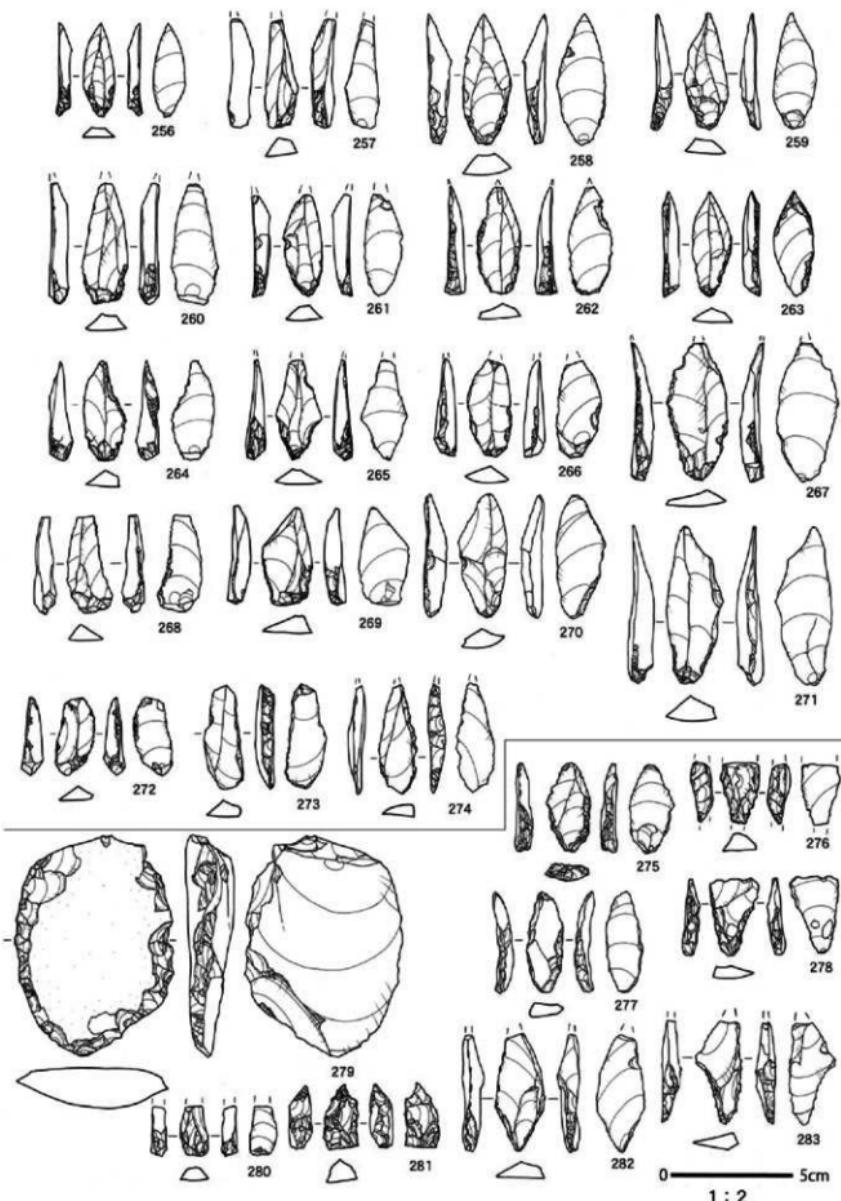
第38図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図（2）



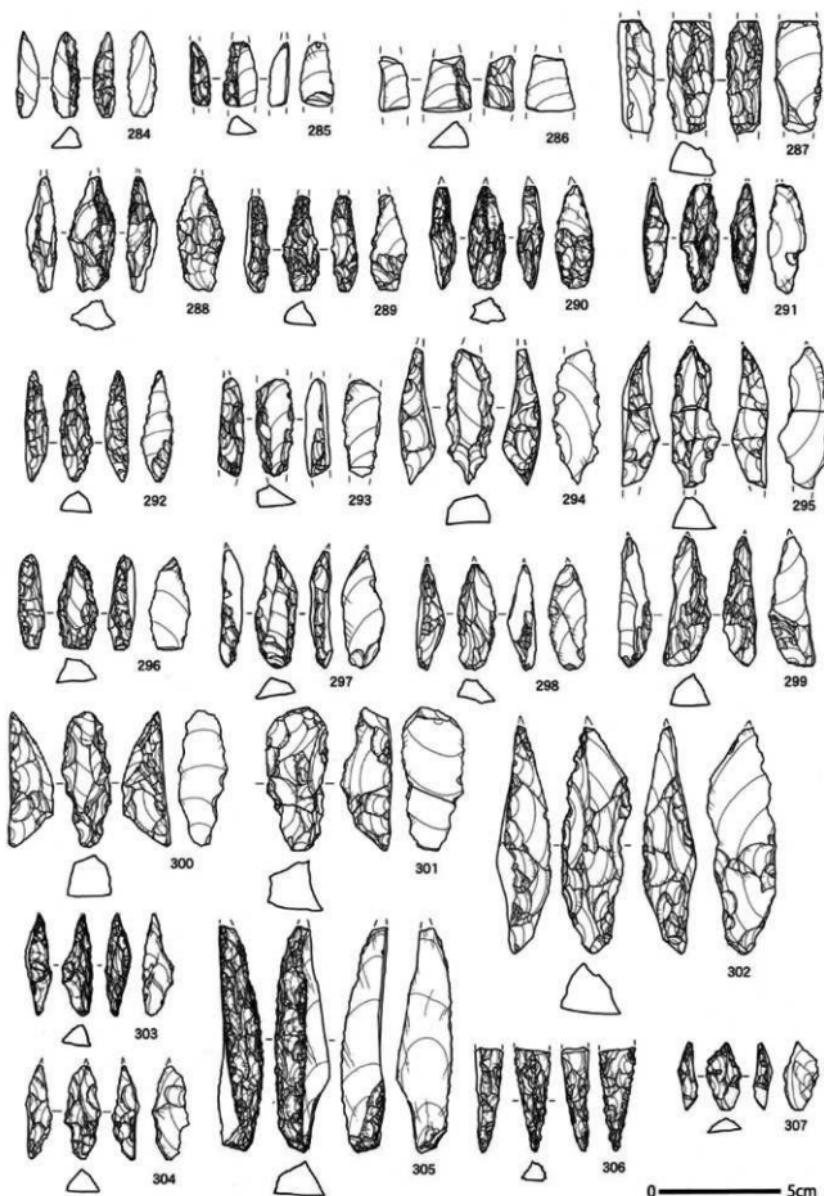
第39図 後期旧石器時代III期石器実測図 (3)



第40図 後期旧石器時代III期石器実測図（4）



第41図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図（5）



第42図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図（6）